

市場庄遺跡発掘調査報告

～松阪市六軒町所在～

2017（平成29）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例　言

1. 本書は三重県松阪市に所在する市場庄遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の調査は、二級河川三渡川河川改修事業に伴い、三重県教育委員会が三重県県土整備部から依頼を受けて実施した。
3. 調査の体制等は次の通りである。
調査主体　三重県教育委員会
調査担当　三重県埋蔵文化財センター
　　調査研究1課　主幹　嶋田元彦　谷口文隆
　　整理担当　三重県埋蔵文化財センター　調査研究1課
　　調査土工受託機関　ホクセイテック株式会社
4. 調査機関及び面積は次の通りである。
調査期間　平成27年5月27日～平成27年10月13日
調査面積　820m²
5. 調査にあたっては、地元の方々をはじめ、松阪市教育委員会、三重県県土整備部道路建設課、松阪建設事務所の多大な協力を得た。
6. 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が行い、本書の執筆は嶋田・谷口が行い、編集は谷口が行った。
7. 報告書作成にあたって、東京大学准教授　堀内秀樹氏からご教示を頂いた。
8. 金属製品錠前のX線写真は三重県総合博物館により撮影されたものを使用している。
9. 当発掘調査の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

凡　例

1. 当地は平面座標系第VI系に属しており、本書での方位は座標北を使用している。
なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
2. 遺跡地形図及び調査区位置図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2011三重県共有デジタル地図（数値地形図2500（道路線1000）」を使用し、調整したものである。（承認番号：三総合地第148号）
3. 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（21版）』（1967年初版、1997年第19版）による。
4. 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。
SD : 溝 SK : 土坑 SB : 挖立柱建物 SE : 井戸 pit : 小穴
5. 遺物実測図の縮尺は1：4を基本とし、遺物によってはその他の縮尺を便宜用いた。
6. 註は各節の文末に付し、参考文献も註に記した。
7. 遺物観察表はIV章末に付した。
8. 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
 - ・実測番号は当センター所蔵の遺物実測番号である。
 - ・色調は標準土色帖の色名（「黄橙色」など）を記す。
 - ・土器の残存率は全周を12分割して示す（例：口縁部（口）3/12）。
 - 1/12以下のものは「口縁部小片（口小片）」など
 - ・胎土の緻密さは、粗・やや粗・やや密・密の4段階である。
 - ・計測値は完存ないし復元の値である。口径・底径は実測時の接地面で計測した値とした。また、土師器皿の底径は記していない。
 - ・2面目の出土位置は地区名の右に②と記した。
9. 個別遺構詳細図・写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。
遺物写真是顕不同である。

本文目次

I	前言	鶴田	1
II	位置と環境	鶴田	3
III	層位と遺構	鶴田	13
IV	遺物	谷口	28
V	結語	鶴田・谷口	90

挿図目次

第1図	遺跡位置図	10	第24図	出土遺物実測図⑬	47
第2図	遺跡地形図	11	第25図	出土遺物実測図⑭	48
第3図	調査区位置図	12	第26図	出土遺物実測図⑮	49
第4図	遺構平面図（2面目焼土層）	20	第27図	出土遺物実測図⑯	50
第5図	遺構平面図（1面目）	21	第28図	出土遺物実測図⑰	51
第6図	遺構平面図（2面目）	22	第29図	出土遺物実測図⑱	52
第7図	西壁土層断面図	23	第30図	出土遺物実測図⑲	53
第8図	北壁・南壁・東壁土層断面図	24	第31図	出土遺物実測図⑳	54
第9図	個別遺構実測図	25	第32図	出土遺物実測図㉑	55
第10図	個別遺構実測図	26	第33図	出土遺物実測図㉒	56
第11図	個別遺構実測図	27	第34図	出土遺物実測図㉓	57
第12図	出土遺物実測図①	35	第35図	出土遺物実測図㉔	58
第13図	出土遺物実測図②	36	第36図	出土遺物実測図㉕	59
第14図	出土遺物実測図③	37	第37図	出土遺物実測図㉖	60
第15図	出土遺物実測図④	38	第38図	出土遺物実測図㉗	61
第16図	出土遺物実測図⑤	39	第39図	出土遺物実測図㉘	62
第17図	出土遺物実測図⑥	40	第40図	出土遺物実測図㉙	63
第18図	出土遺物実測図⑦	41	第41図	出土遺物実測図㉚	64
第19図	出土遺物実測図⑧	42	第42図	出土遺物実測図㉛	65
第20図	出土遺物実測図⑨	43	第43図	出土遺物実測図㉜	66
第21図	出土遺物実測図㉟	44	第44図	出土遺物実測図㉝	67
第22図	出土遺物実測図㉟	45	第45図	出土遺物実測図㉞	68
第23図	出土遺物実測図㉟	46	第46図	出土遺物実測図㉞	69

表 目 次

第1表 出土遺物観察表①	70	第11表 出土遺物観察表⑪	80
第2表 出土遺物観察表②	71	第12表 出土遺物観察表⑫	81
第3表 出土遺物観察表③	72	第13表 出土遺物観察表⑬	82
第4表 出土遺物観察表④	73	第14表 出土遺物観察表⑭	83
第5表 出土遺物観察表⑤	74	第15表 出土遺物観察表⑯	84
第6表 出土遺物観察表⑥	75	第16表 出土遺物観察表⑯	85
第7表 出土遺物観察表⑦	76	第17表 出土遺物観察表⑰	86
第8表 出土遺物観察表⑧	77	第18表 出土遺物観察表⑱	87
第9表 出土遺物観察表⑨	78	第19表 出土遺物観察表⑲	88
第10表 出土遺物観察表⑩	79	第20表 出土遺物観察表⑳	89

写真目次

表紙	92	写真図版12 出土遺物	104
写真図版1 調査区全景	93	写真図版13 出土遺物	105
写真図版2 調査区全景	94	写真図版14 出土遺物	106
写真図版3 調査区全景・個別遺構	95	写真図版15 出土遺物	107
写真図版4 個別遺構	96	写真図版16 出土遺物	108
写真図版5 出土遺物	97	写真図版17 出土遺物	109
写真図版6 出土遺物	98	写真図版18 出土遺物	110
写真図版7 出土遺物	99	写真図版19 出土遺物	111
写真図版8 出土遺物	100	写真図版20 出土遺物	112
写真図版9 出土遺物	101	写真図版21 出土遺物	113
写真図版10 出土遺物	102	写真図版22 出土遺物	114
写真図版11 出土遺物	103	写真図版23 出土遺物	115

I 前 言

1 調査に至る経過

二級河川三渡川水系河川整備計画

松阪市北部を東西に流れる三渡川は、流域面積が少ないため降水量が少ないと洪水被害が出やすい。

その反面で下流域は低地が多いため、水害も起きやすい。近年でも、平成5年と16年に流域内の百々川が台風や大雨による水量増加で越水し、周辺地域に浸水被害をもたらしている。

三渡川流域河川では治水事業が昭和40年代より実施されてきているが、流下能力の小さい狭窄部の改修や、河積不足をもたらしている鉄道橋・道路橋への対策が必要である。洪水の際に基準となる流量を安全に流下させる河道整備を進め、豪雨に対する被害を防ぐことを目標に、平成20年より三渡川水系の河川整備計画が策定された。

整備計画に基づき、旧伊勢街道の道沿いである市道三渡橋の架替えが計画され、橋の架替えと周辺の道路整備に約1,100m²の土地を工事することとなった。三重県埋蔵文化財センターは、県土整備部より工区内の埋蔵文化財について事業照会を受けた。三渡橋南岸は市場庄遺跡とされている地域であり、協議をしたうえで、平成26年12月2日に対象範囲約1,100m²について範囲確認調査を行った。その結果、検出面において遺構及び遺物が出土したため、さらに協議を進めたうえで発掘調査を実施した。

2 文化財保護法に関する諸手続き

発掘調査にかかる文化財保護法の諸通知は、以下により行われている。

・三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項

平成26年9月12日付、松建第709号

(県教育長あて県知事通知)

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

・三重県埋蔵文化財保護条例第48条第2項

平成26年9月26日付 教委第12-4078号

(県知事あて県教育長通知)

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について」

・文化財保護法第99条第1項

平成27年6月1日付、教理第68号

(県教育長あて県埋蔵文化財センター所長通知)

「埋蔵文化財発掘調査の報告について」

・文化財保護法第100条第2項

平成27年11月20日付、教委第12-4417号

(松阪警察署長あて県教育長通知)

「埋蔵文化財の発見について」

3 調査経過

(1)調査の概要

平成26年12月2日に、市道三渡橋の架け替えに伴う道路新設予定地約1,100m²を対象に、調査坑5カ所を設けて範囲確認調査を行った。その結果、調査坑1からは18世紀頃の磁器のほか、銭貨（寛永通寶）が出土し、多くの土坑が認められた。

また調査坑2からは3層の焼土層が見られ、最も下の焼土層は江戸時代の瓦を含み、その直下は被熱により硬く焼け結まっていたことから、かつて大規模な火災が発生したと想定された。

これらの結果から平成27年度に本調査を行う事を決定し、発掘調査業務（土工監理）を株式会社ホクセイティックに委託した。当初、対象地のうち410m²の面積に対して調査を開始したが、断面調査の結果、下層に焼土層を確認したため、計画を変更し2面調査を実施することになった。

(2)発掘調査の経過

調査は平成27年5月27日に開始し平成27年10月13日に終了した。詳細は以下の調査日誌抄に記す。

【調査日誌（抄）】

- 4月21日 松阪建設事務所、松阪市上下水道部と協議。
- 5月28日 調査前風景撮影。
- 6月 3日 ホクセイテックと現地協議。
- 6月12日 段階確認（現況確認）。
- 6月15日 北部の重機による表土掘削開始。
- 6月22日 段階確認（北部1面目・重機掘削）。
人力掘削・遺構検出開始。銭貨数個出土。
- 6月24日 検出面より下層で焼土層や遺構面を確認。
2面調査実施を決定。
- 6月29日 北部1面目の遺構掘削開始。
- 7月 2日 SK5・SK6・SK7の埋甕を写真撮影後、取上げ。
グリッドE列で石列と焼土層を確認。
E2グリッドから木桶出土（中に寛永通寶が1枚）。
- 7月 9日 北部1面目の清掃及び全景写真撮影。
- 7月13日 段階確認（北部1面目・人力掘削）。
北端より2面目の重機掘削開始。
焼土層の広がりを確認。
- 7月14日 職場巡視で所長以下4名来跡。
銷着した銭貨15枚が出土。
- 7月15日～7月17日 台風11号の接近に伴い発掘作業を中止。
- 7月21日 段階確認（北部2面目・重機掘削）。
- 7月24日 北部2面目の人力掘削・遺構検出開始。
終了後北端から遺構掘削開始。
- 7月28日 SK240から貝殻出土（コンテナバット10箱）。
- 7月29日 北部2面目の清掃及び全景写真撮影。
- 7月30日 段階確認（北部2面目・人力掘削）。
- 7月31日 下層確認。北壁・西壁の土層断面図追加。
- 8月 1日～16日 三渡川橋梁工事に伴う仮設橋設置作業のため調査中断。
- 8月17日 調査再開。南部の掘削作業準備。
- 8月18日 南部調査区、変更部分の段階確認。
- 8月21日 南部の1面目も焼土層を確認。
- 8月24日 段階確認（南部1面目・重機掘削）。
- 8月27日 1面目の遺構検出終了、遺構掘削開始。
銭貨、煙管の雁首、土錐が出土。
- 8月31日 南部1面目全景写真撮影。
- 9月 2日 段階確認（南部1面目・人力掘削）
重機掘削開始、2面目の目安となる焼土層を検出する。
- 9月 4日 段階確認（南部2面目・重機掘削）。
- 9月10日 2面目遺構検出終了、遺構掘削を開始。
- 9月11日 東壁が崩落、けが人なく、修復作業行う。
- 9月15日 挖立柱建物を確認（SB317）。
南部2面目全景写真撮影。
- 9月16日 段階確認（南部2面目・人力掘削）。
- 9月19日 地元説明会実施。（来場者97人）
- 9月25日 遺構完掘、遺物取上げ図面作成。
- 9月26日 H2～J2グリッド下層確認、埋甕取上げ。
ブレハブ内片付け終了。
- 9月27日 南部埋戻し開始。
- 9月30日 現場機材等撤去終了。
- 10月13日 調査終了。

（嶋田）

II 位置と環境

1 地理的環境

市場庄遺跡(A)は、行政区分上において松阪市六軒町から市場庄町にかけて所在する。

松阪市は、東は明和町、西は奈良県、南は多気町・大台町、北は津市と接し、面積623.77km²と広い市域をもつ。東は伊勢湾、西は大台山系に接し、海岸部から山間部までに及んでいる。そして市内には海に向かって西から東へ河川が複数流れている。

その一つである三渡川は、松阪市小坂町の鉢ヶ峰(418m)の麓に源を発し、松阪市西部を東流しながら岩内川、堀川、百々川等の支川を合流し、松阪市松崎浦において伊勢湾に注ぐ流路延長約21.1km、流域面積約54.31km²の二級河川である。中下流域の地形は扇状地性低地（主に砂礫層からなる堆積平野）や三角州性低地（シルト、粘土などを主体とした氾濫原）などで、流域のほぼ半分を占めている。また、中下流域の平坦地における地質は、未固結の礫層を主体とする冲積層の堆積物で形成されている⁽¹⁾。

六軒町や市場庄町周辺の地形環境も、三渡川水系の河川によって形成された冲積平野をベースとして、それに付随する微地形によって特徴づけられる。

一般的な自然堤防や後背湿地に加え、特徴的な微地形として、沿岸流などの影響によって海岸線付近に形成された砂堆がある。砂堆は通常、海岸線と並行に伸びており、旧三雲町では周囲から50cm程度高い細長い微高地が、河川による分断は受けつつも点在している。砂堆上には集落や畠が見られるほか、旧伊勢街道もこの砂堆群の上を通っている⁽²⁾。

市場庄遺跡も三渡川右岸の標高1.0~1.0m程度の後背湿地から、標高1.0~2.5m程度の砂堆上に伸びる街道沿いにかけての場所に位置している。

2 歴史的環境

六軒町の周間にある旧三雲町内・嬉野町内、そして松阪市内には、いくつかの遺跡が知られている。それらの遺跡から見られる特徴と、周辺地域も含め

た歴史について「三雲町史」を中心にまとめる⁽³⁾。

（1）古代以前

① 繩文時代

六軒町の約1.5kmほど南西にある上ノ庄北出遺跡(B)において、後期旧石器時代末期～繩文時代草創期頃のものと考えられる有舌尖頭器が出土している。このことは、六軒町を含む旧三雲町の地域において、砂堆や溝溝の形成が旧石器時代末期以降のものであることを示している。この上ノ庄北出遺跡より海側、中ノ庄集落以東の地域はその時期以降に河川・海浜による堆積作用によって形成されたものであると考えられている⁽⁴⁾。

また、北東側に約4kmほど離れた所にある前田町屋遺跡(C)からは、繩文時代晩期の浮線網状文を施してある土器が出土している。この遺跡は雲出川河口に近い微高地上にあり、繩文時代の晩期には、当時の人々が何らかの活動をしていたと考えられており⁽⁵⁾、同様に三渡川の河口付近の微高地上においても、人々が活動の場としていたのではないだろうか。

② 弥生時代

六軒町から南西に1km以内の所にある中ノ庄遺跡(D)から、遠賀川系土器の土器が豊富に出土している。中ノ庄遺跡は市場庄遺跡と同様に、砂堆上に位置する遺跡であり、二千数百年前には海に接していた可能性が非常に高い。この地域で弥生時代前期の拠点ともいえるような遺跡が発見されていることは、稻作と水運の密接な関係を示すと考えられている⁽⁶⁾。

近い地域では、旧嬉野町にある筋違遺跡(E)でも弥生時代前期の溝や構で区画された居住城・水田跡が確認されている⁽⁷⁾。しかし、弥生時代中期の「拠点的集落」と言えるような遺跡は、旧三雲町の周辺地域では見つかっていない。その後の時代の遺跡としては、六軒町から北東方向に約4kmほど離れた雲出川沿いの舞出北遺跡(F)や、北に約3kmほど離れた西肥留遺跡(G)などから、弥生時代後期の周溝墓

群や掘立柱建物などの遺構、高坏や壺、甕などの遺物が発見されている⁽⁸⁾⁽⁹⁾。また、六軒町から三渡川に沿って西に約2kmあまり離れた場所にある田村西瀬古遺跡(H)でも、標高3~4m程度の自然堤防上に2基の方形周溝墓や井戸、土坑などが発見されており、遺物としては方形周溝墓から高坏や台付壺、土鍤など、井戸からは中期の弥生土器の壺と高坏の一部が出土している⁽¹⁰⁾。

③古墳時代

前期では前田町屋遺跡において、初頭前後に形成された周溝墓群が見つかっている。弥生時代に見られた方形周溝墓群の流れの上にあるとみられており、雲出川をはさんだ位置にある雲出島貫遺跡(I)のものとはほぼ同じ時期に形成されたと考えられている。周溝墓は3基確認され、墳形は1辺が8~12m程度の方形と考えられている。遺物としては、二重口縁壺や円形浮文をもつ壺、鉄鍤などが出土している⁽¹¹⁾。

後期では、中ノ庄遺跡において、砂堆上の標高2~3mの低地に古墳の周溝が発見されている⁽¹²⁾。他、雲出川の自然堤防上に位置してはほぼ同じ標高である小野江甚目遺跡(J)、舞出北遺跡からも複数の小規模墳が見つかっている。小野江甚目遺跡からは2基の古墳が発見され、そこから馬形埴輪をはじめ円筒埴輪、土師器、須恵器などの遺物が出土している⁽¹³⁾。舞出北遺跡からは5世紀~6世紀前半につくられたと考えられる5基の古墳が見つかり、その中の1基からは主体部や埴輪列が確認されている。周溝内にはベンガラが入っていたと推定される須恵器も見つかり、それ以外にも鉄刀や埴輪をはじめとする様々な副葬品が出土している⁽⁸⁾。後期につくられた古墳が存在する場所は、古墳時代前期前半頃の集落や墳墓群が形成されていた場所とほぼ重なる、自然堤防や砂堆上の低地である⁽¹⁴⁾。

それ以外には、上ノ庄北出遺跡から土坑や溝とともに後期の土師器や須恵器が出土している⁽¹⁵⁾。また、上ノ庄宮ノ腰遺跡(K)からは古墳時代の様々な時期の遺構・遺物が発見されており、前期は丸底壺・器台・鉢・高坏・壺・甕など、中期は堅穴住居2棟と甕・壺、そして後期は須恵器杯・有蓋高坏や土師器鉢・高坏・壺・甕などがあり、後期には土器の破片などが出土している⁽¹⁶⁾。

それ出土している⁽¹⁶⁾。

④飛鳥時代

飛鳥時代以降、仏教の伝播とともに寺院建設が各地で進むが、旧三雲町内の地域ではこの時期の寺院跡は見つかっていない。遺跡としては中林・中道遺跡(L)において7世紀代前半と考えられる井戸や溝が発見され、須恵器杯蓋・杯身や土師器甕が出土しているくらいである⁽¹⁷⁾。

⑤奈良時代

舞出北遺跡で7世紀末~8世紀前半と推定される集落跡が発見され、付近では小規模な鍛冶が行われていた可能性が示唆されている⁽¹⁸⁾。また、前田町屋遺跡においては奈良時代後半以降の堅穴住居・掘立柱建物や溝が発見され、「宅」と書かれた墨書き器が出土し、一志郡衝関連の開発拠点施設のようなものであると推定されている。地理的な位置と、雲出川対岸に位置する雲出島貫遺跡の例から考えると、東国方面に向かうための港湾施設のようなものがあったのではないかとも考えられている⁽¹⁹⁾。また、田村西瀬古遺跡からは、掘立柱建物3棟や柵跡、溝、素掘りの井戸などが見つかり、遺物としては井戸から須恵器杯蓋・杯身・甕、土師器杯身・甕の破片が大量に出土している⁽¹⁸⁾。

⑥平安時代

舞出北遺跡において11世紀代の掘立柱建物や溝、幕、12世紀代と考えられる耕作溝群が検出され、遺物としては京都系土師器皿や山茶碗、猿投の灰釉陶器碗などが出土している⁽⁸⁾⁽¹⁸⁾。また、中林・中道遺跡において、前期から中期にかけての掘立柱建物や井戸が発見されている。特に、掘立柱建物については、建物の向きから建築時期が2時期に分かれると考えられ、大型で公的な施設であった可能性があると考えられている。これらからは、灰釉陶器の椀や土師器の杯・甕・皿、黒色土器の椀、志摩式製塙土器の破片などが出土している⁽¹⁷⁾。

また、上ノ庄宮ノ腰遺跡からは、末期の遺構として溝2条が見つかり、遺物としては12世紀中~後葉頃の土師器や白磁瓶、山茶碗が出土している。土師器には小皿や皿のほか、いわゆる「ロクロ土師器」が出土している。また、土師器甕は南伊勢系統のものと考えられているほか、山茶碗には尾張・渥美の

ものが見受けられる⁽²⁰⁾。

また、平安時代は各地に荘園が増加していく一方、武士団が形成されていく時期もあるが、現在も各地にある「堀ノ内」という地名と当時の荘園との間に関係があると考えられる。研究者によって、武士団が地域に展開する支配形態の中核的概念として位置づける場合もあれば、「堀」を灌漑用水路ととらえて地域開発の中核的機能と考えたり、農業経営の基地や交通の拠点、商業・手工業センターなどとも考える場合もある⁽²¹⁾。

旧三雲町内にも2箇所「堀ノ内」という地名が見受けられるが、そのうち1箇所が六軒町にはほど近い、中ノ庄字堀ノ内である。この場所は、中ノ庄村の北端、三渡川に接する場所である。平安時代、六軒町を含む地域は醍醐寺領曾祢莊と考えられる。現在の市場庄・久米・中ノ庄・上ノ庄地区を中心とした荘園であり、天慶二年（939年）に朱雀院領から醍醐寺領に施入された記録が残っている。堀ノ内の地名が残る場所は、荘園支配の中心的な役割を果たす建物などが置かれていた可能性が高いのではないかと考えられている⁽²²⁾。

『醍醐雜事記』天暦七年（953年）八月五日付「民部省符」には、曾祢莊の水田が140町10歩あったとする記録がある。当地に遺存していた条里型地割から単純集計すると、上ノ庄地区だけで110町ほどあり、耕地は主に上ノ庄・久米集落周辺に求められたと考えられている。それ以外の中ノ庄、市場庄地区については、二つの地区間に「浜田」という小字名が残っていることからして、海岸部に近く低湿地であったためあまり耕作には適さなかったことが考えられている⁽²³⁾。

この曾祢莊がおかれた地域は砂堆と自然堤防が展開する低地であるため、居住地は概ねこれらの微高地に求められることになる。中世の時期の集落も、これに重複すると考えられている⁽²⁴⁾。

平安時代における旧三雲町の地域について、もう一つ考えておきたいのは、後の時代につながる交通路としての位置づけである。

朝廷の取り入れていた駅制のもと、この地域にも駅路に沿って一志駅家がおかれていた。一志駅家は10世紀後半に市村駅家（現在の津市殿村周辺に位

置）の代わりに設けられ、おそらく旧三雲町曾原か曾原茶屋のあたりにあったと考えられている⁽²⁵⁾。

源雅実「雅実公記」の長治二年（1105年）八月十七日条によると、雅実はこの日、豪雨で川が増水することを恐れて鈴鹿を早立し、辰刻に「渾山」という場所を過ぎて雲出川に至り、船で渡河して申刻に一志駅家に到着している。しかも、到着してみると駅家は「奇怪」な仮屋で、衣装の入った櫃などの荷物が到着していない。理由を札すと、雲出川を渡るのに人馬が多い上に船が少なく、さらに駅家の北路が満ち潮のために不通になっているためであったと記している。また、帰路の八月二十一日条には、駅家北側の道について「潮満、干間殆所及午後」とあり、帰洛するにあたって、冠水による不通を恐れて駅家を早立ちしたことが見えている。これらの記録からも、一志駅家の周辺であった旧三雲町の地域は、満潮時にはほとんど孤立してしまうような立地であったことがわかる⁽²⁶⁾。

また、一志駅家からさらに南へ下って行った所に「下見橋」という橋があったことが、承保元年（1074年）に記された源経信の『承保元年記』や、永久二年（1114年）に伊勢に下向した藤原宗忠の日記『中右記』に書かれている。この「下見橋」は、国衙管轄の飯高郡と神郡であった飯野郡との郡境にあたると考えられる金剛川ないしは真盛川に架かっていた橋であると考えられている⁽²⁷⁾。このことについて、中世の鎌倉時代の記録をもとにみていく。

（2）中世

①鎌倉時代

舞出北遺跡から、12世紀後半から13世紀後半にかけてつくられたと考えられている掘立柱建物や積石を伴う土壙墓をはじめ、井戸、溝や土壙墓群が検出されている。遺物としては、渥美産陶器椀・大甕・小甕や知多産陶器椀・小甕、常滑産陶器大甕、南伊勢系土師器鍋・小甕などが出土している⁽²⁸⁾⁽²⁹⁾。伊勢湾をはさんで、現在の愛知県側との盛んな交流があったことが考えられている。

また、中林・中道遺跡からは平安時代後期から鎌倉期にかけての条里型地割に沿った溝と掘立柱建物、井戸が確認された。遺物としては、土師器や土師質土器の甕、黒色土器や山茶椀の椀、白磁碗などが出

土している⁽¹⁷⁾。

この鎌倉時代、12世紀中頃に記された鶴長明『伊勢記』には次のような話が記されている⁽²⁷⁾。

「みわたりと云ふ所あり、塙干ぬれば、こなたのさきよりかなたのさきへ、なかばみちぬる時は、めぐりて松崎と云ふ所をわたる、しほみちこえぬれば、これらをばえわたらで、猶遠くめぐりて、いちはという所をわたるなり、しほひにしたがいて渡の三所にかはれば、みわたりとは云ふなりと云々」

この文章には、13世紀代前後の曾祢莊近隣の情景が描かれている。この当時の街道は海沿いに伸びていて、干潮の時にはそのまま「すさき」「洲・崎」を通れたが、潮が半ば満ちている時にはやや回り道をして「松崎」「松崎浦」周辺を渡り、さらに満潮の際には「いちは」「市場庄」周辺を渡ったと考えられている。三渡川の渡河地点は3箇所であったが、渡河後さらに南下する際の経路は「松崎」「市場」の2経路であったと推定されている。最も西側の経路である「市場」が満潮時に潮入した可能性があることは、「定多源浜津」とする「野路」の状況に一致しているので、『伊勢記』に見える「松崎」「市場」の2経路は、前述した「承保元年記」の「浜路」「野路」の名残ではないかと考えられている⁽²⁸⁾。

②室町時代から戦国時代・安土桃山時代

旧三雲町内で、室町時代から戦国、安土桃山時代にかけての遺跡としては、舞出北遺跡や中林・中道遺跡、小津遺跡(M)が発見されている。

舞出北遺跡では、東西・南北に伸びる溝により区画された屋敷地8区画を検出した他、屋敷地内部から掘立柱建物4棟と井戸が確認されている。掘立柱建物の柱穴からは、瀬戸産陶器碗底部や猿投・知多産陶器碗などが出土している。また、井戸からは井戸枠や水溜の曲物が見つかった他、掘方からは知多産・猿投産の陶器皿、井戸枠内からは15世紀後半代の南伊勢系土師器や知多産陶器練鉢、渥美産陶器碗、さらに井戸枠下層からは南伊勢系の土師器皿・鍋も出土した⁽²⁹⁾⁽³⁰⁾。

中林・中道遺跡からは、15世紀後半から16世紀にかけて、条里地割の溝を活かしたと考えられている3区画の屋敷地が確認されている。遺物としては南伊勢系の土師器皿・鍋や渥美型の山茶碗などが見つ

かった他、区画溝からは“蘇民将来”などが墨書きされた祝符木簡が出土している⁽³¹⁾。

小津遺跡は、六軒町から三渡川を渡って北へ1kmほど離れた位置にあり、六軒町と同じく伊勢街道沿いに位置する遺跡である。この遺跡からは、15世紀～16世紀前半頃の異なる時期に、場所を替えながら周囲に区画溝をめぐらせたいつかの屋敷地が確認されている。それらの中からは、掘立柱建物の柱穴や井戸なども合わせて見つかっている。16世紀後半にはそれまでの溝が埋まり、集落は南寄りの現在の場所に移転して、水田・畠などの耕作地に変化したと考えられている。調査区で見つかった屋敷地の周囲の区画溝の向きや幅などから、室町時代の頃にも屋敷地周辺に街道が通っていた可能性が高いと考えられ、その延長線上にある六軒町の付近も、その時期同様に街道が通っていたと考えられている⁽²⁹⁾。

室町時代以降の六軒町周辺の様子であるが、まず醍醐寺所蔵の貞和三年（1347年）九月四日付「年貢請文」によると、六軒町のあたりを含めた曾祢莊はこの時期、三つの郷に分けられていたとわかる⁽³²⁾。

現在の地域と重ねて考えると、概ね次のようになるとされている。

下郷：市場庄、中ノ庄地区

上郷：上ノ庄地区

久米郷：久米地区、松崎浦・松ヶ島地区

また、同じく醍醐寺所蔵の暦応二年（1339年）六月付「醍醐寺所司等言上状」の内容からは、松崎浦が領内であり、そこに「付置当庄船於同所」曾祢莊の湊があったと考えられている。市場庄集落東縁部から松ヶ崎町・松崎浦町にかけて「舟入」「浜新田」「北浜田」「塩越」などの小字名が見られ、地形的に見てこのあたりの土地は中世以前には入海であり、松崎浦から曾祢莊内陸部への舟運が想定され、地形的に見て市場庄集落の北端部である現在の六軒町周辺にその船着場を想定することができると考えられている⁽³³⁾。

戦国時代に入り、各地に戦国大名の支配地が広がる中、曾祢莊に対しても一志郡・飯高郡を本貫地とする伊勢国守北畠氏の勢力が及んでくる。第七十四代醍醐寺座主であった満済の記した『満済准后日記』によれば、1430年から1436年の前後に北畠氏が

曾祢荘の権益を有していたことが理解されている。曾祢荘の代官職には北畠氏の一族衆大河内氏が任じられ、15世紀前半には支配体制を整えたようであるが、16世紀前半で「曾祢荘」の名は史料から見えなくなるようである⁽³²⁾。

曾祢荘のあった地域の記録として次に見えるのは、太閤検地の検地帳写の記録である。ここには、上之庄村、中之庄村、市場庄村の三村それぞれの文様三年の記録が見受けられる⁽³³⁾。

(上之庄村)

上田	53町 8 反 3 畝 3 歩 (55.8%)
中田	12町 6 反 2 畝 20 歩 (13.1%)
下田	9 反 8 畝 5 歩 (10%)
上畠	22町 6 反 3 畝 2 歩 (23.5%)
中畠	3町 5 反 14 歩 (3.6%)
下畠	2町 8 畝 24 歩 (2.2%)
屋敷	7 反 9 畝 17 歩 (0.8%)
合計	96町 4 反 5 畝 25 歩

(中之庄村)

上田	35町 1 反 4 畝 20 歩 (40.3%)
中田	27町 1 反 1 畝 27 歩 (31.1%)
下田	7町 7 反 9 畝 16 歩 (9.0%)
上畠	11町 3 反 9 畝 3 歩 (13.1%)
中畠	3町 6 反 9 畝 18 歩 (4.2%)
下畠	9 反 9 畝 5 歩 (11%)
屋敷	1町 6 歩 (1.2%)
合計	87町 1 反 4 畝 5 歩

(市場庄村)

上田	4町 2 反 5 畝 22 歩 (6.2%)
中田	15町 4 反 5 畝 23 歩 (22.5%)
下田	23町 4 反 4 畝 8 歩 (34.0%)
上畠	5町 7 反 15 歩 (8.3%)
中畠	6町 5 反 8 畝 6 歩 (9.5%)
下畠	12町 3 反 22 歩 (17.9%)
屋敷	1町 9 畝 15 歩 (1.6%)
合計	68町 8 反 4 畝 21 歩

上之庄村、中之庄村はいずれも上田、中田や上畠が全体の高い割合を占めているのに対して、市場庄村は下田、下畠の割合が高く、上田、上畠の割合が低いのは2村とは対照的である。また、田畠屋敷総計のデータは検地帳写に見る「七百四十一石五斗」

に比べて百石以上も少なくなっている。これは荒地分に相当するもので、市場庄村の記録に残る永荒地の特徴は、一筆あたりの面積が大きく、持ち主のない耕地として活用されていない広い荒地があったことは明らかである⁽³⁴⁾。

市場庄周辺の小字名には「しをこし」「ふるやしき」「古市場」などがあり、古屋敷・古市場などはこの時期すでに街道の整備が進んだ結果、屋敷や市場の位置が変化したことを示していると考えられている。この小字名が残る場所は現在の米の庄神社の近くに位置し、近世の街道よりも東側、海に近い位置にある。屋敷地は三十八筆あり、塩浜も十九筆ある。十九筆のうち二筆は永荒、九筆は荒とある上に名前には「主なし」とあって、実質塩浜としての機能を失っていたと考えられている⁽³⁵⁾。

(3)近世

①六軒町とその周辺地域の様子

今回、調査を行った松阪市六軒町のある地域が繁栄するきっかけとなったのは、天正十六年（1588年）に蒲生氏郷が四五百森に松坂城を築き、それまで海寄りのルートを通っていた街道を、城下町の中を通るようにしたことである。それにより、伊勢街道は現在の六軒町を通るようになった。また、ちょうど三渡川右岸すぐの所から奈良方面に向かう初瀬街道が分岐する道分になり、江戸時代の中期、18世紀以降次第に発展したようである。

当時、六軒町のあたりはまだ市場之庄村の枝郷であった。しかし、間もなく宝曆十年に三波村として市場之庄村から独立を果たす⁽³⁶⁾。おそらく、街道を通る参宮客相手にした茶屋や旅籠などの仕事が発展し、ある程度経済的な力がついたことが考えられる。宝曆十三年に記された『新撰伊勢道中細見記』には、六軒の様子について「茶や宿や多し」と紹介されており、繁栄していたことがうかがえる⁽³⁷⁾。しかし、その理由は記録には残っていないが、天明四年（1784年）に再度市場之庄村の枝郷に戻っている⁽³⁸⁾。

その後、記録に残るものとしては、文化九年（1812年）に当地を訪れた益子広三郎一行が昼食をとり代金四十文を支払ったこと、「留め女」が大勢いて、街道の途中まで出て旅人を引き留めていたようで

ある⁽³⁹⁾。三年後の文化十二年には、三波橋の架け替えにともない、仮橋の架橋費用も含めてすべての費用を紀州藩が負担したという記録が残っている。また、現在も残る三波橋たもとの常夜燈も、文政元年（1818年）に大坂の人が維持費をまかなうための二反半の田をつけて寄進されたという⁽⁴⁰⁾。

文政六年（1823年）には、再度三波村が市場之庄村からの独立を果たす⁽⁴¹⁾。しかし、独立したために、以後は三波橋の維持管理を三波村単独で行うようになる。翌文政七年には、三波橋の修繕について「岩崎家文書」に次のような記録が残っている⁽⁴²⁾。

奉断候口上

一參宮往還土橋

右土橋之儀左右高櫛芝井芝持板破損仕其儘ニ難差置御座候付、取繕ひ仕度段先達而奉願候処、御見分之上御許容被為成下難有被存申合入念相仕申候儀御座候、仍之御断申上候、此段宜被仰上可被申候、已上

申聞八月 三渡肝煎 彦右衛門

同 庄屋 藤九郎

青木半右衛門

三波橋が傷んだために、その修理について認めるよう求めている様子がわかる。三波村として、橋の営繕費用を積み立てるようにしていたようであるが、その見通しを狂わせたのが文政十三年に起きた「おかげ参り」の動きである。

記録によれば、500万人もの人々が全国各地から伊勢に参宮に訪れ、そのうちの多くが三波村を通り、三波橋が傷んだため修復が必要となった。しかし独立後間もなく、積立金に不足した三波村は、紀州藩に不足分の貸付を頼い出た記録も残っている⁽⁴³⁾。

当時の三波村には九軒の旅籠があって、往来する旅人の世話をしていた⁽⁴⁴⁾。六軒が伊勢街道と初瀬街道の追分であった関係で、伊勢街道から奈良街道が分岐する月本との間で参宮客の誘致合戦が行われていたようである。月本の追分に現在も残る道標が建てられたのが天保十三年（1843年）それに対抗して翌年には三波村の橋のたもとにも道標が建てられたと言われている⁽⁴⁵⁾。

慶応二年（1866年）の三波村願状には「松坂領三渡り之儀、新田小高、家数五拾八軒、八才以上人數

武百四十人、作間稼ニ茶屋・旅籠屋・旅人商ヒ、或ハ日雇稼ヲ以、渡世仕相凌來リ候」とあり、参宮街道を往来する旅人相手の生業、茶屋・旅籠屋などが、住民の主たる生活形態であった⁽⁴⁶⁾。集落も街道沿いに形成され、現代でも家並みが続いている。

②周辺の遺跡について

一方、旧三雲町内で発掘調査による近世の遺構・遺物についての記録は少ない。

舞出北遺跡においては、15世紀後半から18世紀後半まで機能していた水路や、19世紀前半の遺物を含む遺構が見つかっている。遺物は肥前系・瀬戸美濃産の陶磁器が大半を占める⁽⁴⁷⁾。

前田町屋遺跡においては、古墳の周溝であった場所から2基の井戸が見つかっている。1基からは木材を組み合わせた方形の井戸枠と木製の曲げ物が出土し、中世後期～近世初期と考えられる。もう1基からは常滑産の陶製井戸枠3段と2段の結樋が出土し、18世紀以降のものと考えられる⁽⁴⁸⁾。

上ノ庄宮ノ腰遺跡においては、口縁部形態や素地粘土の状況から常滑産と考えられる陶器枠を用いた18世紀末から19世紀前半にかけての井戸が発見され、そこから桟瓦や陶磁器類が出土している⁽⁴⁹⁾。

もう少し範囲を広げて、伊勢街道を南に進むと阪阪市の市街地に広がる松坂城下町遺跡（N）がある。

平成27年度は、伊勢街道から北東側に150～300mほど離れた場所で工事立会が行われた。そのあたりは海拔6m前後であるが、西を流れる阪内川の川岸の海拔とは1mも変わらないぐらいの高さである。

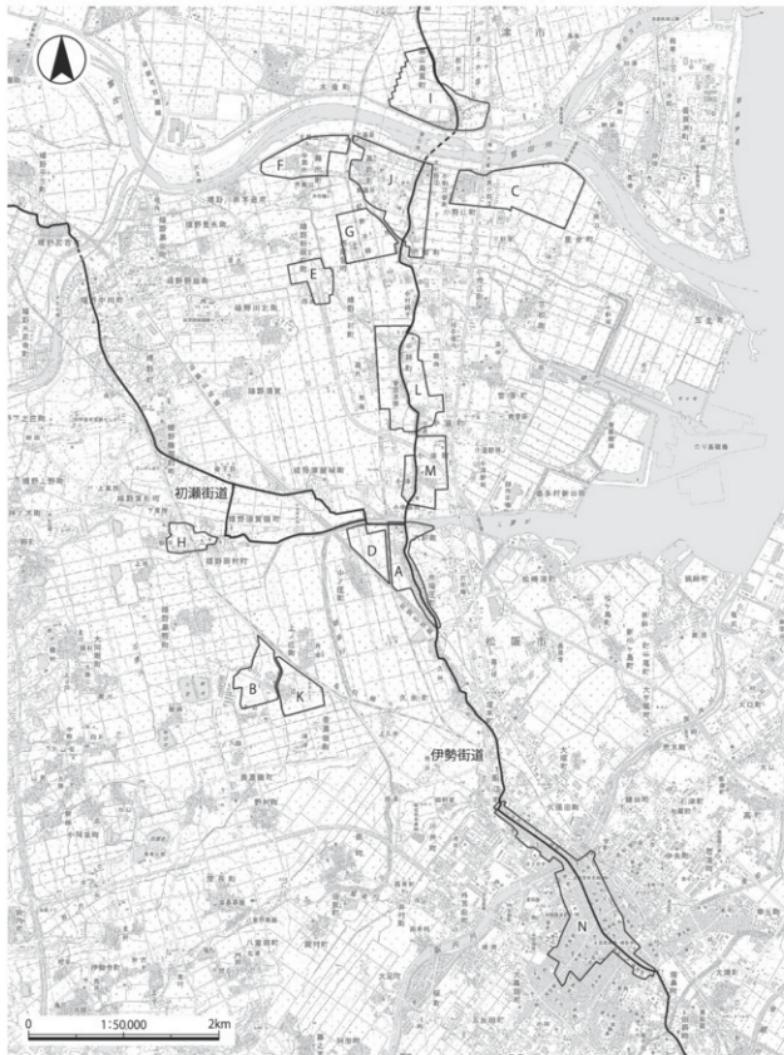
おそらく、元来は洪水の際には阪内川からあふれた水に浸かりやすい、湿地のような場所であったと考えられている。事実、工事立会の際に確認した土層からは、18世紀後半までは湿地帯であった場所を、城下町の拡大とともに50～60cm程度土を積み上げて整地し、その上に町屋が建てられた様子がわかると報告されている。その周囲からは、江戸時代後期、市場庄遺跡から出土したものとほぼ同じ時期のものとみられる陶磁器や箸、下駄などの生活用品や、アカガイ、アサリ、サザエ、アワビの貝殻などが出土している。遺構も、埋甕や井戸跡などが見つかっている⁽⁵⁰⁾。（鷲田）

〔註〕

- (1) :「二級河川 三渡川水系河川整備計画」三重県, 2008年
- (2) :『三雲町史 第一巻 通史編』2003年(以下『三雲町史』) P. 6~7
- (3) :以下、旧三雲町内地域の各時代の状況については、三雲町発行『三雲町史 第一巻 通史編』および松阪市発行『松阪市史 別巻2』(1985年)の記述を参照した。
- (4) :『三雲町史』P.116~117
- (5) :『三雲町史』P.118~120
- (6) :『三雲町史』P.123~124
- (7) :三重県埋蔵文化財センター『筋違遺跡(第2・3次)発掘調査報告』2014年
- (8) :三重県埋蔵文化財センター『舞出北遺跡 発掘調査報告』2007年
- (9) :三重県埋蔵文化財センター『西肥留遺跡 発掘調査報告(第1・2・3・5次)』2008年
- (10) :三重県埋蔵文化財センター『田村西瀬古遺跡』1999年
- (11) :三重県埋蔵文化財センター『前田町屋遺跡(第2次調査)』1999年
- (12) :三重県埋蔵文化財センター『中ノ庄遺跡 発掘調査報告』1972年
- (13) :三重県埋蔵文化財センター『小野江甚目遺跡・小野江甚目古墳群 発掘調査報告書』1999年
- (14) :『三雲町史』P.133~134
- (15) :三重県埋蔵文化財センター『上ノ庄北出遺跡 発掘調査報告』1998年
- (16) :三重県埋蔵文化財センター『宮ノ腰遺跡 発掘調査報告Ⅰ』1997年
- (17) :三重県埋蔵文化財センター『中林・中道遺跡 発掘調査報告』2009年
- (18) :三重県埋蔵文化財センター『舞出北遺跡 発掘調査報告2』2010年
- (19) :『三雲町史』P.154
- (20) :三重県埋蔵文化財センター『宮ノ腰遺跡 発掘調査報告Ⅱ』1999年
- (21) :『三雲町史』P.157~159
- (22) :『三雲町史』P.171~172
- (23) :『三雲町史』P.157~165
- (24) :『三雲町史』P.200~201
- (25) :『三雲町史』P.202~204
- (26) :『三雲町史』P.204
- (27) :『三雲町史』P.165
- (28) :『三雲町史』P.165~166, 206~207
- (29) :三重県埋蔵文化財センター『小津遺跡 発掘調査報告』2007年
- (30) :『三雲町史』P.166
- (31) :『三雲町史』P.166~171
- (32) :『三雲町史』P.228~229
- (33) :『三雲町史』P.273~274, 277~278
- (34) :『三雲町史』P.273~276(35) :『松阪市史 別巻2』P.185
- (36) :『三雲町史』P.378
- (37) :『松阪市史 別巻2』P.187
- (38) :『三雲町史』P.379
- (39) :『伊勢街道』1986年、三重県教育委員会、P.71
- (40) :『松阪市史 別巻2』P.190
- (41) :『松阪市史13巻 資料編 御用留』1981年、P.143
- (42) :『三雲町史』P.377~378
- (43) :『三雲町史』P.379
- (44) :『三雲町史』P.380
- (45) :『三重県の地名』平凡社、1983年、P.526
- (46) :三重県埋蔵文化財センター『発掘成果報告会資料』2016年

【参考文献】

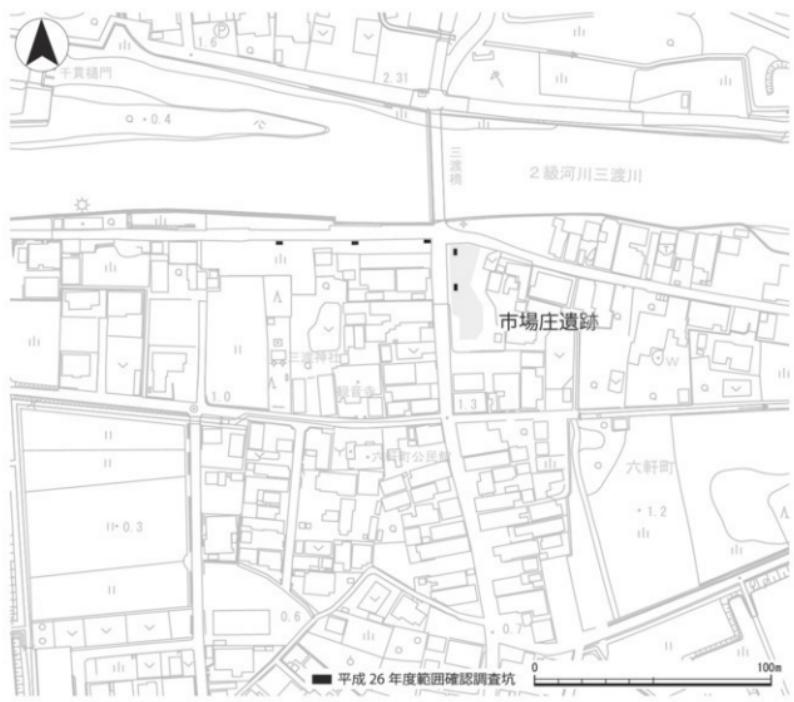
- ・三雲町 2003 『三雲町史 第一巻 通史編』
・松阪市
 1981 『松阪市史 13巻 資料編 御用留』
 1985 『松阪市史 別巻2』
・平凡社 1983 日本歴史地名大系第24巻『三重県の地名』
・伊藤裕作 2007 『中世伊勢湾岸の湊津と地域構造』
・三重県教育委員会
 1972 『中ノ庄遺跡 発掘調査報告』
 1986 『伊勢街道』
・三重県埋蔵文化財センター
 1997 『宮ノ腰遺跡 発掘調査報告Ⅰ』
 1997 『前田町屋遺跡(第1次) 発掘調査報告』
 1998 『上ノ庄北出遺跡 発掘調査報告』
 1999 『宮ノ腰遺跡 発掘調査報告Ⅱ』
 1999 『前田町屋遺跡(第2次調査)』
 1999 『小野江甚目遺跡・小野江甚目古墳群 発掘調査報告』
 1999 『田村西瀬古遺跡』
 2003 『田面遺跡 発掘調査報告』
 2004 『筋違遺跡 発掘調査報告 - 第1分冊 -』
 2007 『小津遺跡 発掘調査報告』
 2007 『舞出北遺跡 発掘調査報告』
 2008 『西肥留遺跡 発掘調査報告(第1・2・3・5次)』
 2009 『中林遺跡・中道遺跡 発掘調査報告』
 2010 『舞出北遺跡 発掘調査報告2(第1次・第2次調査(下層) 及び第3次調査)』
 2014 『筋違遺跡(第2・3次) 発掘調査報告』



第1図 遺跡位置図 (1 : 50,000)【国土地理院「仰木」「松阪港」「大河内」「松阪」1 : 25,000より作成】



第2図 遺跡地形図 (1:5,000)



第3図 調査区位置図（1:2,000）（トーンは調査区）

III 層位と遺構

1 基本層位

調査区は三渡川右岸の砂堆上に位置する。標高は、調査前の北側で23m、南側で19mである。遺構面の2面調査を行い、上面では標高14m、下面では0.9mである。

土層断面図は1面目・2面目をとおして、北壁・西壁・南壁の全面と、東壁の一部を図示した。

1面目 遺構検出の基本となる層は、焼土層のすぐ下にあった褐色細砂層である。調査区のある地域は三渡川の氾濫による土砂の度重なる堆積があり、焼土層を手掛かりに遺構検出面を決定した。三渡川にはほぼ直交する向きに延びる砂堆上であり、三渡川の上流側や下流側に100mほど離れた場所と比較すると1m程度高い場所にあるとはいえ、同じように土砂の堆積が見られる。

2面目 上面の堆積粗砂層の下に、さらに焼土層が確認できたため、下面の遺構検出も行った。遺構検出の基本となる層は、上面と同じく焼土層の直下にあったオリーブ褐色粗砂層である。下面の掘削調査後にさらに下層確認を行ったが、海拔0.7mより下がると湧水が発生し、確認できた下層は堆積由来の粗砂層であった。

2 遺構

(1) 1面目

掘削中に礎石とみられる円礫が多く出てきた。きちんと建物の所在を示すほど規則的かつ多数揃っていることはなかったが、何らかの建築物の基礎として用いられていたことは確かで、複数の建築物があったことを示している。

また、北側では焼土が數カ所に点在していることも確認された。

井戸

調査区内では、三渡川に比較的近い位置から、井戸が1基検出された。

S E 3 B 2～3、C 2～3グリッドで検出された、

東西3.8m、南北3.5mの方形の井戸である。近世につくられ、六軒町に簡易水道が敷設された今から五十数年前まで使われていた（地域住民の話による）。その後埋め立てられたため、中からはビニール線など現代遺物が出土した。

土坑

調査区の北側から18基、南側で14基検出された。
S K 4 B 3、C 3グリッドで検出した東西・南北それぞれ約22mのほぼ円形を呈する不定形の土坑である。深さは最深部でも約18cmである。染付の磁器や瓦などが出土しており、時期は18世紀中葉と考えられる。

S K 5 (第9図) D 4グリッドで検出した、常滑の壺や肥前の大皿、瓦などが出土した土坑である。壺の破片は東西60cm、南北40cmの範囲にかたまっている。シジミやアカガイの貝殻も出土した。時期は18世紀中葉と考えられる。

S K 6 (第9図) C 3グリッドで検出した、常滑の壺が埋設された土坑で、SK 20を切る。壺以外にも、染付の磁器や瓦が出土している。時期は18世紀中葉と考えられる。

S K 7 (第9図) C 4グリッドで検出した土坑である。輪状の陶器が埋設されており、壺以外にも陶器碗や瓦が出土している。時期はSK 5やSK 6よりも若干新しい18世紀後葉と考えられる。

S K 8 A 2～3グリッドから検出した土坑で、東西2m、南北2.5mのほぼ円形を呈している。北側と南側にそれぞれやや深いところがあり、北側で約20cm、南側で約25cmである。SK 16に切られる。瓦が出土しており、時期としては18世紀中葉と考えられる。

S K 9 A 3、B 3グリッドで検出した土坑で、東西2m、南北2mにわたって複雑な形で広がり、深さは約20cmである。北西側をSK 15により切られている。17世紀末の染付の磁器小片が出土しているが、調査した遺構面の高さから考えると、流入したもの

と考えられる。

S K10 B 3 グリッドで検出した土坑で、東西2m、南北15mの楕円形である。棟瓦が出土している。

S K11 B 4 グリッドで検出した土坑で、東西0.9m、南北1.1mの不定形である。最深部は約20cmの深さで、瓦が出土している。

S K13 B 3 グリッドで検出した土坑である。全体的には2~3cmの深さしかないところが多いが、北側の一部で深さが約25cmになる部分がある。陶器片や、アサリ・アカガイ・ハマグリの貝殻が出土している。

17世紀末の陶器鉢が出土したが、調査した遺構面の高さから考えると、流入したものと考えられる。

S K14 B 3 グリッドで検出した土坑である。深さは約3cmと浅く、幅は東西・南北に1m弱である。陶器土瓶が出土し、時期は19世紀中葉と考えられる。

S K15 A 3 グリッドで検出した東西1.6m、南北1.2m、深さ約30cmの楕円形土坑である。常滑鉢とともにサザエ・ハマグリ・シジミ・巻貝の貝殻が出土している。S K9 を切っており、時期としては18世紀以降と考えられる。

S K16 A 2 グリッドで検出した土坑で、S K8 を切っている。東西70cm、南北50cmの範囲にわたり土坑が楕円形に広がり、深さは約20cmである。北側をS D 1 に切られており、時期は18世紀中葉～後葉と考えられる。

S K17 B 4・C 4 グリッドで検出した東西1.8m、南北2.0m、深さ約25cmの楕円形の土坑である。S K26に切られている。かわらけ、瓦が出土している。

S K18 C 2 グリッドで検出した東西0.9m、南北1.1m、深さ約15cmの楕円形の土坑である。丸椀や瓦、二次焼成痕のある磁器が出土しており、時期は18世紀後葉と考えられる。

S K19 C 2・D 2 グリッドで検出した土坑で、東側をS K20 に切られている。東西・南北それぞれ2mの範囲に複雑な形で広がり、深さは約10cmである。常滑甕や瓦が出土している。切り合ひ関係から、時期は18世紀中葉と考えられる。

S K20 C 2~3・D 2 グリッドで検出した東西3.2m、南北2.6mの不定形の土坑で、S K19を切り、S K 6 に切られている。深さは最も深いところでも約10cmである。北側中央部と南側から大きさ20cm程

度の石が複数個1箇所に集まって出土した。他にも甕や擂鉢、瓦が出土しており、時期は18世紀中葉と考えられる。

S K21 E 2 グリッドで検出した東西・南北各90cm、深さ約30cmの円形の土坑である。近世の錢貨2枚と、丸椀、輪錙茶碗が出土しており、時期は18世紀末と考えられる。

S K26 C 4 グリッドから検出した東西40cm、南北50cmの円形の土坑で、S K17を切っている。深さは約3cmとごく浅い。

S K47 J 3 グリッドで検出した東西0.6m、南北0.5mの楕円形の土坑で、埋土は暗褐色砂質土であり、土師器皿や常滑甕が出土した。

S K48 I 3・J 3 グリッドで検出した東西2.0m、南北4.5mの不定形の土坑である。深さは約15cmで、中央部には焼土や炭が見られる。また、瀬戸の陶器片口鉢、焰燈、瓦片やシジミの貝殻が出土し、時期は18世紀後葉と考えられる。

S K49 J 3 グリッドで検出した東西1.0m、南北0.9m、深さは約10cmの方形を呈している土坑である。埋土は黒褐色土に礫が混じる。染付磁器の小片や瓦が出土している。

S K50 I 2 グリッドで検出した土坑で、調査区西端に近い位置を細長い楕円形で東西方向に延びる。東西に1.1m、幅0.6mで、深さは約15cmである。

S K51 H 3 グリッドで検出した土坑で、東西1.6m、南北0.9m、深さは7~8cmである。

S K52 H 2~3 グリッドで検出した東西90cm、南北60cm、深さは約10cmの楕円形の土坑である。常滑の陶器小片が出土している。

S K53 (第9図) H 3~4 グリッドで検出した土坑で、赤褐色の常滑甕が埋設されている。埋土は黒褐色土である。

S K54 (第9図) I 3~4 グリッドで検出した土坑で、常滑の輪状の陶器が埋設されている。筒型香炉や瓦などが出土し、時期は18世紀中葉と考えられる。

S K55 H 4 グリッドで検出した土坑で、東西1.6m、南北0.4mと東西方向に長い。シジミやアサリなど小型貝の貝殻の他、陶器椀が出土している。時期は18世紀後葉と考えられる。

S K56 (第9図) H 4 グリッドで検出した土坑で、常滑の甕が埋設されている。瓦などが出土している。

S K57 I 4・J 4・K 4 グリッドのカクラン土坑の下から検出した土坑で、近世の遺物が出土している。東西2.2m、南北2.7m、深さは約40cmになる。かわらけや陶磁器が多く出土し、時期は18世紀後葉と考えられる。

S K58 G 1～2 グリッドで検出した土坑で、東西0.7m、南北1.6mと南北に長いひょうたん型をしている。褐色土に礫が混じった埋土で、深さは約10cmと浅い。

S K59 (第9図) J 4 グリッドのカクラン土坑の下から検出した。調査区南東端に常滑甕の破片がまとまって出土した。他にも広東椀の蓋や、京焼風の肥前陶器が出土しており、時期は19世紀前葉と考えられる。調査区外へと続く。

S K60 J 4 グリッドのカクラン土坑の下から検出した。常滑甕の破片が集まって出土している。常滑火鉢が出土している。

溝

調査区の北部では7条検出されているが、南部では検出されていない。北部の方が自然堤防で標高も高い。

S D1 A 1～4、B 3～4 グリッドで検出した。調査区北端を三渡川と並行に延びている道に伴う溝状の遺構である。長さ13m、幅は調査区端から40～60cm、深さは15～20cmであり、S K16を切っている。出土した遺物は椀や焰烙、擂鉢、甕がある。時期は18世紀中葉～後葉と考えられる。

S D2 B～E 1 グリッドで検出した。調査区西端を南北に流れる溝状の遺構である。長さは15mで、幅は調査区端から最大で1m、深さは約20cmである。伊勢街道に沿って、道と建物の間にあったと考えられる。

S D12 A 4、B 4 グリッドで検出した溝としたが、北は S D1 に切れ、東は調査区外へと続くため、規模は不明である。深さは約5cmとごく浅い。

S D22 D 3～4・E 2～3 グリッドで検出した溝で、東西10mで、調査区東端で北に3m延びる。東は調査区外のため、規模は不明である。菊皿など多

くの遺物が出土しており、時期は18世紀前葉と考えられる。

S D23 D 2 グリッドで検出した溝で南北方向に90cm、幅30cmで細長い楕円形である。深さは約3cmとごく浅い。

S D24 (第9図) E 2～3 グリッドで検出した溝状の遺構である。石が配列してあるが、この石列は土地の境界を示すものか、水を流す水路として用いられていたものではないかと考えられる。遺物が多く出土しており、時期は18世紀と考えられる。

S D25 E 2 グリッドで検出したもので、東西50cm、南北60cm深さ約15cmである。小規模で浅く、溝としたが土地の窪みを整地したものではないかと考えられる。

(2) 2面目

2面目の掘削作業に入ると、広い範間にわたって焼土層が広がっていることがわかった。この面が生活面であった時期に、調査区全面に広がる火災があったことが考えられる。遺構としては、掘立柱建物1棟、土坑76基、多数のピットが検出されている。

掘立柱建物

S B317 (第10図) E 1～3・F 1～3・G 2～3 グリッドから検出されたもので、東西2間×南北3間で南側と東側に庇がつく建物である。柱穴は検出面下約1mと深く、庇の部分の柱穴の深さが50cmに収まるものがほとんどであるとの対照的である。街道沿いに建てられたものらしく、向きも街道とは平行している。遺構の時期は18世紀後半と考えられる。

土坑

北側では19基、南側では57基が検出された。1面目に比べると、形のまとまった楕円形や円形の土坑が多い傾向にある。1面目でも数箇所見られた埋甕に関係する土坑が2面目でもあり、位置も街道から見て建物の裏手になる東側に多いものが多い。

S K227 A 2 グリッドで検出した土坑で、幅は東西60cm、南北55cmで隅丸の方形である。深さは約15cmであり、陶器が出土している。

S K229 A 2グリッドで検出した土坑で、S K227とS D228の間に位置しており、その2造構と同様に内部から10cm大の石が見つかった。それ以外には、瓦片も出土している。造構の規模は、幅東西60cm、南北50cm、深さは約5cmである。

S K230 (第11図) A 4・B 4グリッドで検出した土坑で、東西0.9m、南北1.0mに甕が埋設されている。S K241を切っており、深さは約20cmになる。埋土は黒褐色土と黄褐色土が混じっている。瓦片や鉢、擂鉢、丸椀や燔壺などに加え、アカガイも複数出土している。遺物の時期は19世紀初頭と考えられ、上層から切り込んだ造構と考えられる。

S K231 A 3グリッドで検出した東西0.8m、南北1.4mの楕円形を呈する土坑で、北側が深くなっているが約5cmと浅い。瓦や燔壺が出土している。

S K232 (第11図) A 2グリッドで検出した、常滑甕が埋設された土坑である。

S K233 B 2グリッドで検出した土坑で、東西0.6m、南北1.0m、深さは約18cmである。アカガイの貝殻と炭が出土している。

S K234 B 2グリッドで検出した土坑で、すぐ南側にあるS K233と同様に南北に細長く、東西0.6m、南北1.1mの楕円形である。埋土に炭や焼土が含まれている。磁器が出土している。

S K235 B 3・C 3グリッドで検出した直径40cm、深さ約45cmの円形の土坑である。

S K236 B 2グリッドで検出した土坑で、S E 3に南東部を切られている。S K233やS K234と同様、炭が出土している他、瓦も出ている。

S K238 B 2グリッドで検出した土坑で、S E 3に北東側を切られている。深さは約15cmで、埋土には炭が混じり、瓦片が出土している。

S K239 C 3・D 3グリッドで検出した土坑で、S K245を切っている。東西1.3m、南北1.1mの範囲に扇形に広がり。深さは約25cmである。10cm大の石が数個集まって出土した。土層は、にぶい黄褐色細砂の上に薄い炭層があり、さらにその上に強く被熱した焼土（明黄褐色砂質土）がある。アサリやアカガイの貝殻が出土している。

S K240 B 3～4グリッドで検出した東西18m、南北19m、深さ約0.7mの円形の土坑である。多数

のアカガイの貝殻が出土しており、今回の調査で最も大量に出土した造構である。まとめて遺棄されたものと考えられ、貝類としてはアカガイ以外にもシジミやマダカアワビが出土している。

S K241 (第11図) B 4グリッドで検出した土坑で、S K230に切られている。東西1.3m、南北1.1mの範囲に常滑甕の破片が多数出土している。深さは約20cmで、甕の破片は廢棄されたものが集まっていると考えられる。さらに土坑の下層からは常滑甕が出土し、どちらの甕も18世紀前葉のものであると考えられる。

S K242 D 2・E 2グリッドで出土した土坑で、東西1.1m、南北1.4mの範囲にわたり不定形に広がっている。二次焼成痕のある磁器皿が出土した。

S K243 (第11図) C 3グリッドで検出した東西1.3m、南北0.9m、深さ約18cmの楕円形の土坑である。石皿やすり鉢、土師鍋が出土している。時期は17世紀後葉と考えられる。

S K244 D 3グリッドで検出した東西70cm、南北55cm、深さ約40cmの楕円形の土坑で、S K245を切る。

S K245 C 3・D 3グリッドで検出した土坑で、S K239、S K244に切られている。東西2.2m、南北1.1mに不定形に広がっている。

S K246 E 2～3グリッドで検出した土坑で、東西1.4m、南北1.8mに不定形に広がる。最も深い南寄りの部分で、深さ約40cmである。丸瓦や擂鉢が出土している。

S K261 J 2～3・K 2～3グリッドで検出した東西1.1m、南北0.9m、深さ約15cmの円形の土坑で、灰褐色の埋土である。瓦、腰鎬茶碗、丸椀と貝殻が出土しており、時期は18世紀後葉と考えられる。

S K262 J 2グリッドで検出した土坑である。直径60cmの円形で、西側は調査区外へと続く。深さは約50cmで、褐色の埋土には焼土や炭が含まれている。擂鉢が出土し、時期は18世紀前葉と考えられる。

S K263 K 3グリッドで検出した土坑で、幅、東西60cm南北50cm、深さ約13cmで、埋土は黒褐色土である。瓦質土器が出土している。

S K264 J 3グリッドで検出した土坑で、S K269の南端を切っており、時期は17世紀後葉以降である。

東西1.4m、南北0.3mに細長く梢円形を呈している。深さは約20cmである。埋土は褐色土で、瓦が出土している。

S K265 J 3 グリッドで検出した土坑で、S K270を切っている。東西1.2m、南北1.1mの不定形である。肥前陶器が出土したほか、埋土には焼土や炭が含まれている。

S K266 J 2 グリッドで検出した土坑で、西は調査区外へと続く。深さは約15cmである。埋土は黒褐色土であり、瓦が出土している。

S K267 J 3 グリッドで検出した土坑で、直径65cmの円形であり、深さは約15cmである。褐色土の埋土であり、陶器皿が出土している。時期は17世紀後葉と考えられる。

S K268 J 4 グリッドで検出した土坑で、S K269に切られている。東西50cm、南北55cmの梢円形で、深さは約30cmである。埋土は黒褐色土であり、常滑甕や土師器皿が出土している。

S K269 J 3 グリッドで検出した土坑で、東西2.4m、南北1.3mの不定形である。検出面からの深さは5~10cmと浅い。S K268を切り、S K264に南端部を切られている。灰褐色土の埋土で、くらわんか椀が出土した。時期は17世紀後葉と考えられる。

S K270 J 3 グリッドで検出した土坑で、S K265に切られている。幅、東西0.7m南北1.2m、深さは約8cmである。埋土には焼土や炭が含まれる。土師器皿が出土した。

S K271 J 4 グリッドで検出した土坑で、S K274・S K307を切っている。東西1.1m、南北1.3mの不定形で、埋土には焼土や黄橙褐色ブロックが含まれる。18世紀前葉の遺構と考えられる。

S K272 I 2 グリッドで検出した土坑で、S K273の南西部を切っている。西側は調査区外に延びている。深さは約8cmである。瓦や被熱した磁器が出土し、時期は17世紀後葉と考えられる。

S K273 I 2 グリッドで検出した土坑で、S K272に南西部を切られ、S K276の西端部を切っている。西側は調査区外に延びている。深さは約10cmである。10~15cm大の石が多数出土したほか、摩耗した擂鉢が出土している。時期はS K272と同様、17世紀後葉と考えられる。

S K274 I 3 ~ 4・J 3 ~ 4 グリッドで検出した土坑である。東西3.2m、南北2.1mの不定形である。深さは約15cmである。くらわんか椀の完形で底部外面に「太明年製」と字が書かれていたものが出土している。京焼風の陶器や土器が多く出土している他、アカガイの貝殻も見つかっている。時期は17世紀末と考えられる。

S K275 I 3 グリッドで検出した土坑で、東西0.9m、南北1.6mの不定形で、深さは約12cmになる。埋土は灰褐色土で、擂鉢が出土している。時期は18世紀前葉と考えられる。

S K276 H 2 グリッドで検出した土坑で、西端部を S K273に切られている。東西1.1m、南北0.4mと細長く、深さは7~8cmである。

S K277 I 4 グリッドで検出した東西0.9m、南北1.2m、深さ約15cmの土坑である。焰烙が出土している。

S K278 I 4 グリッドで検出した土坑で、幅東西80cm南北70cm、深さは約10cmである。

S K279 I 4 グリッドで検出した土坑で、西側の一部をPit 4 に切られている。幅、東西1.8m南北1.4m、深さは約10cmである。擂鉢、焰烙、ミニチュア土器が出土し、時期は17世紀後葉と考えられる。

S K280 H 4 グリッドで検出した東西1.1m、南北1.1m、深さ約10cmの梢円形の土坑である。紅小皿や土師器皿が出土し、時期は18世紀前葉と考えられる。

S K281 H 2 グリッドで検出した土坑で、幅、東西1.9m南北1.6m、深さは約10cmである。南西部から焼土が見つかっている他、焰烙や焼けた磁器が出土している。時期は17世紀末と考えられる。

S K282 (第11図) H 3・I 3 グリッドで検出した南北に長い土坑で、東西1.5m、南北4.8mである。南西部で S K308に切られる。深さ約45cmであるが、S K308や土坑の部分を除くと5層ほどの埋土があり、時期差はない。そのいずれにも焼土や炭が含まれている。火事で焼けた物をまとめて捨てた土坑ではないかと考えられる。底に刻印した陶器や青磁、見込蛇の目釉剥ぎ磁器、瓦が出土している。17世紀末から18世紀初頭にかけての時期と考えられる。

S K283 H 3 グリッドで検出した土坑で、東西30

cm、南北90cmに細長い楕円形を呈している。深さ約15cmで、灰褐色の埋土である。

S K284 G 1～2・H 1～2グリッドから検出した土坑で、西は調査区に続く。S K286の南端部を切る。深さは約35cmである。丸瓦が出土し、時期は18世紀後葉と考えられる。

S K285 G 2・H 2グリッドで検出した東西13m南北1.4m、深さ約45cmの円形の土坑である。丸瓦が多く出土している他、磁器碗が出土している。時期は17世紀末から18世紀初頭にかけての頃と考えられる。

S K286 G 1～2グリッドで検出した土坑で、南側を S K284に切られている。調査区西壁沿いに南北に長く広がり、南北1.8m、幅0.8m、深さ約30cmである。埋土は灰褐色で、陶器、アカガイが出土した。時期は18世紀初頭と考えられる。

S K287 G 2～3・H 3グリッドで検出した土坑で、東部を S K288に切られる。東西1.2m、南北1.1mの楕円形を呈し、深さは約35cmである。陶磁器が出土しており、時期は17世紀末の頃と考えられる。

S K288 G 3グリッドで検出した土坑で、西側で S K287、東側で S K290を切っている。東西1.4m、南北0.9mの不定形で、深さは中央部で約50cmである。アカガイやハマグリの貝殻が出土している他、焙烙鍋や丸瓦、擂鉢などが出土しており、時期は17世紀末から18世紀初頭にかけてと考えられる。

S K289 E 1～2・F 1～2グリッドで検出した土坑で、西は調査区外へのびる。南北1.6mで、南東側の S K291を切っている。深さは約15cmで、灰褐色の埋土である。磁器碗や陶器碗が出土しており、時期は18世紀前葉と考えられる。

S K290 G 3グリッドで検出した土坑で、東部を S K311、南西部を S K288に切られており、中央部でも上から二つの土坑に切られている。東西1.0m、南北2.4mと南北に長く、深さは北側では約10cm、南側では約15cmである。焙烙鍋の小片が出土した。

S K291 F 2グリッドで検出した土坑で、西部を S K289、東部を S K293に切られている。深さは約5cmと浅い。陶器の丸碗が出土しており、時期は18世紀前葉と考えられる。

S K292 F 2グリッドで検出した土坑で、西部を

S K293に切られている。幅は東西50cm南北80cm、深さ約10cmである。暗褐色の埋土で、陶器碗や鉢、瓦が出土している。時期は18世紀前葉と考えられる。

S K293 (第10図) F 2グリッドで検出した東西2.7m、南北1.7m、深さ約30cmの長方形を呈した土坑である。掘形は底面から緩やかに立ち上がっており、埋土は7層に分かれ、炭が若干混じる。S B 317内の北西部に位置しているが、建物内土坑と考えられる。東側で S K292、西側で S K291を切る。上層は近代の搅乱がみられた。常滑甕や肥前茶碗、瓦などが出土し、18世紀中葉から後葉にかけての時期と考えられる。

S K294 J 4グリッドで検出した土坑で、南は調査区外へと続く。東西1.5m、深さは約15cmである。S K298に切られている。猪口、天目茶碗、土師器皿、擂鉢、焙烙などが出土している。時期は17世紀末と考えられる。

S K295 I 4～5・J 4～5グリッドで検出した土坑で、東は調査区外に延びている。深さは30～35cmであり、埋土にはブロック土が混じる。羽釜や甕が出土しているが、時期は19世紀前葉と考えられるため、上層からの遺構と考えられる。

S K296 F 2～3グリッドで検出した土坑で、東西1.4m、南北1.4mの不定形を呈しており、深さは約30cmである。土師器皿、陶器碗などが出土し、時期は18世紀代と考えられる。

S K297 G 3～4グリッドで検出した東西0.9m、南北1.0m、深さ約30cmの円形の土坑である。埋甕とともに、土師器皿および陶器の破片が多数出土した。切り合ひ関係より時期は18世紀前葉以降と考えられる。また、17世紀前葉のものと考えられる擂鉢も出土しているが、流入したものと考えられる。

S K298 J 4～K 4グリッドで検出した東西1.0m、南北1.3m、深さ約20cmの土坑で、東側で S K294を切っている。錢貨や陶器が出土した他、埋土には焼土や炭が含まれている。時期は18世紀代と考えられる。

S K299 H 4～5グリッドで検出した土坑で、東西80cm、南北90cm、深さ約30cmである。常滑甕、青磁皿などが出土している。時期は17世紀末から18世紀初頭と考えられる。

S K300 F 4 グリッドで検出した幅50cm、深さは約15cmの土坑である。北は調査区外へと延びる。S K315の東部を切っている。茶釜や培壘、皿、瓦などに加え、アカガイ、ハマグリ、ヤマトシジミの貝殻が出土している。時期は18世紀前葉と考えられる。

S K302 H 4 ~ 5 グリッドで検出した土坑で、東西90cm、南北80cmの不定形であるが円形を呈している。深さは約15cmである。磁器椀が出土しており、時期は18世紀前葉と考えられる。

S K303 I 4 ~ 5 グリッドで検出した東西1.1m、南北1.3mに不定形の土坑である。北側では深さ約30cmであるが、南側では7 ~ 8cmと浅くなっている。肥前陶器椀や磁器椀が出土しており、18世紀前葉から中葉にかけての時期と考えられる。

S K305 G 4 グリッドで検出した土坑で、東側で S K310を切っている。東西0.7m、南北1.2mの楕円形で、深さは約30cmである。天目茶碗が出土しており、18世紀後葉以降の遺構と考えられる。

S K306 (第11図) G 4 グリッドで検出した土坑で、直径70cm、深さ約50cmの埋甕が出土している。東側で S K319を切っている。陶器や土師器皿、瓦などが出土しており、18世紀中葉と考えられる。

S K307 I 4 ~ J 4 グリッドで検出した土坑で、S K295、S K271に切られている。南は調査区外へと続いている。深さは約35cmで、埋土には炭や焼土が混じる。陶器皿や擂鉢、土師器皿、瓦などが出土している。17世紀末から18世紀前葉と考えられる。

S K308 I 3 グリッドで検出した土坑で、S K282を切っている。東西50cm、南北90cmで、深さ約15cmの埋土に炭や焼土が含まれている。瓦や擂鉢、四角鉢などが出土している。遺構の時期は18世紀後葉と考えられる。

S K309 G 4 グリッドで検出した土坑で、S K316の北東部を切っている。東西1.0m、南北1.2mの楕円形で、深さ約30cmの暗褐色の埋土である。培壘、銅釉陶器椀、常滑甕などが出土している。時期は18世紀前葉と考えられる。

S K310 G 4 グリッドで検出した土坑で、西側を S K305に切られ、東側の S K318を切っている。東西0.8m、南北1.2mの範囲に深さ約25cmで広がっている。肥前の京焼風陶器皿が出土しており、遺構の

時期は18世紀前葉と考えられる。

S K311 (第11図) G 3 ~ 4 グリッドで検出した土坑で、埋土は多くの炭や焼土を含んでいる。S K290を切り、S K297に切られている。磁器皿や羽釜、染付椀、銅釉椀、猪口、土師器皿などが出土しており、17世紀末から18世紀初頭にかけての遺構と考えられる。

S K312 G 4 グリッドで検出した1.2m、南北1.0m、深さ約15cmの土坑である。暗褐色の埋土で、常滑甕が出土している。

S K313 F 4 ~ G 4 グリッドで検出した土坑で、東は調査区外に延びている。黒褐色の埋土には焼土が含まれる。アカガイの貝殻も多数出土している。

S K314 F 3 ~ 4 ・ G 3 ~ 4 グリッドで検出した土坑で、東西4.9m、南北2.5mに複雑な形状をしている。東側にいくほど深くなり、東側の深いところでは約28cmである。培壘や土師器皿、染付椀などが出土しており、17世紀後葉の遺構と考えられる。

S K315 E 3 ・ F 3 ~ 4 グリッドで検出した土坑で、東西2.2m、南北5.5mと南北に長く、深さ約20cmの褐色の埋土である。近世の錢貨が出土している。

S K316 G 4 グリッドで検出した土坑で、S K309、S K297に切られている。南側は約20cm、北側は約15cmの深さがあり、暗褐色の埋土である。アカガイの貝殻が多数出土している他、常滑甕や羽釜、培壘、土師器皿、陶器椀などが見つかっており、18世紀前葉と考えられる。

S K318 G 4 グリッドで検出した土坑で、北東は調査区外へと続く。S K310、S K319に切られている。深さは約20cmある。磁器椀が出土しており、17世紀後葉と考えられる。

S K319 G 4 ~ 5 グリッドで検出した土坑で、北側の S K318を切り、南部を S K306に切られている。深さは約25cmで、陶器香炉や土師器皿が出土しており、18世紀前葉と考えられる。

S K320 E 1 ~ 2 グリッドで検出した土坑で、西は調査区外に延びている。南北に1.8m、幅は約0.8mで、北から南に向かうにつれて深くなっているが、南側でも約13cmである。暗褐色の埋土である。陶器椀が出土しており、17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。

溝

調査区の北部で1条、南部で2条検出された。

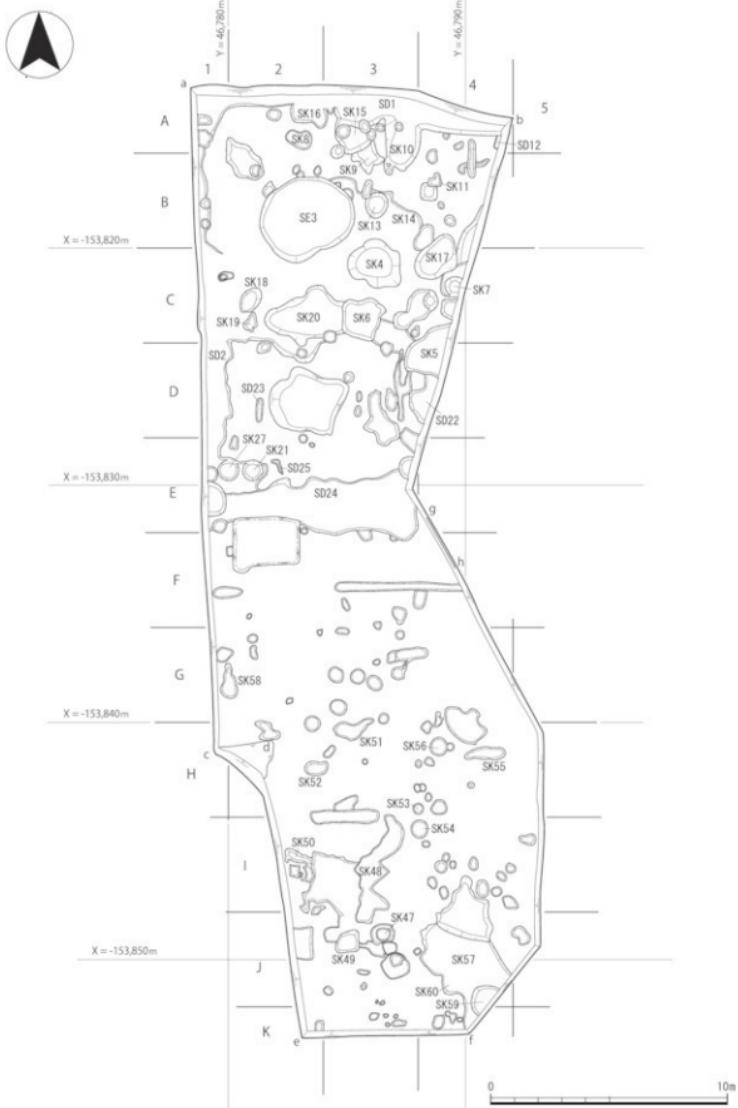
S D228 A 1 グリッドで検出した溝で、西は調査区外に延びている。深さは約6cmと浅い。肥前磁器が出土しており、18世紀前葉から中葉と考えられる。

S D301 F 3 グリッドで検出した溝で SK315を切っている。南北90cm、東西25cmと細長く、深さは約10cmである。磁器皿が出土しており、17世紀末から18世紀初頭と考えられる。

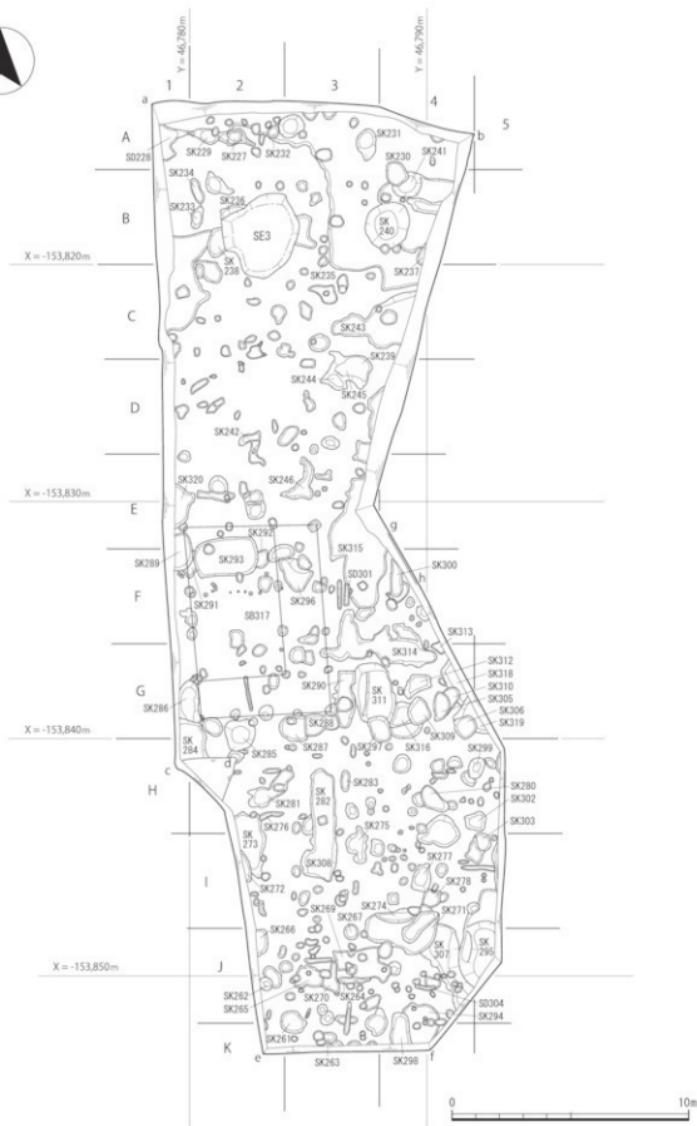
S D304 J 4 グリッドで検出した東西90cm、南北20cm、深さ約5cmの溝である。黒褐色の埋土で、磁器小片が出土している。
(嶋田)



第4図 遺構平面図（2面目焼土層）
(1:400) (トーンは焼土)



第5図 遺構平面図（1面図）（1:200）



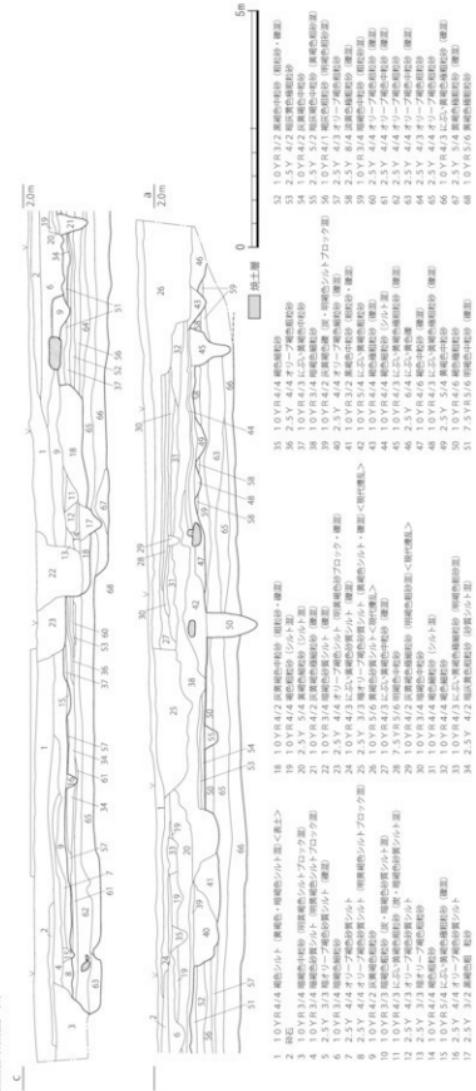
第6図 遺構平面図（2面図）（1：200）

西壁土層断面図(1)

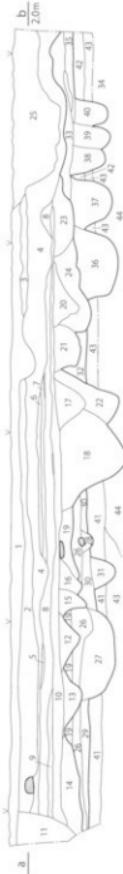


第7図 西壁土層断面図 (1 : 100)

西壁土層断面図(2)



北壁土層断面図

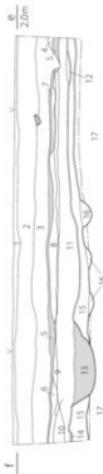


- 1 10Y44.4 黄褐色シルト (漂砾・漂砾シルト層) <底>
- 2 7.5Y6.8 黄褐色シルト (漂砾・漂砾シルト層) <底>
- 3 7.5Y5.6 黄褐色シルト <底>
- 4 10Y3.1 黄褐色シルト (漂砾色・赤茶色帶) <底>
- 5 10Y4.1 黄褐色シルト (漂砾色)
- 6 10Y5.6 黄褐色シルト (漂砾色)
- 7 10Y4.2 黄褐色シルト (漂砾色)
- 8 10Y3.2 黄褐色シルト (漂砾色)
- 9 10Y3.4 黄褐色シルト (漂砾色)
- 10 10Y4.4 黄褐色シルト (漂砾色)
- 11 10Y5.6 黄褐色シルト (漂砾色・泥炭化・泥炭化漂砾層) <底> <底>
- 12 10Y3.4 黄褐色シルト (漂砾色)
- 13 10Y4.3 (上) 黄褐色シルト (漂砾色) <底>
- 14 10Y5.2 黄褐色シルト (漂砾色)
- 15 10Y4.2 黄褐色シルト (漂砾色) <底>

31 10Y3.4 黄褐色シルト
32 10Y3.1 黄褐色シルト
33 10Y3.4 黄褐色シルト
34 10Y5.4 (上) 黄褐色シルト
35 10Y4.2 黄褐色シルト (漂砾色)

36 10Y3.2 黄褐色シルト
37 10Y2.2 黄褐色シルト
38 10Y2.1 黄褐色シルト
39 10Y3.1 黄褐色シルト
40 10Y3.2 黄褐色シルト
41 10Y4.4 黄褐色シルト
42 10Y3.1 黄褐色シルト
43 10Y5.1 (上) 黄褐色シルト
44 10Y4.4 黄褐色シルト

南壁土層断面図



- 1 7.5Y 4.1 漂砾質シルト (漂砾・漂砾)
 - 2 10Y4.6 黄褐色シルト (漂砾)
 - 3 2.5Y 3.2 黄褐色シルト (漂砾)
 - 4 10Y4.4 漂砾質シルト (漂砾)
 - 5 10Y4.2 黄褐色シルト (漂砾)
 - 6 10Y3.2 黄褐色シルト (漂砾)
 - 7 10Y4.2 (上) 黄褐色シルト (漂砾)
 - 9 10Y4.4 黄褐色シルト (漂砾)
- 10 10Y3.2 黄褐色シルト (漂砾・漂砾)
 - 11 7.5Y 3.2 黄褐色シルト (漂砾・漂砾)
 - 12 10Y4.4 漂砾質シルト (漂砾)
 - 13 2.5Y 3.1 黄褐色シルト (漂砾・漂砾)
 - 14 7Y 4.8 黄褐色シルト (漂砾・漂砾)
 - 15 10Y3.1 黄褐色シルト (漂砾・漂砾)
 - 6 2.5Y 3.3 漂砾シルト (漂砾)
 - 7 10Y4.3 (上) に於く 黄褐色シルト (漂砾)
 - 9 10Y4.4 黄褐色シルト (漂砾)
 - 10 2.5Y 3.3 漂砾シルト (漂砾)

11 2.5Y 3.2 黄褐色シルト (漂砾)

12 2.5Y 3.1 漂砾シルト (漂砾)

13 2.5Y 3.2 漂砾シルト (漂砾)

14 10Y4.2 黄褐色シルト (漂砾)

15 10Y4.2 漂砾シルト (漂砾)

16 10Y4.3 (上) 黄褐色シルト (漂砾)

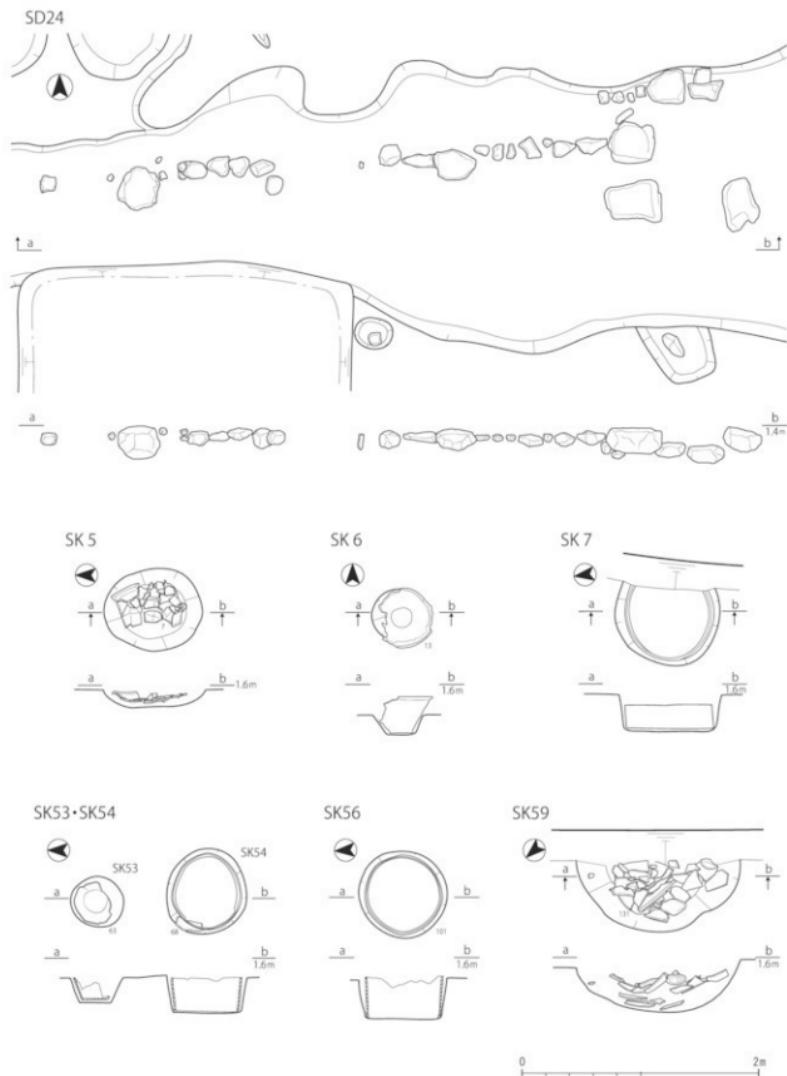
17 10Y4.3 (上) に於く 黄褐色シルト (漂砾)

18 2.5Y 3.2 漂砾シルト (漂砾)

19 10Y4.4 黄褐色シルト (漂砾)

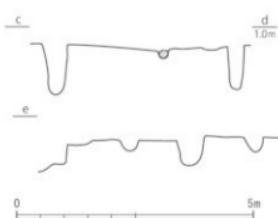
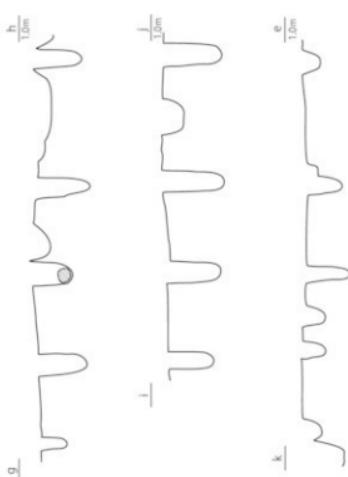
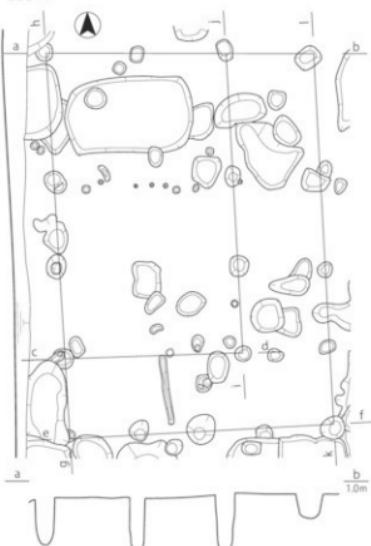
0 埋土層

第8図 北壁・南壁・東壁土層断面図 (1:100)

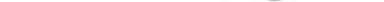


第9図 個別遺構実測図 (1 : 40)

SB317



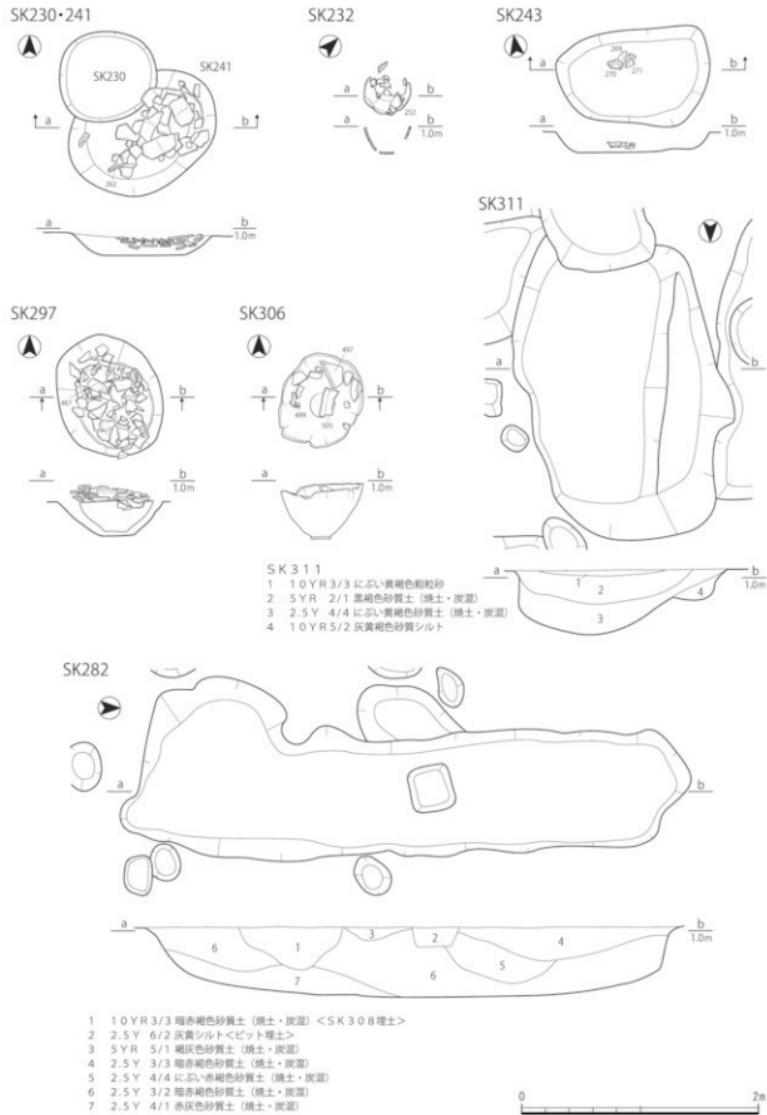
SK293



- 1 10YR 4/2灰黄褐色砂質土
- 2 10YR 6/6明黃褐色粉砂
- 3 10YR 4/1褐色灰色粉土 (灰・粘土40%混)
- 4 10YR 5/2灰黃褐色粉砂 (シルト混)
- 5 10YR 5/3にじみ黄色の弱粘質土
- 6 10YR 6/2灰黃褐色粉砂 (シルト・灰混)
- 7 10YR 4/1褐色灰色粉土 (灰・粘土混)



第10図 個別遺構実測図 (1 : 40)



第11図 個別遺構実測図 (1 : 40)

IV 遺 物

1 概要

今回の調査で出土した遺物は、17世紀末から18世紀のものが主体となる。2面目から出土した磁器は全て肥前産で、1面目から少量であるが、瀬戸産が出土した。陶器は、瀬戸美濃産が多数を占めるが、肥前産も相当数含まれる。2面目の主体となる時期は、17世紀末から18世紀前葉で、1面目の主体となる時期は、18世紀中・後葉である。なお、陶磁器は堀内秀樹氏の編年により記述し⁹、近世土師器の形態については伊藤裕作氏の分類により遺物観察表に表す¹⁰。

2 出土遺物

上層の遺物（1～245）

土坑SK4出土遺物（1～3） 1～3は肥前の磁器皿である。1は17世紀末から18世紀前葉のもの、2・3は18世紀前葉から中葉のものである。

土坑SK5出土遺物（4～10） 4・5は陶器鉢である。4は肥前三島手で内面に象嵌が施されており、17世紀後葉のものである。5は瀬戸美濃の笠原鉢で、18世紀中葉のものである。6・7は常滑の壺で、6は内傾する口縁部と外に突出する鶴部がみられる。焼成は軟質で釉薬は施されていない。18世紀前葉のものである。傾きは小片のため不明である。7は口縁部がL字状に外に広がっている。19世紀前半のものである。8は肥前の磁器碗で瑠璃釉が施されている。17世紀末から18世紀前葉のものである。9は土鉢。10は石臼の上臼である。

土坑SK6出土遺物（11～15） 11は京・信楽の陶器半球碗で、18世紀のものである。12・13は陶器壺で、12は瀬戸美濃、13は常滑でいずれも18世紀前葉のものである。

土坑SK7出土遺物（16～19） 16～18は瀬戸美濃の陶器碗である。16は18世紀前葉から中葉のもの、17・18は鉢茶碗で18世紀後葉のものである。19は土師器羽釜である。

土坑SK8出土遺物（20・21） 20・21は瀬戸美濃

の陶器で、20は椀で18世紀前葉から中葉のもの、21は壺で17世紀後葉のものである。

土坑SK9出土遺物（22） 22は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀末のものである。

土坑SK10出土遺物（23） 23は棟瓦である。

土坑SK13出土遺物（24） 24は瀬戸美濃の陶器で、笠原鉢である。

土坑SK14出土遺物（25～27） 25は土師器皿。26は信楽の陶器土瓶で、19世紀前葉から中葉のものである。27は肥前の磁器広東椀で、18世紀末のものである。

土坑SK16出土遺物（28） 28は瀬戸美濃の陶器皿で、18世紀中葉から後葉のものである。

土坑SK17出土遺物（29・30） 29は土師器皿で、30は陶器山茶碗である。

土坑SK18出土遺物（31） 31は肥前の磁器椀で、外面は青磁染付が施されている。18世紀後葉のものである。

土坑SK19出土遺物（32～36） 32は瀬戸美濃の陶器椀で、18世紀前葉から中葉のものである。33は常滑の陶器壺で17世紀中葉のものである。34は肥前の磁器碗で、見込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。18世紀中葉から後葉のものである。35は円形加工品と考えられ、線刻が認められる。36は、瀬戸美濃陶器の円形加工品と考えられる。17世紀中葉から後葉のものである。

土坑SK20出土遺物（37～45） 37は土師器皿である。38は瀬戸美濃の陶器碗で、18世紀後葉のものである。39は常滑の陶器壺で18世紀前葉のものである。傾きは小片のため不明である。40は信楽の陶器壺で、18世紀から19世紀中葉までのものである。41は瀬戸美濃の陶器鉢で、19世紀のものである。42は陶器鉢で、常滑であろうか。43は肥前の磁器広東椀の蓋で、1780年代から1790年代のものである。44・45は肥前の磁器碗で、44は18世紀後葉のものである。45は半球碗で18世紀前葉から中葉のものである。46は肥前の磁器皿で、18世紀末から19世紀初頭のものである。

土坑SK21出土遺物（47・48） 47・48は瀬戸美濃

の陶器椀で、47は腰錫茶椀で18世紀前葉のもの、48は18世紀末のものである。

土坑 S K22出土遺物 (49) 49は瀬戸美濃の陶器有皿で、17世紀末のものである。

土坑 S K47出土遺物 (50・51) 50・51は土師器皿である。

土坑 S K48出土遺物 (52~62) 52は培塔である。

53・54は陶器の椀で、53は瀬戸美濃で18世紀前葉のものである。55・56は瀬戸美濃の陶器鉢で、55は18世紀前葉から中葉のもの、56は片口鉢で18世紀中葉から後葉のものである。57は信楽の陶器火鉢で、18世紀後葉から19世紀のものである。58から60は肥前の磁器椀で、59は有田広瀬窯で、外面に青磁染付が施されている。いずれも18世紀後葉のものである。

61は軒棟瓦左巻き三つ巴である。62は土鍤である。

土坑 S K53出土遺物 (63) 63は陶器壺である。

土坑 S K54出土遺物 (64~68) 64は土師器皿である。65は信楽の陶器筒形椀で、18世紀中葉から後葉のものである。66は瀬戸美濃の陶器香炉で18世紀前葉から中葉のものである。67は肥前の磁器小椀で、18世紀前葉のものである。68は桟瓦である。

土坑 S K55出土遺物 (69~100) 69~73は土師器皿で、71・72は灯明皿として使用されている。74は陶器灯明皿で油受皿である。75~85は陶器椀である。

75は肥前の17世紀後葉のもの、76は瀬戸美濃の18世紀中葉のもの、77は肥前の刷毛目椀で17世紀末のもの、78は瀬戸美濃の18世紀中葉のもの、79は肥前の18世紀以降のもの、80は肥前京焼風の18世紀中葉のもの、81は肥前京焼風で外部底面に「木下弥」の刻印³がある17世紀末のもの、82は京・信楽の18世紀前葉から中葉のもの、83・84は瀬戸美濃の腰錫茶椀で、83は18世紀前葉、84は19世紀前葉のもの、85は瀬戸美濃の體茶椀で18世紀後葉のものである。86・87は瀬戸美濃の陶器皿で、86は18世紀中葉のもの、87は18世紀前葉から中葉のものである。89は陶器鉢である。

90は瀬戸美濃の陶器半胴壺で、18世紀後葉から19世紀前葉のものである。91は瀬戸美濃の陶器香炉で、17世紀末から18世紀前葉のものである。92~96は肥前の磁器椀である。92・93は18世紀中葉から後葉のもの、94は18世紀から19世紀中葉のもの、95は筒江窯で外面は青磁染付が施されており、18世

紀後葉のものである。96は18世紀中葉から後葉のもの、97は網目文で18世紀前葉から中葉のものである。98から101は肥前磁器皿で、98は17世紀末からは18世紀前葉のもの、99・100は18世紀中葉のものである。

土坑 S K56出土遺物 (101) 101は常滑陶器筒の底部である。

土坑 S K57出土遺物 (102~122) 102~108は土師器皿である。108は底部外面に判読はできないが墨書きが認められる。109~111は瀬戸美濃の陶器椀である。109は見込みに描絵が施されており、18世紀中葉のものである。110・111は18世紀前葉のもので、110は京風写しの御室茶椀である。112は瀬戸美濃の陶器石皿である。113~121は肥前の磁器皿である。113・114は18世紀後葉から19世紀初頭のものである。115・117は18世紀後葉のもの、116は18世紀末から19世紀初頭のものである。118は18世紀末のもの、119は網目文で18世紀前葉から中葉のものである。120は18世紀中葉のものである。121は紅皿で「船」が描かれており、18世紀前葉のものである。122は鉢で、18世紀第3四半期である。

土坑 S K58出土遺物 (123) 123は土師器皿である。

土坑 S K59出土遺物 (124~135) 124は瀬戸美濃の陶器椀である。見込みに描絵が施されており、18世紀中葉から後葉のものである。125は瀬戸美濃の陶器皿で19世紀前葉から中葉のものである。126・127は瀬戸美濃の陶器灯明皿で、18世紀末から19世紀中葉のものである。128は瀬戸美濃の油受皿で19世紀前葉から中葉のものである。130は常滑の筒、131は常滑の陶器壺で、18世紀前葉のものである。132は人形土製品である。133~135は肥前磁器で18世紀末から19世紀前葉のものである。133は広東椀の蓋で、134は18世紀の紅皿、135は蛇の目四型高台の皿である。

土坑 S K60出土遺物 (136) 136は常滑の陶器半胴であろうか。

溝 S D 1出土遺物 (137~149) 137は土師器皿で、灯明皿として使われている。138・139は土師器鉢である。140は瀬戸美濃の陶器腰錫茶椀で18世紀前葉のものである。141は肥前の陶器皿で17世紀後葉から18世紀前葉のものである。142は瀬戸美濃の陶器描鉢で、17世紀末から18世紀のものである。143は

瀬戸美濃の陶器片口鉢で17世紀後葉から18世紀初頭のものである。144は肥前の陶器京焼風香炉で、呉須が施されており17世紀後葉のものである。145は瀬戸美濃の陶器秉燭で18世紀後葉から19世紀前葉のものである。146~149は肥前の磁器椀で146・146は17世紀後葉から18世紀初頭のもの、147は18世紀中葉から後葉のもの、148は17世紀後葉から18世紀前葉のもの、149は青磁染付が施されており、17世紀後葉から18世紀前葉のものである。

満 S D 2 出土遺物 (150~172) 150・151は土師器皿で灯明皿として使われている。152は陶器油受皿である。153・154は瀬戸美濃の陶器椀で、153は18世紀後葉から19世紀前葉のもの、154は18世紀前葉のものである。155は瀬戸美濃の陶器皿で、見込み蛇の目釉剥ぎである。18世紀前葉のものである。156は信楽の陶器壺で、17世紀以降のものである。157は陶器壺の底部である。158は瀬戸美濃の捏鉢で18世紀後葉から19世紀中葉のものである。159・160は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀末から18世紀のものである。161は泥面子の芥子面で京都産と考えられる。19世紀前葉のものである。162・163は肥前の磁器椀で、17世紀末から18世紀初頭のものである。162は白磁である。164は肥前磁器庄東椀で19世紀前葉のものである。165・166は瀬戸美濃の磁器椀で、165は19世紀前葉から中葉のもの、166は19世紀中葉のものである。167~170は肥前の磁器皿である。167は17世紀末から18世紀初頭のもの、168は18世紀後葉のもの、169は18世紀中葉のもの、170は蛇の目凹型高台で19世紀前葉のものである。171は軒丸瓦で、172は棟瓦である。

満 S D 22 出土遺物 (173~180) 173は瀬戸美濃の陶器椀で、18世紀前葉のものである。174は肥前の京焼風陶器椀で、18世紀前葉のものである。175は瀬戸美濃の陶器皿である。175は18世紀中葉から後葉のもので、176は17世紀後葉から18世紀中葉のものである。177は備前の陶器德利で、17世紀以降のものである。178~180は肥前の磁器椀である。178は18世紀後葉のもの、179は18世紀前葉のもの、180は外面は青磁染付で、18世紀中葉から後葉のものである。

満 S D 24 出土遺物 (181~237) 181~184は土師器皿である。184は灯明皿である。185・186は土師器

培培である。187~203は陶器椀である。187~191は肥前京焼風で、17世紀後葉から18世紀初頭のものである。192・193は京・信楽の平椀で、17世紀後葉から18世紀前葉のものである。194~203は瀬戸美濃の陶器椀である。194は18世紀初頭のもの、195・201は18世紀前葉のもの、196は御室茶椀で18世紀前半のもの、197・200は18世紀前半のもの、198は17世紀前葉から中葉のもの、199は18世紀のもの、202は18世紀前葉から中葉のもの、203は19世紀前葉のものである。204は肥前の陶器皿で17世紀後葉のものである。205~207は瀬戸美濃の陶器皿である。205は菊皿で17世紀中葉から後葉のもの、206は見込みに摺絵が施されている。18世紀中葉から後葉のものである。207は18世紀中葉から後葉のものである。208は肥前の陶器鉢で、釉は刷毛目が施されており、18世紀前葉のものである。209は瀬戸美濃の陶器香炉である。外面に摺絵が施されており、18世紀前葉から中葉のものである。210~227は肥前の磁器椀である。210・211は17世紀のもの、212は京焼風で17世紀末から18世紀初頭のもの、213・219は17世紀末から18世紀前葉のもの、214~216は17世紀末から18世紀初頭のもの、217・218・226は18世紀前葉から中葉のもの、220は小膨茶椀で18世紀前葉のもの、221・222はくらわんか椀で、221は18世紀中葉から後葉のもの、222は18世紀中葉から後葉のものである。223は白磁で18世紀のもの、224・225は18世紀後半のもの、227~231は小杯で227・230は17世紀末から18世紀前葉のもの、228はコンニャク印判が施されており、18世紀前葉から中葉のもの、229は17世紀末から18世紀初頭のもの、231は18世紀のものである。232~235は皿で、232は17世紀後葉から18世紀前葉のもの、233は18世紀中葉から後葉のもの、234は景徳鎮の白磁で、明末のものである。235は17世紀末から18世紀初頭のものである。236・237は仏飯器で、236は型紙刷が施されており、17世紀末から18世紀初頭のもの、237はコンニャク印判が施されており、18世紀後葉から19世紀初頭のものである。

満 S D 25 出土遺物 (238) 238は肥前の陶器刷毛目椀で、17世紀末のものである。
井戸 S E 3 出土遺物 (239~246) 239は土師器皿である。240~243は肥前の磁器椀で、240は端反椀で

ある。244・245は肥前の磁器皿である。

下層の遺物

土坑 S K 227出土遺物 (246) 246は丸瓦である。

土坑 S K 230出土遺物 (247) 247は土師器培焼である。

土坑 S K 231出土遺物 (248) 248は瀬戸美濃の香炉である。

土坑 S K 232出土遺物 (249～253) 249は肥前の陶器皿で、17世紀後葉のものである。250は瀬戸美濃の陶器小皿で、18世紀のものである。251は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、18世紀前葉のものである。252は常滑の陶器甕で18世紀のものである。253は肥前の磁器広東椀で、18世紀末から19世紀初頭のものである。

土坑 S K 235出土遺物 (254) 254は肥前の陶器皿で、京焼風である。17世紀後葉のものである。

土坑 S K 239出土遺物 (255) 255は陶器香炉である。

土坑 S K 240出土遺物 (256～261) 256・257は瀬戸美濃の陶器椀で17世紀後葉のものである。256は天目茶椀である。258・259は陶器甕で、258は常滑の17世紀のものである。260は肥前の磁器椀で、17世紀末から18世紀前葉のものである。261は碁石である。

土坑 S K 241出土遺物 (262～266) 262～266は常滑の陶器甕で、17世紀のものである。

土坑 S K 242出土遺物 (267・268) 267は肥前の磁器小皿で、17世紀後葉のものである。268は景德镇の磁器皿で、梅花文が施されている。明末のものである。

土坑 S K 243出土遺物 (269～272) 269は土師器培焼である。270は瀬戸美濃の陶器菊皿で、17世紀後葉のものである。271は瀬戸美濃の陶器笠原鉢で、17世紀後葉のものである。272は肥前の白磁椀で、17世紀後葉のものである。

土坑 S K 245出土遺物 (273・274) 273は土師器茶釜である。274は肥前の磁器椀で18世紀のものである。

土坑 S K 246出土遺物 (275) 275は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀のものである。

土坑 S K 261出土遺物 (276～288) 276～280は陶器椀である。276は京焼で17世紀末から18世紀前葉のものである。277は京・信楽で18世紀前葉である。278は瀬戸美濃で17世紀後葉から18世紀前葉のものである。279は肥前の刷毛目椀で18世紀前葉のものである。

である。280は瀬戸美濃の腰錫茶椀である。281は京・信楽の陶器皿で、18世紀前葉のものである。282は陶器甕である。283は常滑の陶器甕で18世紀後葉のものである。284は陶器火鉢である。285は肥前の磁器椀である。網目文・菊花文が施されており、18世紀前葉のものである。286・287は肥前の磁器皿で、286は17世紀末から18世紀前葉のもので、287は18世紀前葉から中葉のものである。288は軒丸瓦で、右巻三巴である。

土坑 S K 262出土遺物 (289・290) 289は常滑の陶器鉢である。290は碁石である。

土坑 S K 264出土遺物 (291～293) 291～293は肥前の磁器である。291は椀で17世紀末から18世紀初頭のものである。292・293は小杯で、292は18世紀前葉から中葉のものである。

土坑 S K 265出土遺物 (294) 294は土師器鍋である。

土坑 S K 267出土遺物 (295・296) 295は土師器皿である。296は肥前の京焼風陶器皿で、底部外面に「清水」が刻印されている。17世紀後葉のものである。

土坑 S K 268出土遺物 (297) 297は土師器皿で底部外面に墨書が認められる。

土坑 S K 269出土遺物 (298・299) 298は肥前の陶器土瓶で、青緑釉が施されており、17世紀初頭のものである。299は肥前の磁器椀で、摺絵で「松」が描かれており、1680年代から1690年代のものである。

土坑 S K 270出土遺物 (300) 300は土師器皿である。

土坑 S K 271出土遺物 (301～303) 301・302は土師器皿で灯明皿として使われている。303は瀬戸美濃の陶器椀で、18世紀のものである。

土坑 S K 272出土遺物 (326) 326は肥前の磁器椀で、蓋物である。17世紀後葉のものである。

土坑 S K 273出土遺物 (304～306) 304は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀後葉のものである。305・306は肥前の磁器椀で、17世紀後葉のものである。306は白磁である。

土坑 S K 274出土遺物 (307) 307～310は土師器皿である。307・308は灯明皿である。311は土師器鍋である。312～314は肥前の陶器椀で、312は刷毛目椀で17世紀末のものである。313・314は京焼風で、底部外面に「清水」の刻印がある。17世紀後葉のものである。315は瀬戸美濃の陶器皿で、18世紀前葉か

ら後葉のものである。316は瀬戸美濃の陶器壺で、18世紀後葉から19世紀のものである。317・318は磁器壺蓋で、317は京・信楽の土瓶で19世紀前葉から中葉のもの、318は肥前の白磁で17世紀末から18世紀初頭のものである。319～324は肥前の磁器壺である。319は17世紀末のもので、うがい茶椀である。320は白磁で17世紀まつから18世紀初頭のもの、321～323は京焼風である。321・322は17世紀末から18世紀初頭のものである。324は底部外面に「太明年製」と記されている。1680年代のものである。325は肥前の磁器皿で、コンニャク印判が施されている、17世紀末から18世紀初頭のものである。

土坑 S K275出土遺物 (327・328) 327・328は瀬戸美濃の陶器である。327は灯明皿で18世紀後葉のものである。328は擂鉢で17世紀後葉のものである。

土坑 S K277出土遺物 (329) 329は土師器鍋である。

土坑 S K279出土遺物 (330～332) 330は土師器鍋である。331は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀後葉である。332は肥前の磁器壺で、白磁のミニチュアである。17世紀後葉のものである。

土坑 S K280出土遺物 (333) 333は土師器皿である。

土坑 S K281出土遺物 (334～340) 334・335は土師器培培である。336は陶器甕である。337～340は肥前の磁器で、337・338は椀である。337は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ17世紀末から18世紀前葉もの、338は色絵椀で17世紀末から18世紀初頭のもの。339は皿で17世紀末のもの、340は初期伊万里の瓶で、17世紀第2四半世紀のものである。

土坑 S K282出土遺物 (341～415) 341～346は土師器皿である。347～350は陶器壺で17世紀後葉のものである。347～349は肥前の京焼風で、350は瀬戸美濃である。351は肥前の陶器鉢で、象嵌が施されている。352は瀬戸美濃の擂鉢で、17世紀後葉のものである。353は瀬戸美濃の双耳壺で、17世紀後葉から18世紀前葉のものである。354は瀬戸美濃の陶器壺で、17世紀のものである。355～415は肥前磁器である。355は蓋物の色絵小杯で、17世紀まつから18世紀初頭のものである。356は椀で17世紀末から18世紀初頭のものである。357・358は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ17世紀後葉から18世紀前葉のもの

である。359は椀で、外面に青磁染付が施されている。18世紀後葉のものである。360は小椀、361・362は杯、363は猪口で17世紀末から18世紀初頭のものである。364～376は皿で、見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ17世紀後葉から18世紀前葉のものである。377～383は皿で、セットものと考えられる。コンニャク印判、平攝が施されており、17世紀末の元禄年間のものである。385～390は皿で、セットものと考えられる。見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ青磁染付が施されている。17世紀末から18世紀初頭のものである。391～393は皿で、391・392は17世紀まつから18世紀初頭のものである。393は17世紀末のもの、394は色絵椀で17世紀末から18世紀のものである。395～409は皿で、395は墨彈きである。396～400はセットものと考えられる。408は絹唐草文が施されている。410・411は鉢で、411は17世紀後葉のものである。412は香炉である。413は仏飯器で17世紀末のものである。414は花瓶で17世紀後葉のもの、415は水滴である。

土坑 S K284出土遺物 (416) 416は土師器皿である。417は信楽の磁器猪口である。18世紀中葉から後葉のものである。

土坑 S K285出土遺物 (418) 418は土師器皿である。419～423は肥前磁器である。419は椀で17世紀末から18世紀初頭のもの、420は京焼風である。421は椀で、1650年代のもの、422は猪口で17世紀末から18世紀初頭のものである。423は香炉である。424・425は平瓦である。426～430は丸瓦である。

土坑 S K286出土遺物 (431・432) 431・432は肥前陶器である。431は蓋で18世紀のもの、432は椀で17世紀末から18世紀初頭のものである。

土坑 S K287出土遺物 (433) 433は大皿で、絹唐草文が施されており、外部底面に「太明成化年製」と記されている。17世紀末のものである。

土坑 S K288出土遺物 (434～436) 434は土師器鍋である。435は肥前の京焼風陶器壺で17世紀末から18世紀初頭のものである。436は肥前の白磁小椀で17世紀末から18世紀初頭のものである。

土坑 S K289出土遺物 (437・438) 437は瀬戸美濃の陶器腰錫茶椀で、18世紀前葉のものである。438は肥前の磁器椀で18世紀前葉のものである。

土坑 S K291出土遺物 (439) 439は肥前の陶器刷毛目椀で18世紀のものである。

土坑 S K292出土遺物 (440~443) 440は肥前の陶器刷毛目椀で、17世紀末のものである。442は瀬戸美濃の陶器御室茶椀で18世紀前葉のものである。443は瀬戸美濃陶器の底部で、鉢であろうか。

土坑 S K293出土遺物 (444~447) 444は肥前の陶器椀である。445・446は瀬戸美濃の陶器御室茶椀で18世紀前葉のものである。447は肥前の磁器くらわんか椀で18世紀前葉から中葉のものである。

土坑 S K294出土遺物 (448~451) 448は土師器皿である。449・450は瀬戸美濃の陶器天目茶椀で、449は17世紀中葉のもの、450は17世紀後葉のものである。451は肥前の白磁小杯で17世紀末のものである。

土坑 S K295出土遺物 (452~461) 452・455は土師器で、452・453は皿、454は鍋、455は羽釜である。456は瀬戸美濃の陶器小杉椀で18世紀前葉のもの、457は京・信楽の小形鍋で19世紀前葉のものである。認識できずに合わせて掘った上層遺構のものであろうか。458は瀬戸美濃の陶器擂鉢で18世紀前葉のものである。459は黄瀬戸の陶器鉢で18世紀のものである。460・461は肥前の磁器椀で、460は17世紀末から18世紀前葉のもの、461は18世紀中葉から後葉のものである。

土坑 S K296出土遺物 (462~464) 462は土師器皿である。463は京焼の陶器煎茶椀で18世紀から19世紀のものである。464は陶器山茶椀である。

土坑 S K297出土遺物 (465~468) 465は土師器皿である。466・467は常滑の陶器壺で17世紀後葉のものである。467は体部外面に墨書が認められる。468は瀬戸美濃の陶器擂鉢で18世紀前葉のものである。

土坑 S K298出土遺物 (469) 469は瀬戸美濃の陶器志野皿で17世紀前葉から中葉のものである。

土坑 S K299出土遺物 (470) 470は肥前の陶器皿で、青磁染付・見込みには蛇の目釉剥ぎが施されており、17世紀末から18世紀初頭のものである。

土坑 S K300出土遺物 (471~475) 471~474は土師器である。471は灯明皿、472は鍋、473・474は茶釜である。475は瀬戸美濃の陶器灯明皿で18世紀前葉のものである。

土坑 S K302出土遺物 (476) 476は肥前の磁器椀

で18世紀前葉のものである。

土坑 S K303出土遺物 (477・478) 477・478は肥前の陶器椀である。477は刷毛目椀で18世紀前葉から中葉のもので、478は色絵椀で17世紀後葉のものである。

土坑 S K305出土遺物 (479) 479は瀬戸美濃の陶器天目茶椀である。

土坑 S K305出土遺物 (480~505) 480~496は土師器皿で灯明皿として使われている。497・498は常滑の陶器壺で、497は17世紀のもの、498は18世紀後葉のものである。499・500は京・信楽の陶器椀で、499は18世紀中葉のもの、500は杉茶椀で18世紀中葉以降のものである。501は肥前の陶器皿で、17世紀末から18世紀初頭のもの、502は瀬戸美濃の陶器皿である。503は常滑の陶器壺底部である。504は肥前の磁器椀で17世紀後葉から18世紀初頭のものである。505は棟瓦である。

土坑 S K307出土遺物 (506~511) 506は土師器皿で灯明皿として使われている。507は肥前の京焼風陶器椀で、17世紀後葉から18世紀前葉のものである。508は瀬戸美濃の陶器皿で、17世紀末から18世紀前葉のものである。509は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀後葉のものである。510は肥前の磁器椀で18世紀前葉から中葉のものである。511は肥前の磁器瓶で17世紀末から18世紀中葉のものである。

土坑 S K308出土遺物 (512~522) 512は土師器皿である。513は肥前の陶器碗で17世紀末から18世紀初頭のものである。514は瀬戸美濃の陶器皿で見込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。18世紀中葉のものである。515は陶器火鉢である。516は瀬戸美濃の陶器擂鉢で17世紀後葉から18世紀前葉のものである。517~522は肥前の磁器椀である。517は17世紀末から18世紀初頭のもの、518は青磁染付が施されており、18世紀後葉のもの、519は18世紀後葉から19世紀初頭のものである。520~522はくらわんか椀で18世紀中葉から後葉のものである。523は肥前磁器小杯で17世紀後葉から18世紀前葉のものである。524は軒丸瓦で左巻三巴である。

土坑 S K309出土遺物 (525~528) 525・526は土師器培烙である。527は肥前の陶器皿で17世紀末から18世紀初頭のものである。528は肥前の磁器皿で見

込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。17世紀末から18世紀初頭のものである。

土坑S K310出土遺物 (529・530) 529・530は瀬戸美濃の陶器皿である。529は17世紀後葉のもの、530は18世紀前葉のものである。

土坑S K311出土遺物 (531～556) 531～536は土師器皿である。537は土師器培塔である。538は肥前の京焼風陶器平椀である。底部外面に「木下弥」の刻印^③がある。17世紀後葉から18世紀初頭のものである。539は瀬戸美濃の陶器椀で17世紀中葉から後葉のものである。540・541は瀬戸美濃の陶器杯で、540は17世紀後葉のもの、541は17世紀後葉から18世紀前葉のものである。542は瀬戸美濃の陶器志野皿である。543～548は肥前の磁器椀である。543は17世紀後葉のもの、544は1650年代から1660年代のものである。545は型紙刷で17世紀末から18世紀初頭のもの、546は18世紀初頭のものである。547・548は17世紀末から18世紀初頭のものである。549は肥前の小杯である。550～553は肥前の磁器皿である。550は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ17世紀末から18世紀初頭のもの、551は白磁で17世紀後葉から18世紀前葉のものである。552は蛸唐草文が施されており、17世紀末から18世紀初頭のもの、553は青磁染付が施されている17世紀後葉から18世紀前葉のものである。554は磁器水滴である。555は肥前磁器で円形加工品である。556は軒丸瓦で左巻三巴である。

土坑S K314出土遺物 (557～564) 557・558は土師器皿である。559は土師器鍋である。560は土師器十能である。561～563は陶器椀である。561・562は瀬戸美濃で17世紀中葉から後葉のものである。561は天目茶碗で562網目文が施されている。563は京・信楽である。564は肥前の磁器椀で17世紀のものである。

土坑S K315出土遺物 (565～567) 565・566は土師器皿、567は土師器鍋である。

土坑S K316出土遺物 (568～574) 568～570は土師器皿である。569は灯明皿として使用されている。571・572は土師器培塔である。572は焼成前穿孔が認められる。573は瀬戸美濃の陶器椀である。574は瀬戸美濃の陶器鉢で、外部底面に墨書が認められる。18世紀前葉のものである。

土坑S K318出土遺物 (575) 575は肥前磁器椀で17世紀後葉のものである。

土坑S K319出土遺物 (576～578) 576は土師器皿である。577は瀬戸美濃の陶器片口鉢で17世紀後葉のものである。578は瀬戸美濃の陶器香炉で18世紀前葉のものである。

土坑S K320出土遺物 (579) 579は京焼の陶器椀であろうか。17世紀後葉から18世紀前葉のものである。

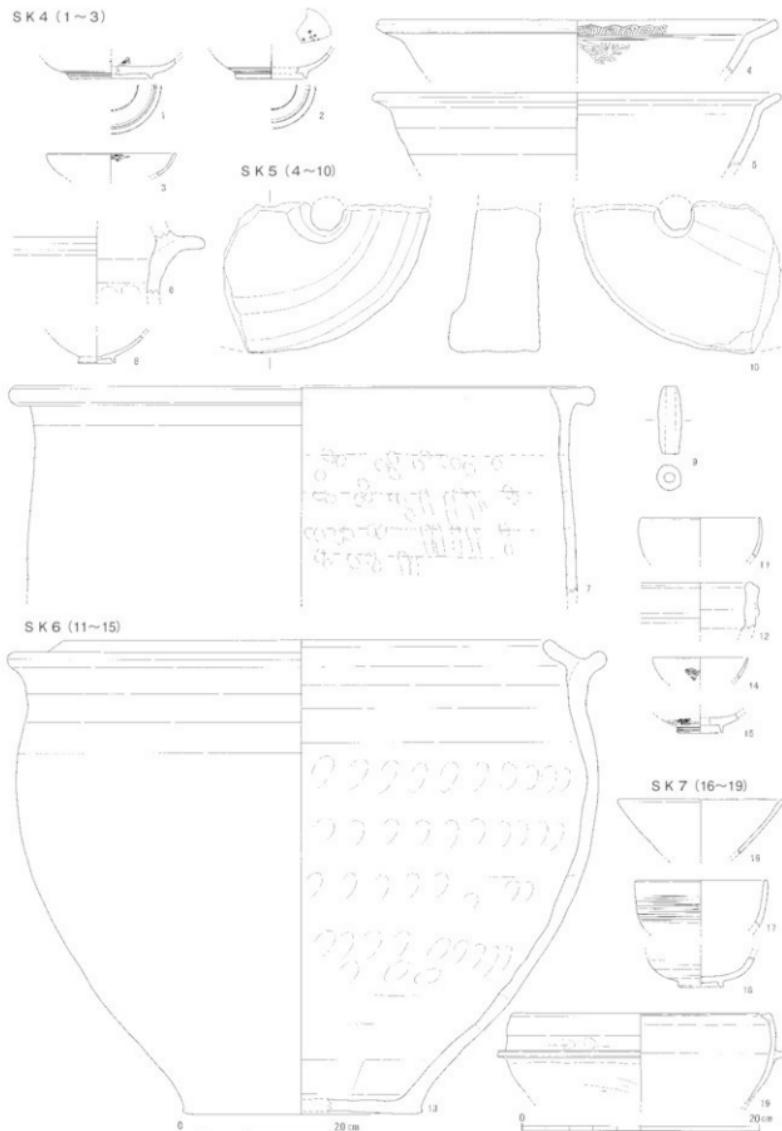
溝 S D228出土遺物 (580) 580は肥前の磁器椀で18世紀前葉から中葉のものである。

溝 S D301出土遺物 (581) 581は肥前の磁器皿で外部底面に「大明年製」と記されている。17世紀末から18世紀初頭のものである。

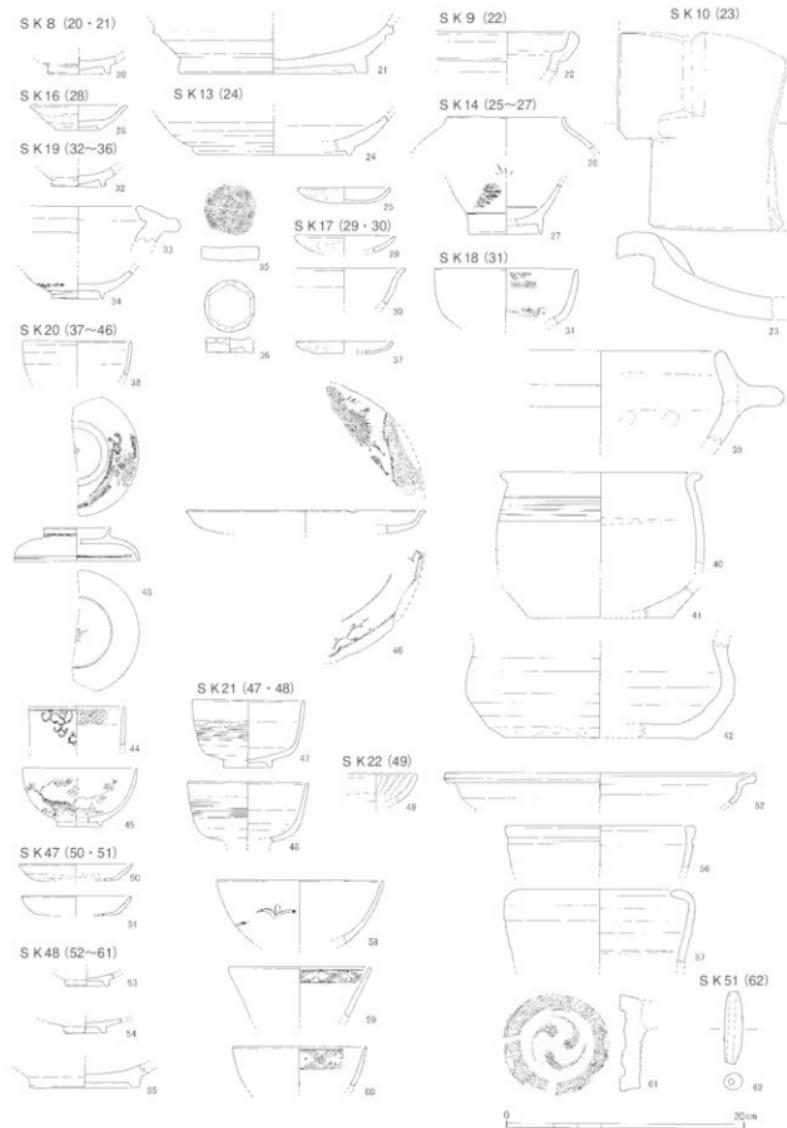
Pit(上層)出土遺物 (582～635) 582～588は土師器皿である。589は土師器培塔で、590は土師器壺である。591～602は陶器椀である。591は京・信楽で18世紀中葉のものである。592は信楽か。593～601は瀬戸美濃である。593は拳骨茶碗で18世紀後葉のものである。594～601は瀬戸美濃である。597～600は腰錆茶碗で、600は18世紀第2四半期のものである。

602は肥前京焼風で17世紀後葉から18世紀初頭のものである。603は瀬戸美濃の陶器皿である。604は肥前の陶器鉢で象嵌が施されている。605～610は瀬戸美濃の陶器鉢である。609は火鉢、610は片口鉢であろうか。611は瀬戸美濃の香炉である。612は瀬戸美濃の陶器半筒で、18世紀中葉のものである。613は瀬戸美濃の陶器秉燭である。614～621は肥前磁器で、614・615は椀蓋で、614は外面は青磁染付が施されている。615は広東椀蓋である。616～620は椀で、618はくらわんか椀である。621は杯である。622は瀬戸美濃の磁器端反椀である。623～629は肥前磁器皿である。623・624は17世紀第3四半期のもの、625は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。627は蛇の目四型高台で18世紀後葉のものである。630は景德镇の芙蓉皿で、1620年代から1640年代のものである。631は瀬戸の磁器皿であろうか。632・633は紅皿で632は肥前の18世紀のものである。634は肥前の磁器利である。635は肥前の磁器瓶で17世紀後葉のものである。

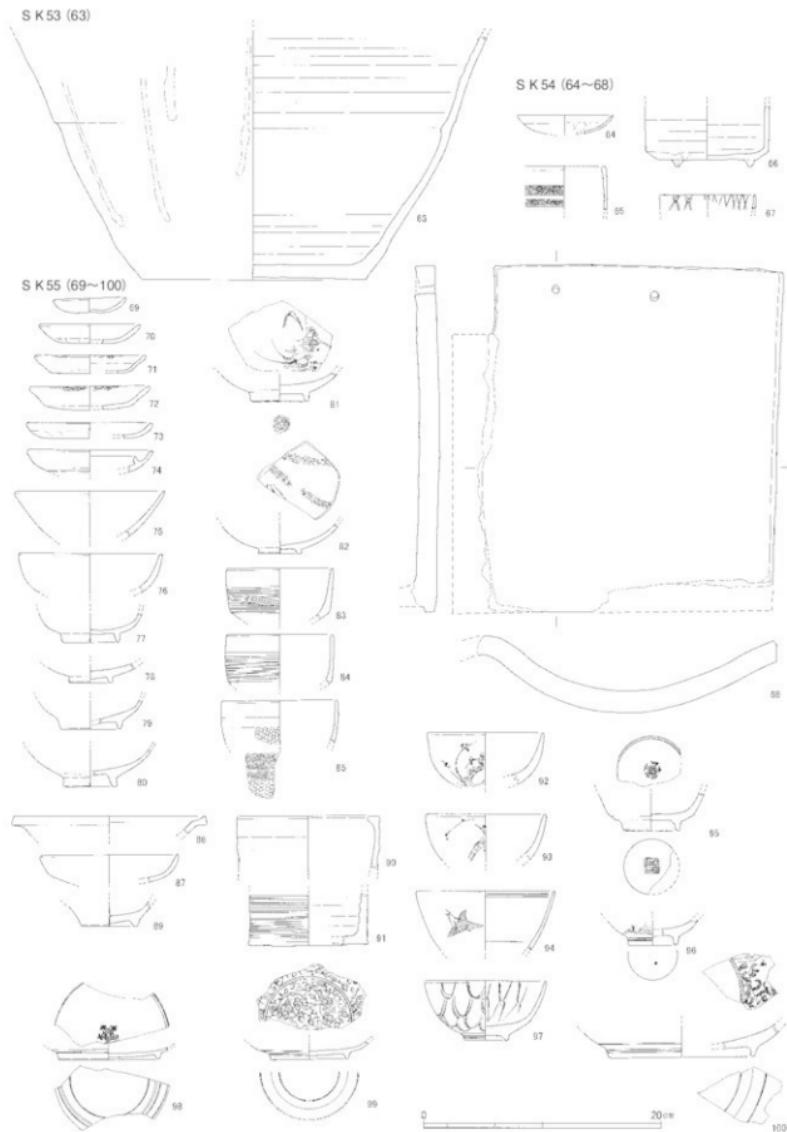
Pit(下層)出土遺物 (636～710) 636～646は土師器皿である。647は土師器鍋、648は陶器山茶椀である。



第12図 出土遺物実測図① (1 : 4) (7~13は1 : 6)

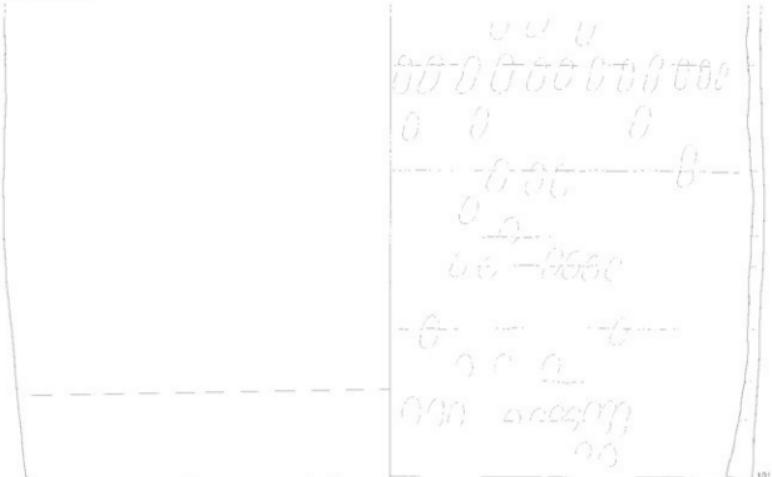


第13図 出土遺物実測図② (1 : 4)



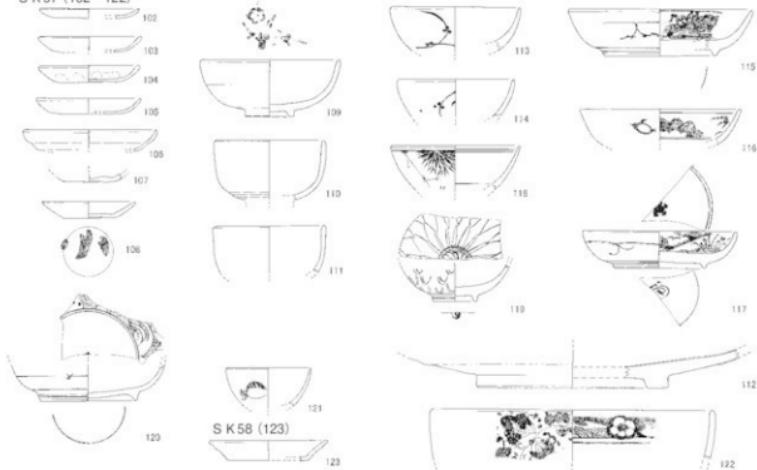
第14図 出土遺物実測図③ (1 : 4)

S K56 (101)



101

S K57 (102～122)

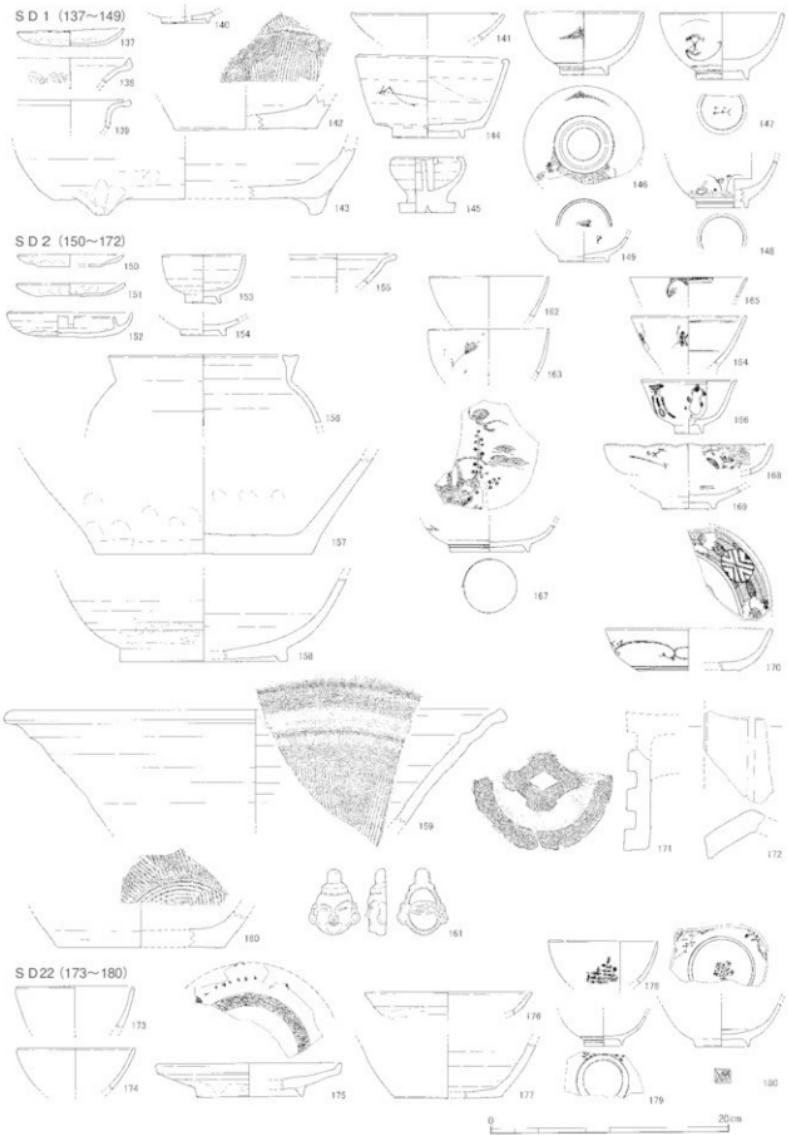


0 20 cm

第15図 出土遺物実測図④ (1 : 4)

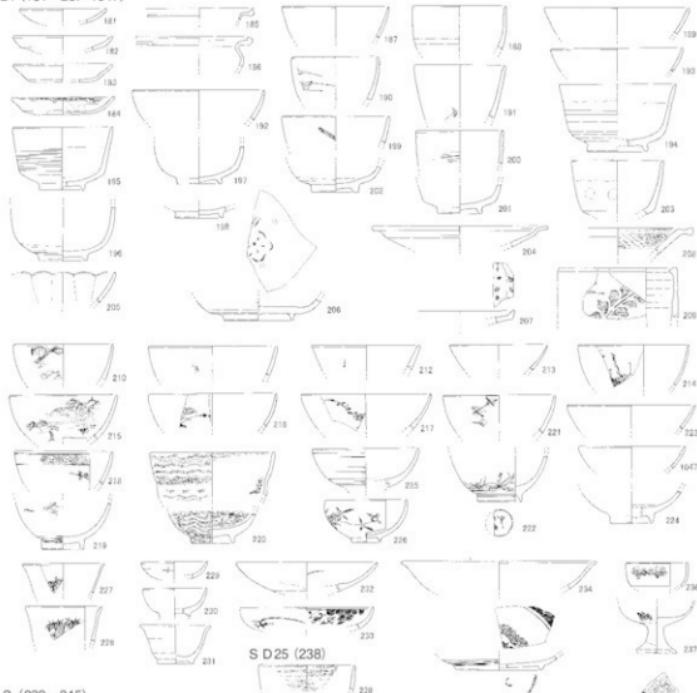


第16図 出土遺物実測図⑤ (1:4) (131は1:6)



第17図 出土遺物実測図⑥ (1 : 4)

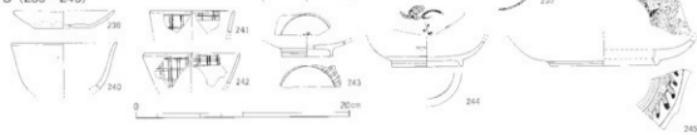
S D 24 (181~237・1047)



S D 25 (238)



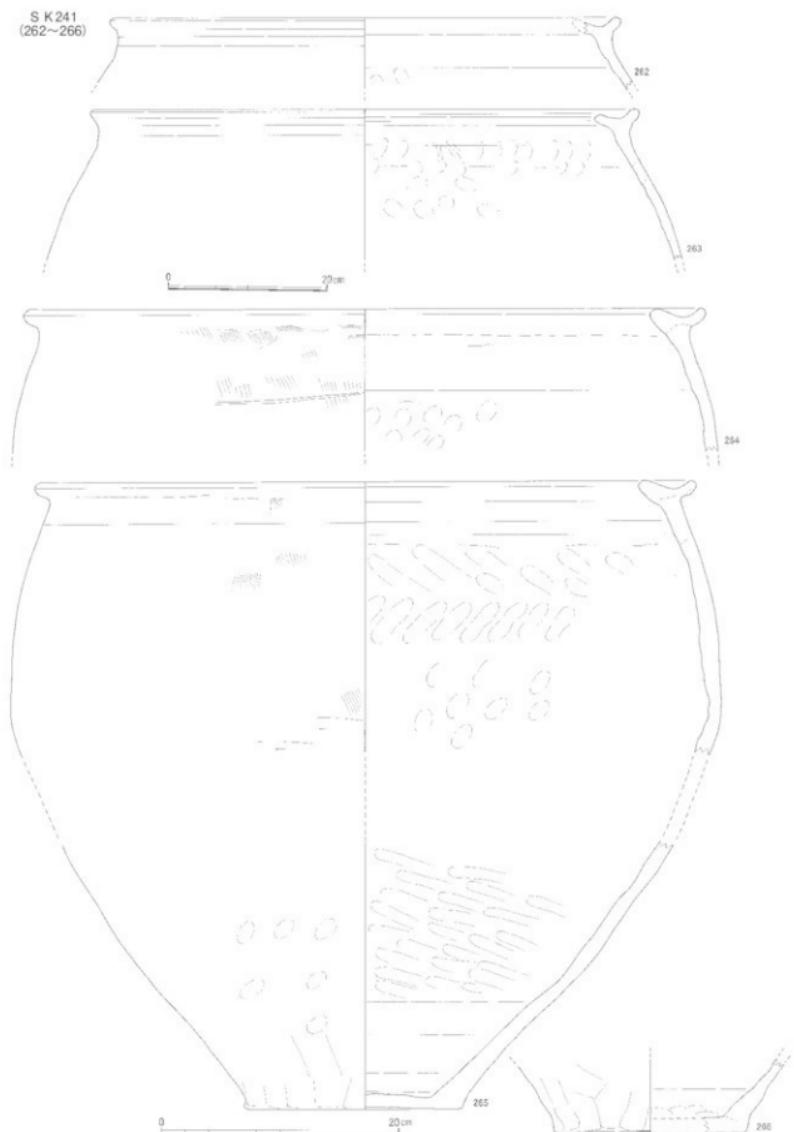
S E 3 (239~245)



第18図 出土遺物実測図⑦ (1 : 4)



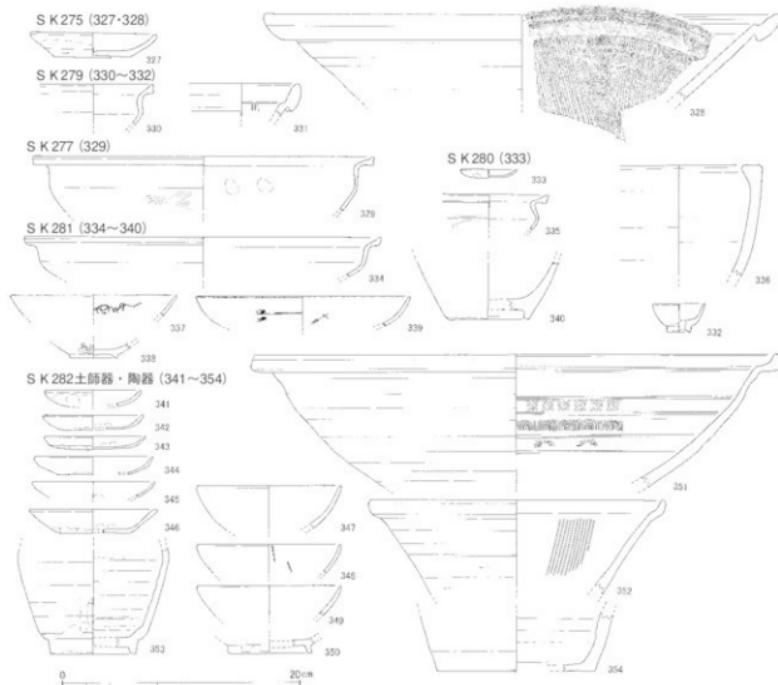
第19図 出土遺物実測図⑧ (1:4)(258は1:6)(261は1:2)



第20図 出土遺物実測図⑨ (1:4) (262・263は1:6)



第21図 出土遺物実測図10 (1 : 4) (290は1 : 2)



第22図 出土遺物実測図① (1 : 4)

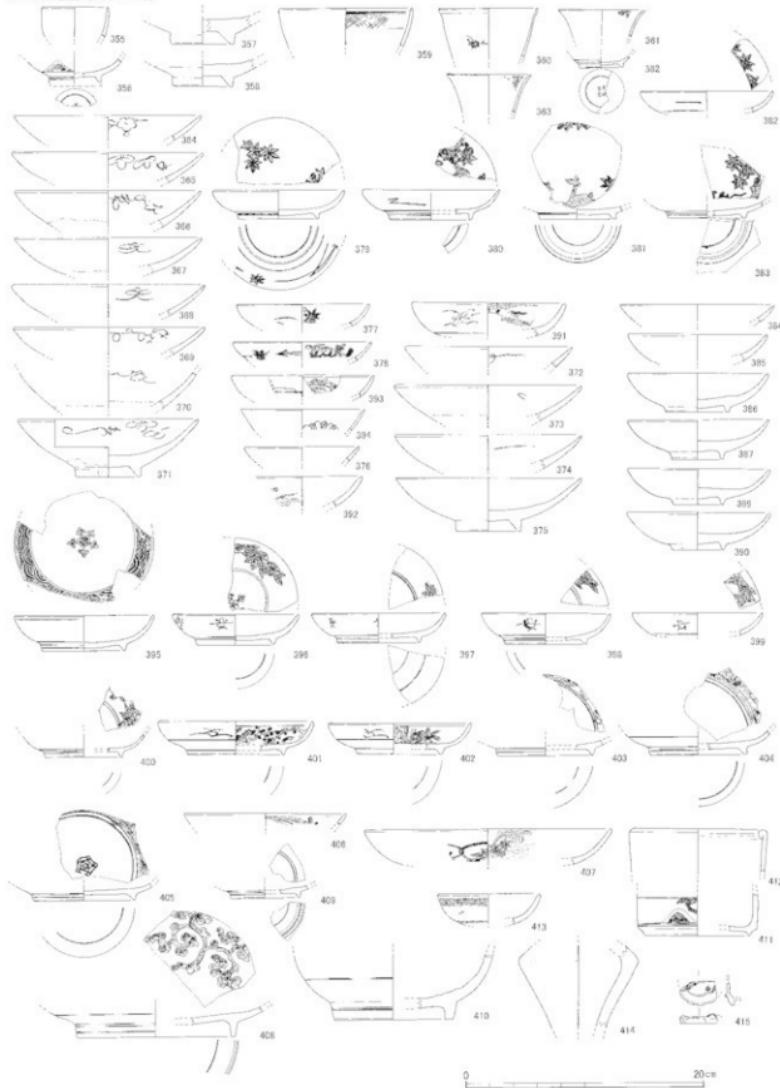
649～667は陶器椀である。649は肥前の京焼風で、17世紀後葉から18世紀初頭のものであろうか。652は京・信楽、653は信楽、650・651・667は肥前である。650は刷毛目椀である。654は信楽か。655～666は瀬戸美濃である。655・656は瀬戸美濃の陶器天目茶椀で、17世紀前葉のものである。662は18世紀後葉のもの、664は腰錦茶椀である。668～672は陶器皿で、668は御深井の17世紀後葉のものである。669は京・信楽、670～672は瀬戸美濃で、672は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。673～676は陶器鉢である。673は肥前、674～676は瀬戸美濃である。677～681は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、17世紀末から18世紀のものである。682は常滑の火鉢である。683～685は陶器壺である。683は瀬戸美濃の18世紀後葉のもので

ある。686～688は瀬戸美濃の陶器香炉である。686は17世紀後葉のものである。689は土鍤である。690は瀬戸の端反椀か。691～700は肥前磁器椀である。695・696は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ、696は剥ぎに色絵が施されている。697は色絵椀で17世紀末のものである。701～706は肥前磁器皿である。703は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られる。707は肥前磁器鉢で、708は肥前磁器猪口である。709は瀬戸の白磁鉢である。

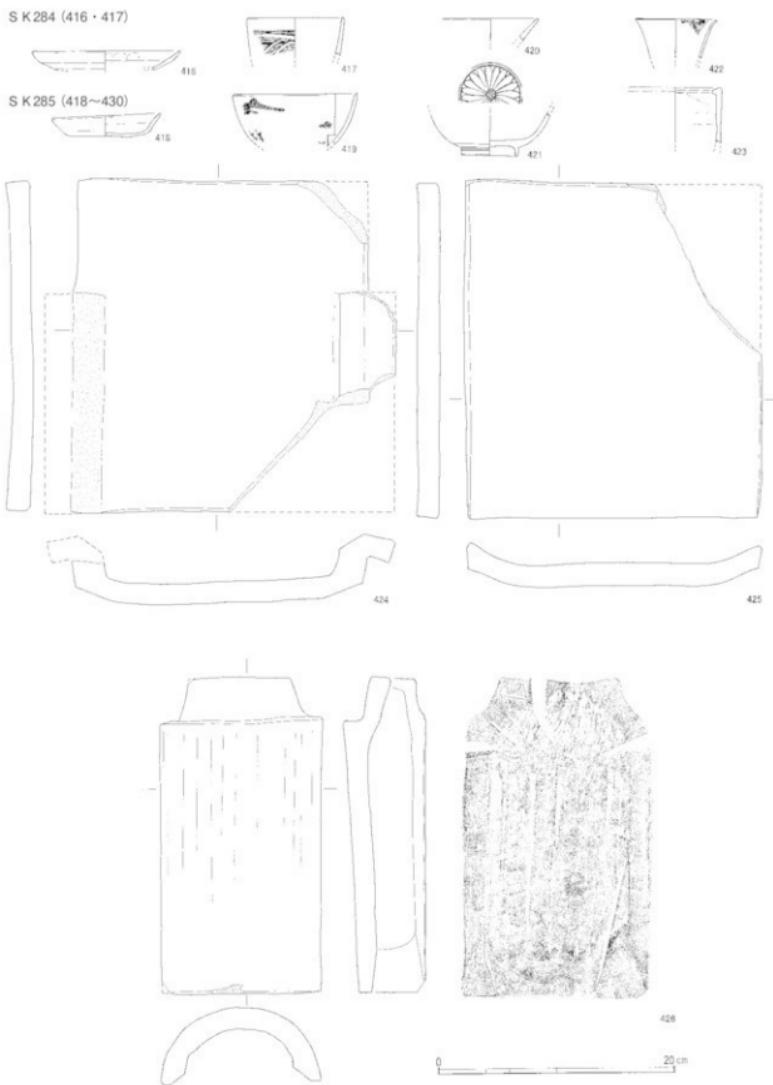
S B 317出土遺物 (710) 710はミニチュア磁器である。

包含層(上層)出土遺物 (711～755) 711・712は土器皿である。713～720は陶器椀である。713は肥前京焼風で、714は刷毛目椀である。715・716は京・

S K282磁器 (355~415)

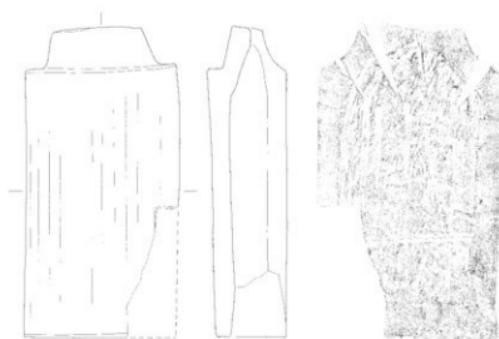


第23図 出土遺物実測図② (1 : 4)

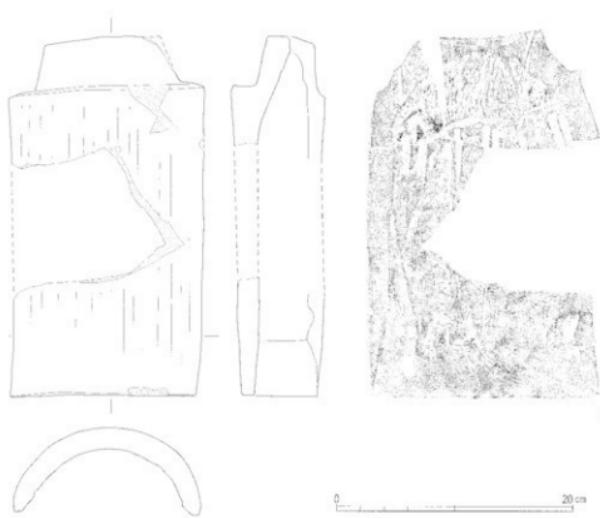


第24図 出土遺物実測図③ (1 : 4)

S K 285 (418~430)



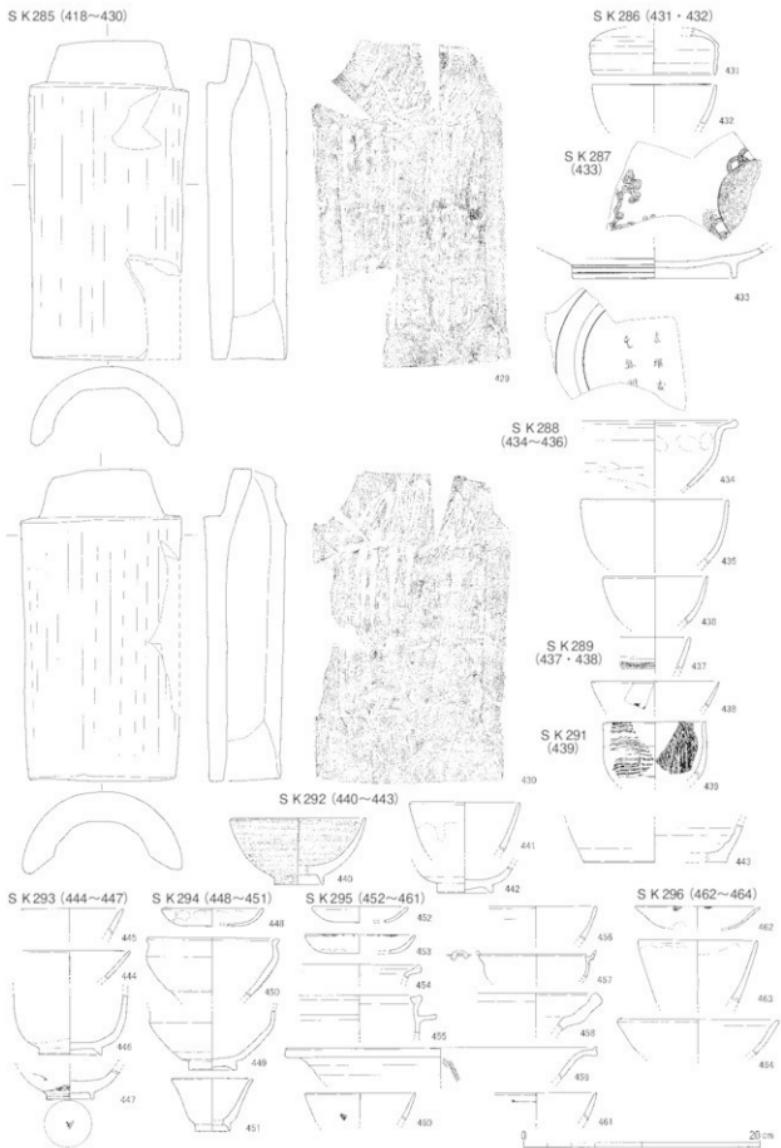
427



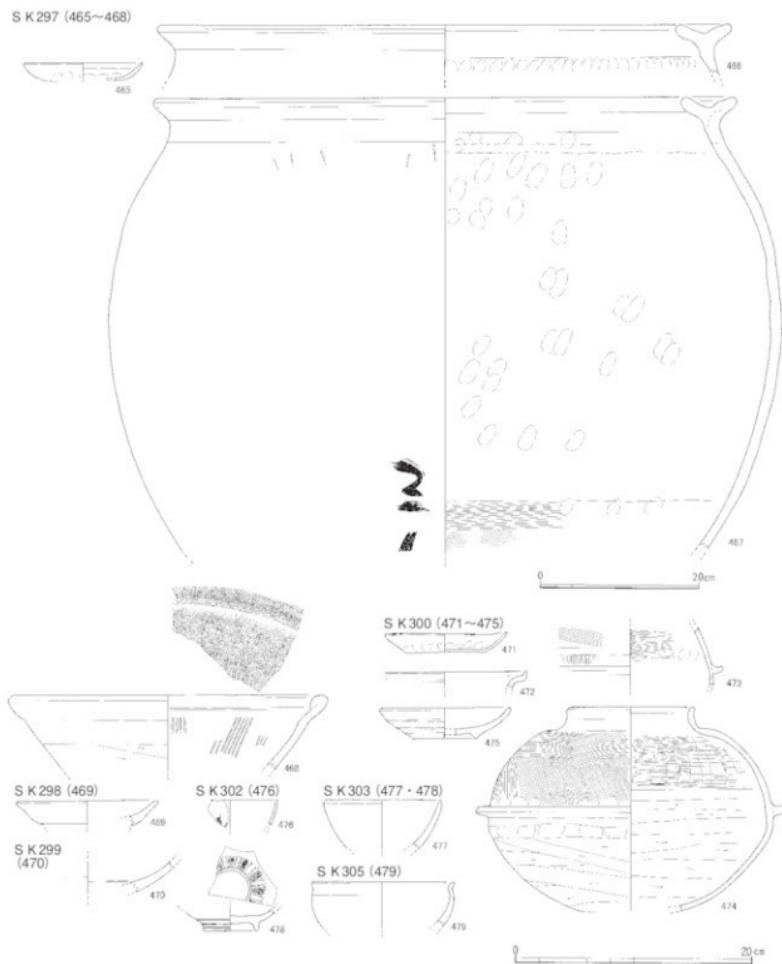
428



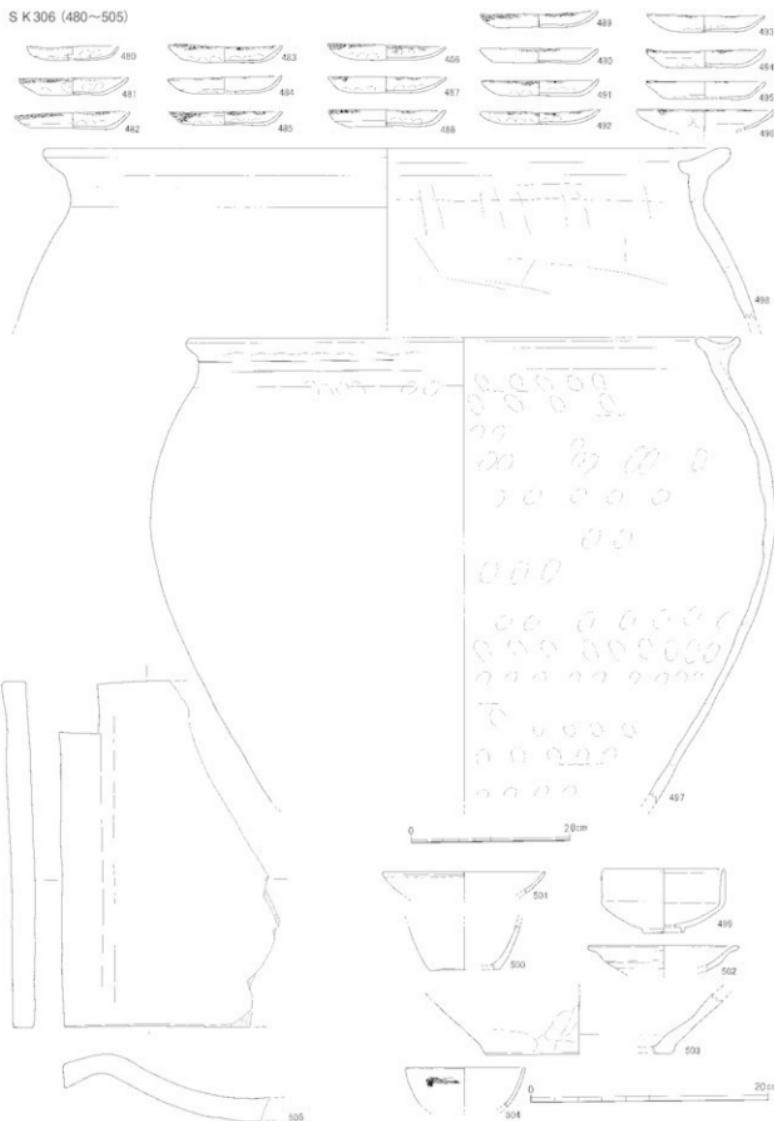
第25図 出土遺物実測図④ (1 : 4)



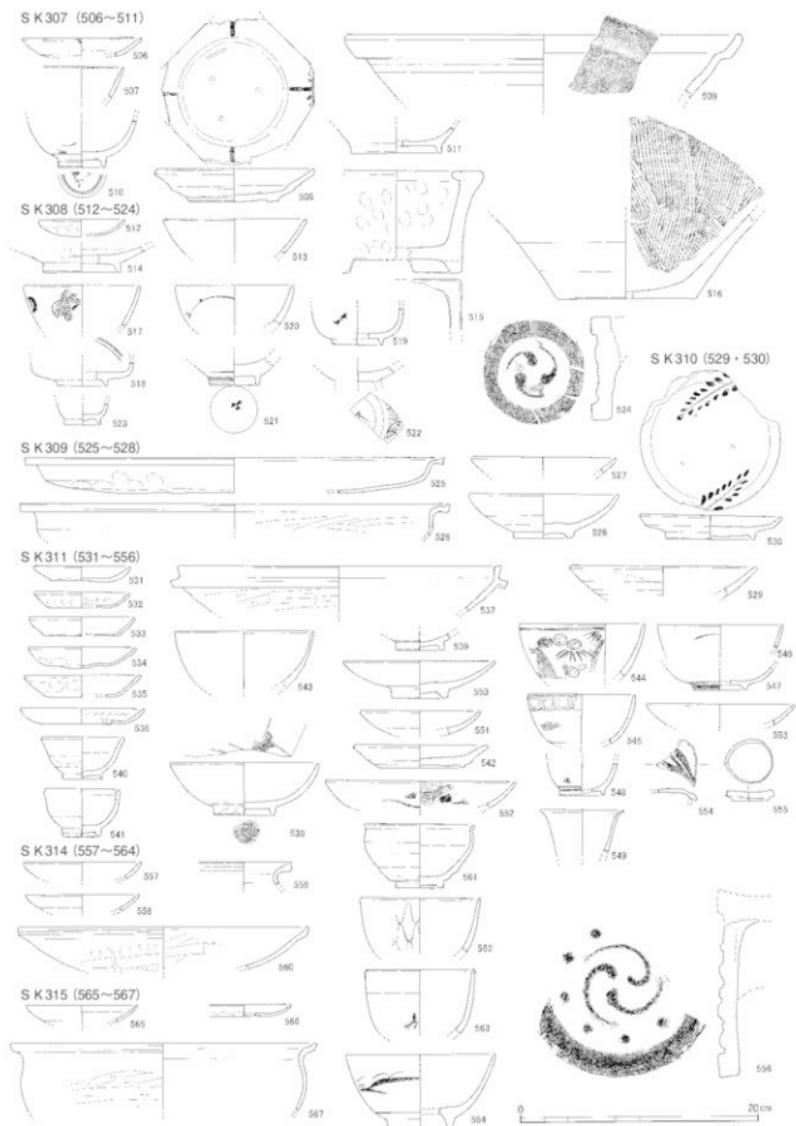
第26図 出土遺物実測図⑮ (1 : 4)



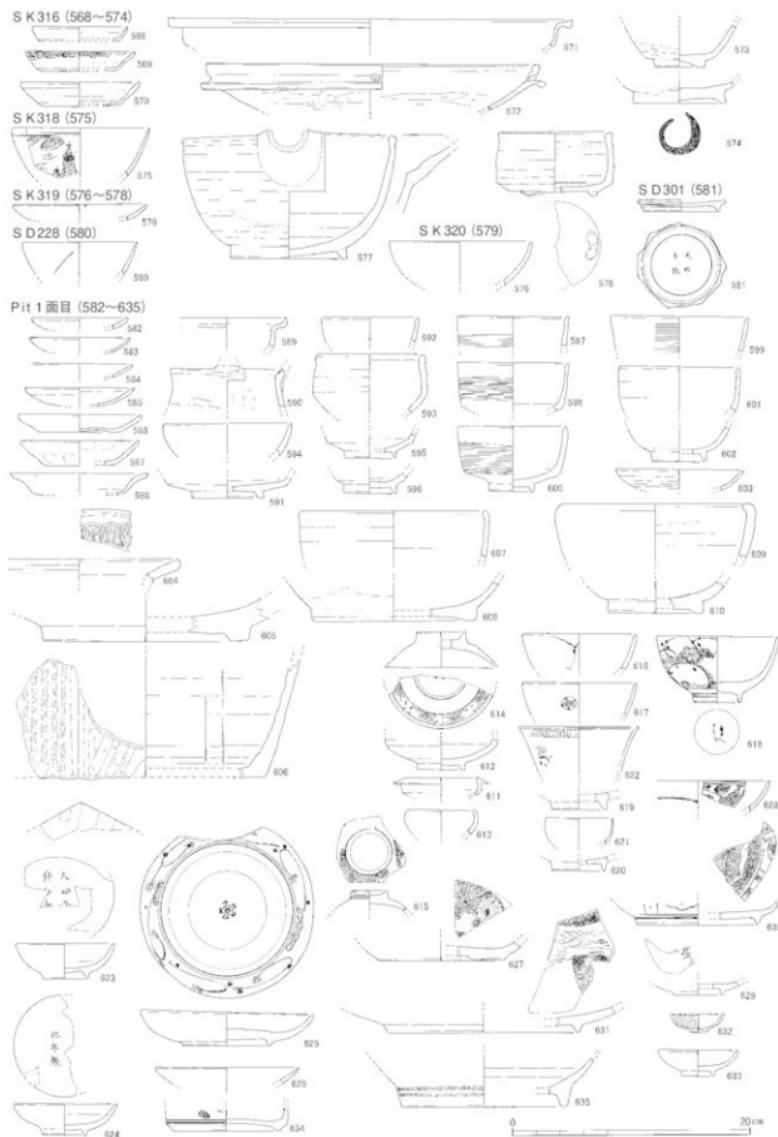
第27図 出土遺物実測図⑯ (1 : 4) (466・467は1 : 6)



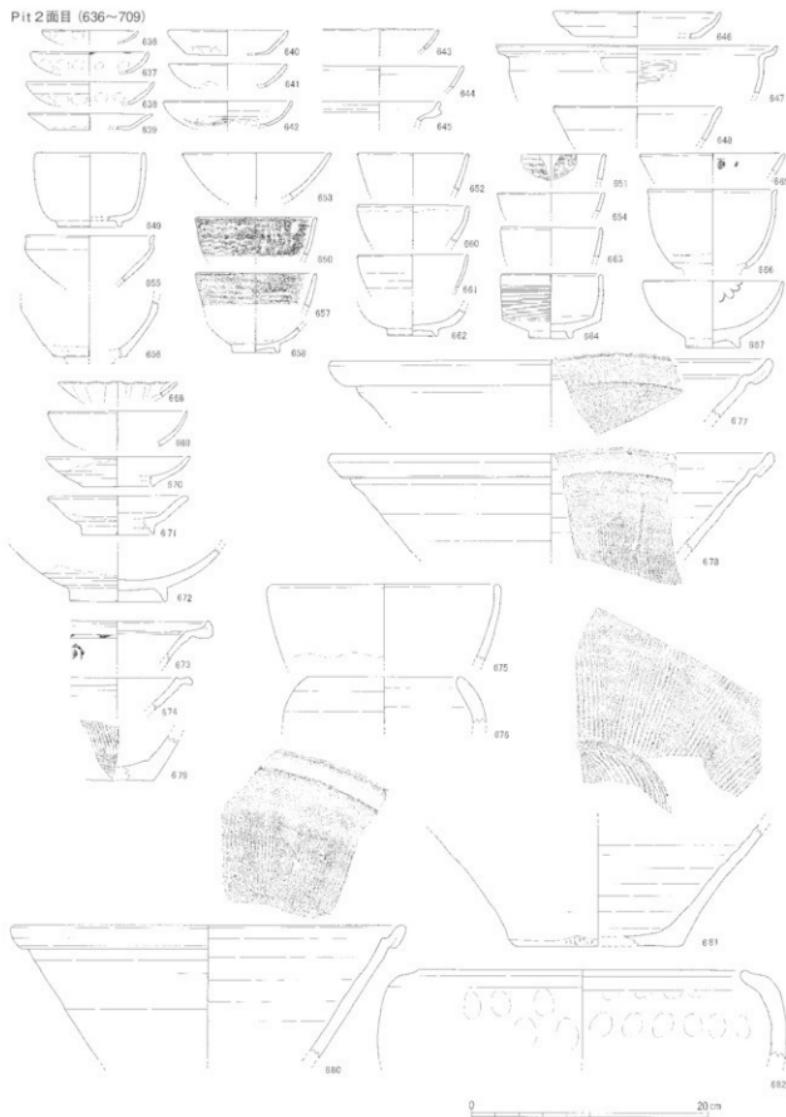
第28図 出土遺物実測図⑰ (1 : 4) (497は1 : 6)



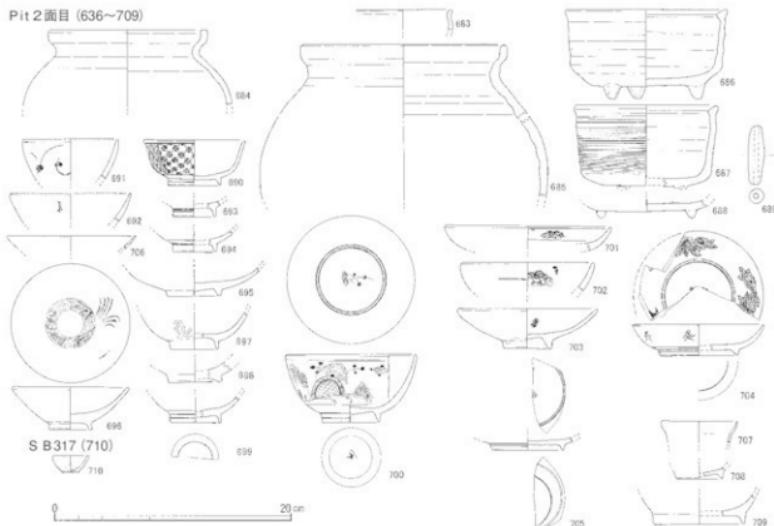
第29図 出土遺物実測図⑮ (1 : 4)



第30図 出土遺物実測図19 (1 : 4)



第31図 出土遺物実測図② (1 : 4)

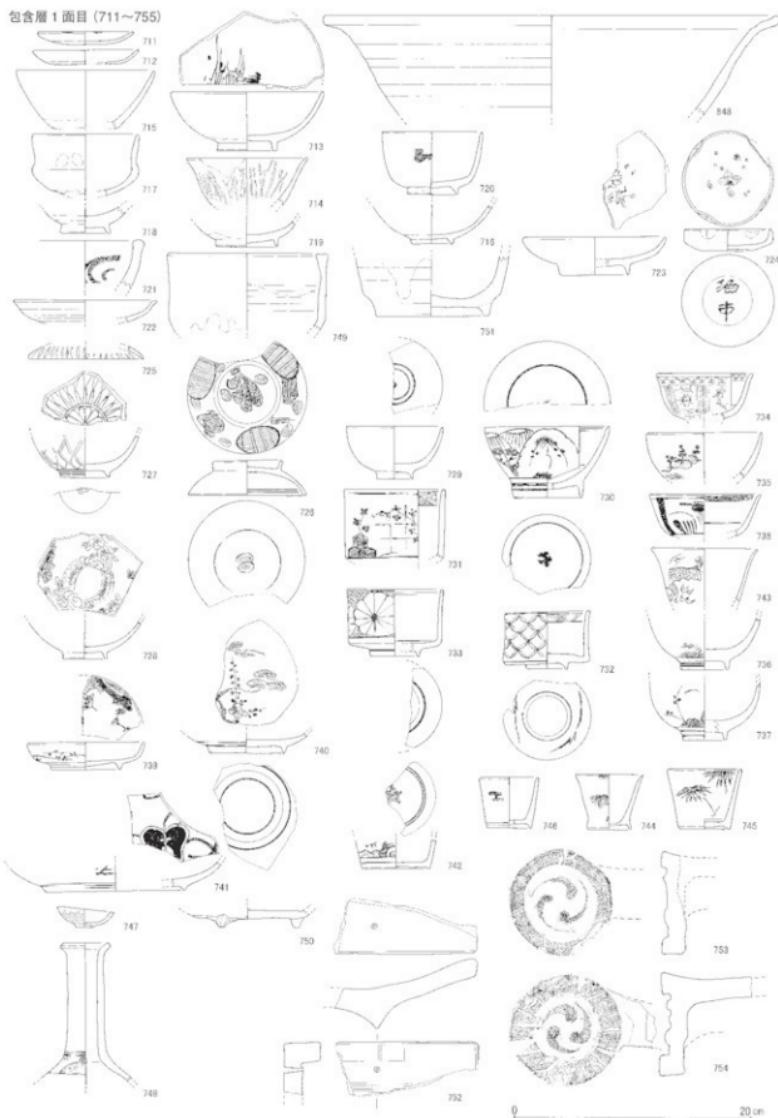


第32図 出土遺物実測図② (1 : 4)

信楽である。717～720は瀬戸で、717は拳骨茶碗である。720は御室茶碗で18世紀前葉のものである。721～724は陶器皿である。721は瀬戸美濃の馬の目皿で18世紀末のものである。722は肥前、723は瀬戸美濃であろうか。724は肥前の京焼風で、底部外面に「□市」の墨書きがある。725・726は肥前磁器の椀蓋で、725はくらわんか椀蓋である。727～737は肥前の磁器椀である。727は網目文。728はコンニャク印判、色絵が施されており18世紀前葉のもの。729は青磁染付、730は広東椀である。731～733は筒形椀で、731・732は17世紀第4四半期のものである。734は19世紀中葉のもの、736はくらわんか椀である。738は瀬戸の磁器椀である。739～741は肥前の磁器皿である。742は肥前の磁器蕪麦猪口で第4四半期のものである。743～745は肥前の磁器猪口で、743は18世紀末から19世紀前葉のものである。746は瀬戸の磁器猪口である。747は肥前の磁器紅皿である。

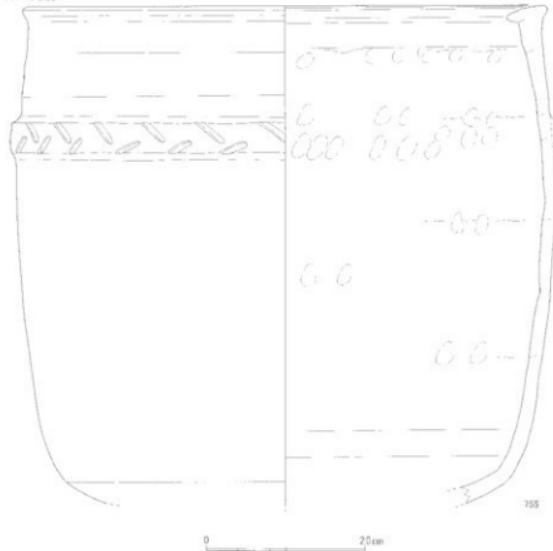
748は肥前の磁器瓶で19世紀のものか。749・750は瀬戸美濃の陶器香炉である。752は平瓦で、753・754は軒丸瓦である。755は陶器壺である。

包含層(下層)出土遺物 (756～1011) 756～765は土師器皿である。766は土師器蓋で見込みに摘みを有する。767・768は土師器焰塔である。769は土師器茶釜、770は土師器茶釜である。771は土鉢である。772は陶器椀蓋である。773は陶器山茶椀である。774～832は陶器椀である。774～783は肥前の刷毛目椀である。774は1680年代のもの、780は18世紀のもの、782は19世紀前葉のものである。784～792は肥前の京焼風椀である。786・787は18世紀後葉のもの、789は底部外面に「清水」の刻印がある。790は底部外面に「木下弥」の刻印があり³、17世紀末以降のものである。793～797は瀬戸美濃の天目茶椀で、793は17世紀前葉のもの、794は17世紀後葉のものである。798～804は瀬戸美濃の腰錦茶椀で、801は18



第33図 出土遺物実測図2 (1 : 4)

包含層1面目(711~755)

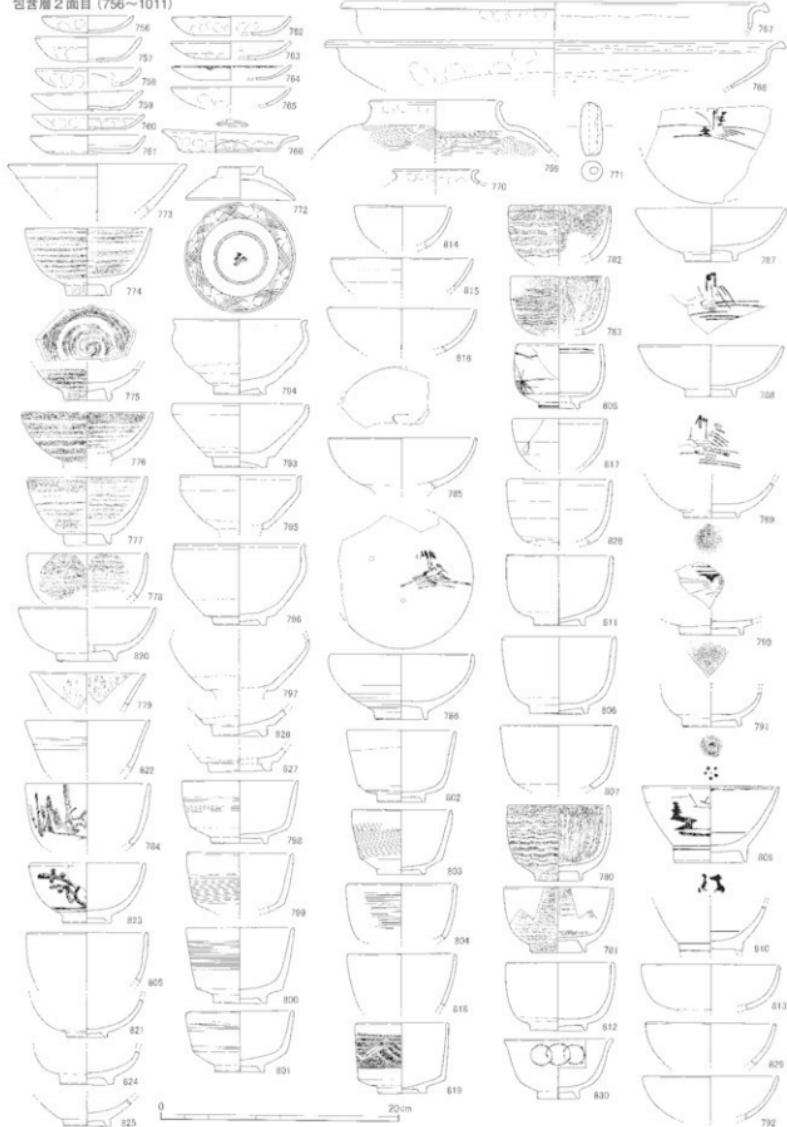


第34図 出土遺物実測図2 (1 : 6)

世紀中葉から後葉のものである。805～807は瀬戸美濃の丸椀である。808～810は瀬戸美濃の太白手である。808は18世紀末のもの、809は18世紀のものである。811～813は瀬戸美濃の御室茶椀である。814～819は京・信楽である。819は筒形椀で18世紀後葉から19世紀初頭のものである。820・821は肥前で820は17世紀後葉のものである。822～830は瀬戸である。830は奈良茶椀で18世紀後葉から19世紀初頭のものである。831・832は京・信楽の端反椀で19世紀のものである。833～850は陶器皿である。833は黄瀬戸で17世紀中葉から後葉のものである。834～843は瀬戸美濃である。834は17世紀後葉のもの、835は17世紀第3四半期のもの、836は17世紀のもの、837は18世紀後葉のものである。843は太白手である。840～849は肥前である。844・845は18世紀前葉のもの、847は刷毛目椀で18世紀前葉のものである。849は京焼風で底部外間に「木下弥」の刻印がある^③。850は京焼で18世紀前葉から中葉のものである。851は

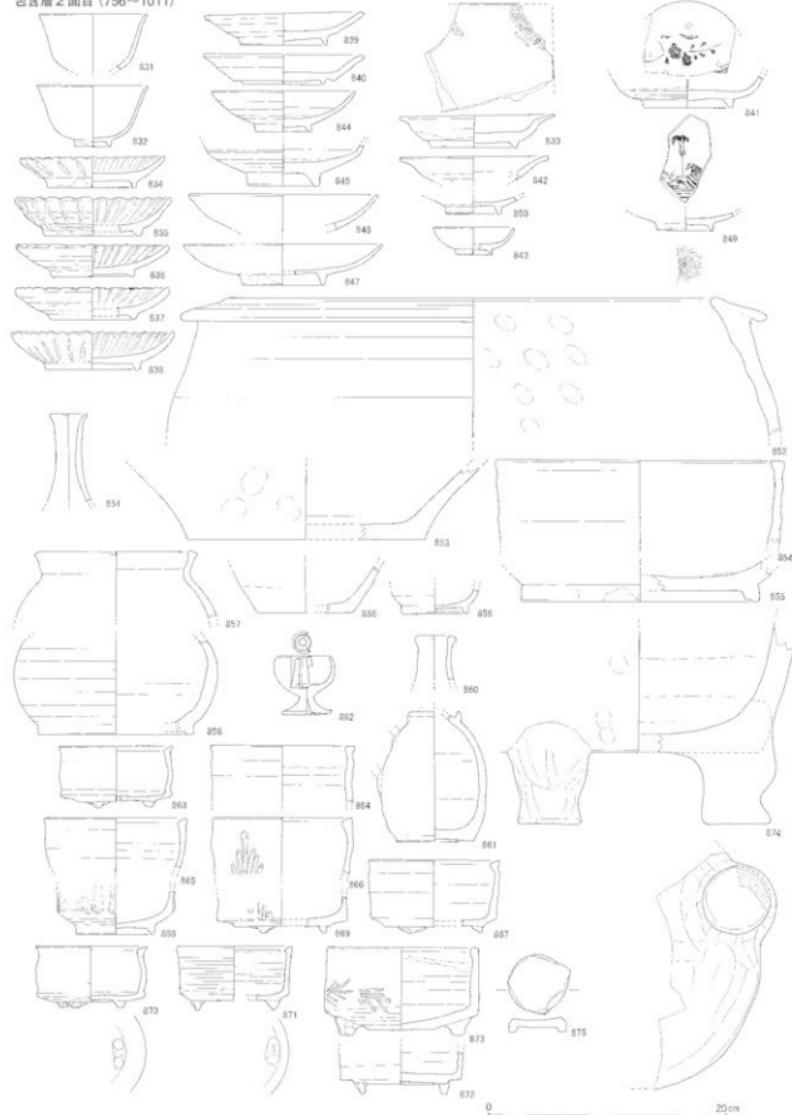
備前の陶器瓶である。852～856は陶器壺である。852は常滑で、853～855は瀬戸美濃で、856は備前である。857～859は陶器壺で、857・858は瀬戸美濃である。860は瀬戸美濃の御室徳利で17世紀末から18世紀初頭のもの、861は瀬戸美濃の油徳利で18世紀後葉から19世紀のものである。862は瀬戸美濃の秉燭である。863～873は陶器香炉で、863～872は瀬戸である。863は17世紀末から18世紀前葉のもの、868は18世紀前葉のものである。875は円形加工品である。876～883は陶器鉢で、876～881は瀬戸美濃である。876・877は笠原鉢で17世紀前葉から中葉のもので、878は片口鉢で17世紀前葉のものである。882・883は肥前で、882は三鳥手で17世紀末のものである。884は瀬戸美濃の陶器半胴か。885～896は瀬戸美濃の陶器擂鉢で、885～892は17世紀末から18世紀のもの、893～896は18世紀前葉のものである。897は肥前磁器碗蓋である。898は初期伊万里の磁器碗である。899～952は肥前磁器碗である。899は1650年代

包含層2面目(756~1011)

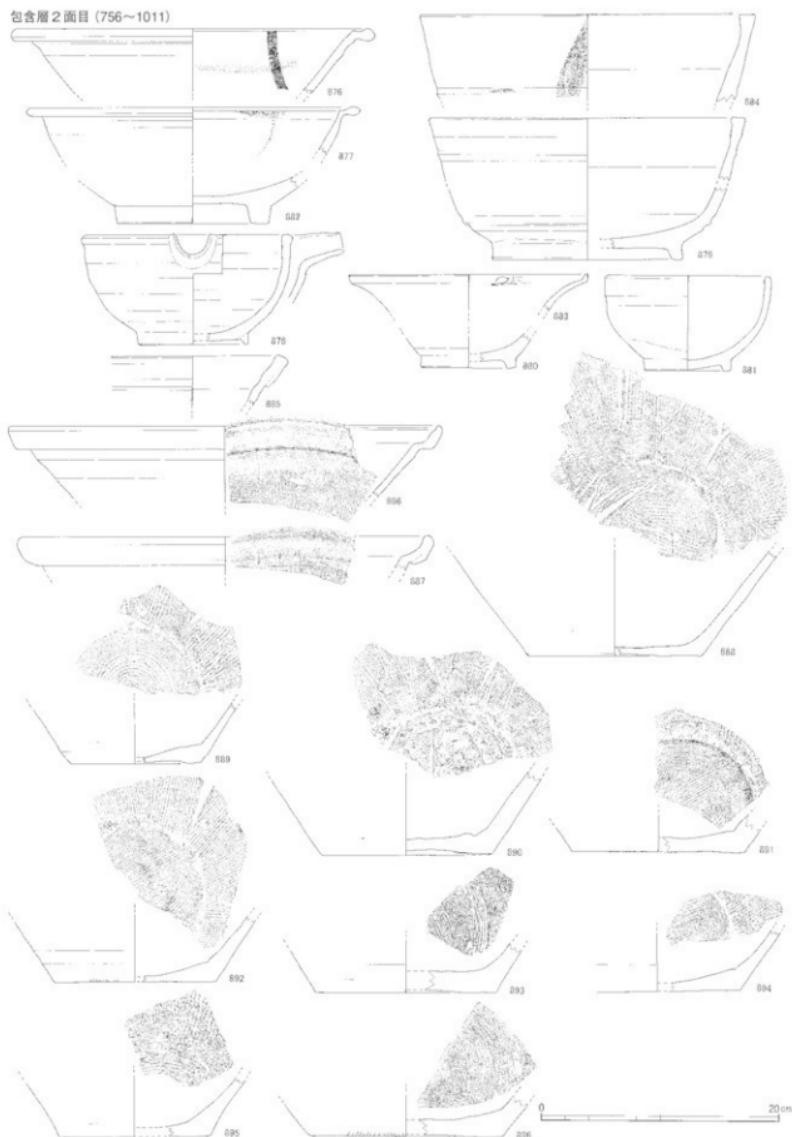


第35図 出土遺物実測図24 (1 : 4)

包含層2面目 (756~1011)

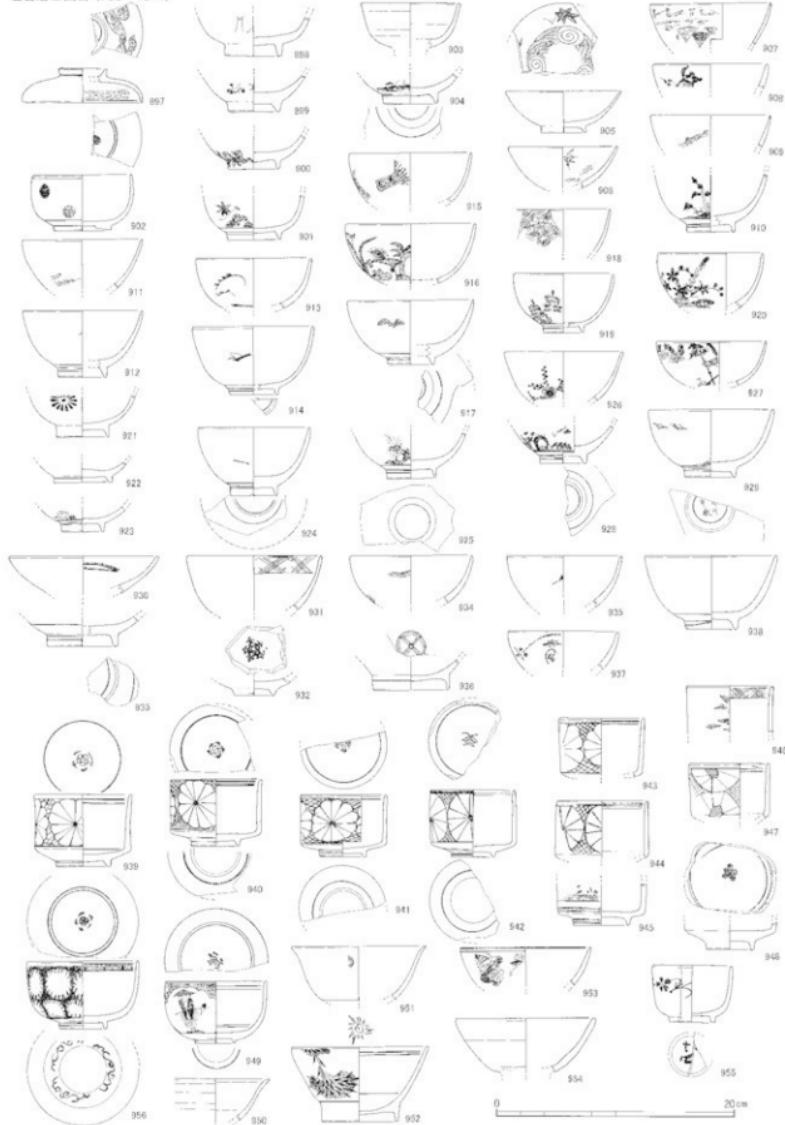


第36図 出土遺物実測図合 (1 : 4)



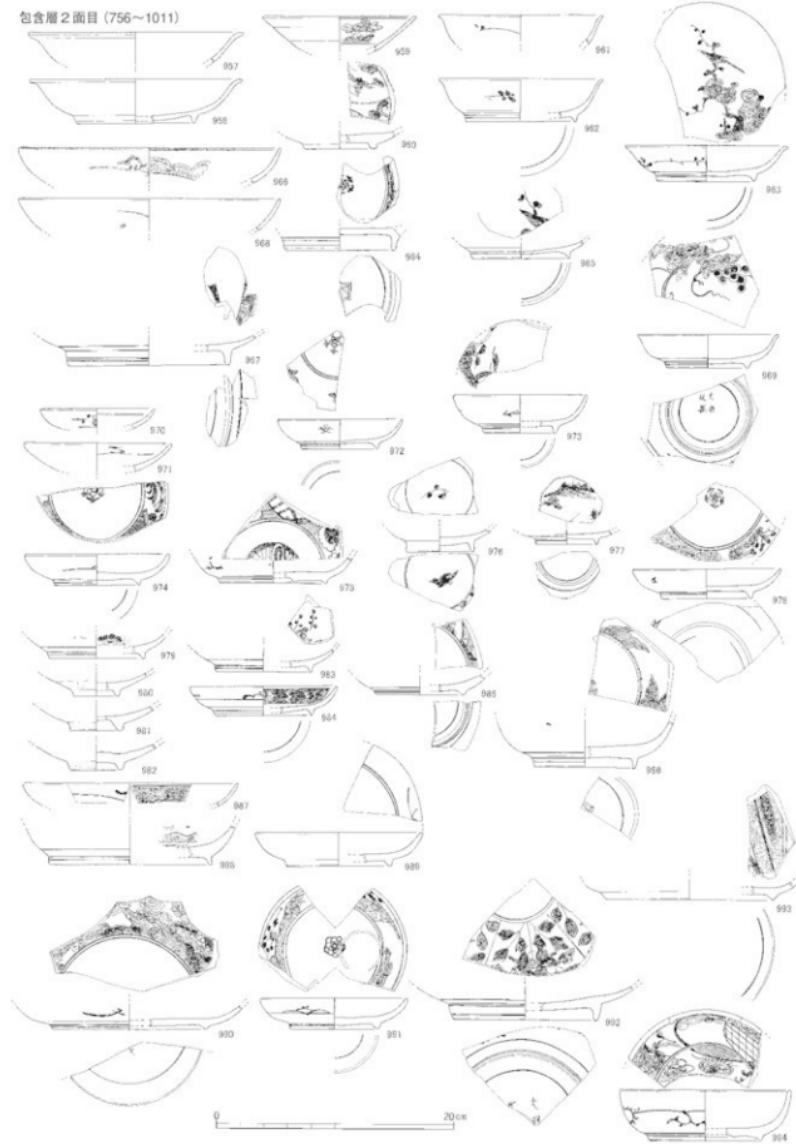
第37図 出土遺物実測図巻 (1 : 4)

包含層2面目 (756~1011)

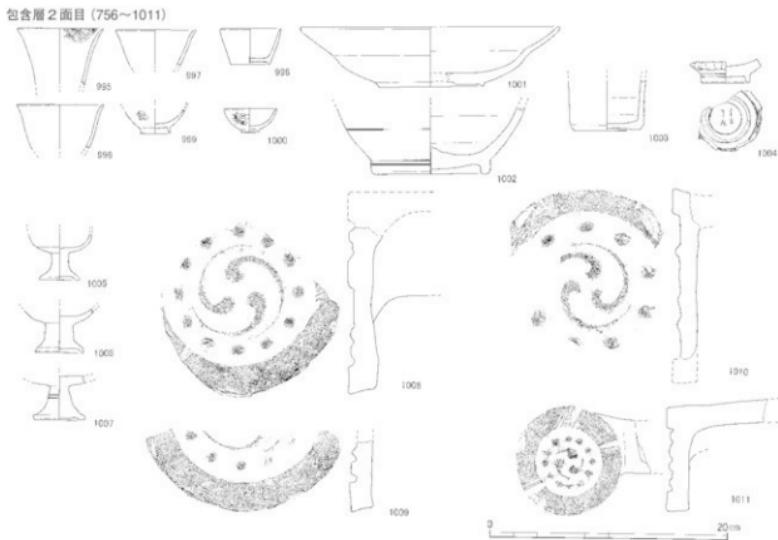


第38図 出土遺物実測図② (1 : 4)

包含層2面目 (756~1011)



第38図 出土遺物実測図28 (1 : 4)

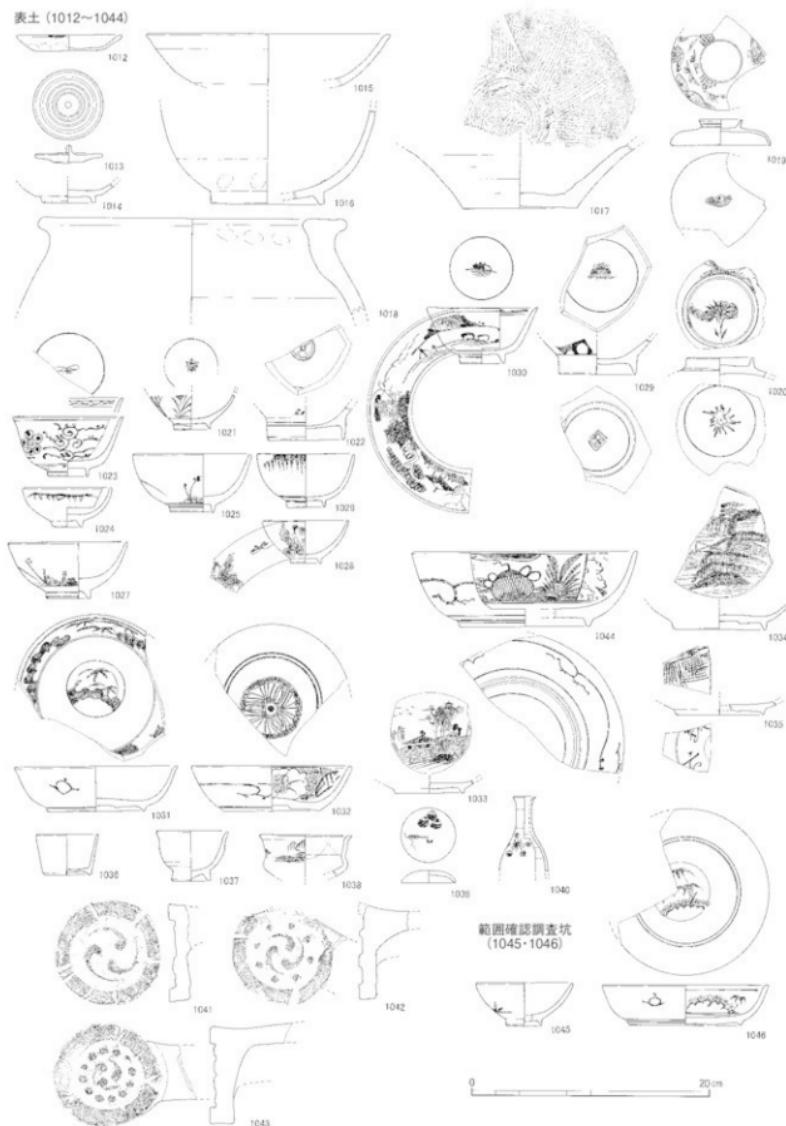


第40図 出土遺物実測図29 (1:4)

のもので、900・901は1670年代から1680年代のものである。902は蓋物で元禄年間のものである。903は17世紀後葉のもの、904は17世紀末のものである。905は見込みの蛇の目釉剥ぎに色絵が施されたもの、906は色絵挽である。919は18世紀前葉のものである。931は外面に青磁染付が施されており、932は青磁染付の18世紀のものである。938はくらわんか椀である。939～948は筒形椀で、948は青磁染付が施されている。950・951は端反椀である。952は広東椀で18世紀末のものである。953～955は瀬戸の磁器椀で、955は19世紀中葉のものである。956は小丸椀で18世紀後葉のものである。957・958は景德鎮の磁器皿で、明末のものである。959・960は初期伊万里の磁器皿で、959は1630年代から1640年代のものである。961～994は肥前の磁器皿である。961～963は1650年代から1660年代のものである。964は17世紀末のもの、965は17世紀第4四半期のものである。966・967は17世紀末から18世紀のもので、969は底部外面に「大

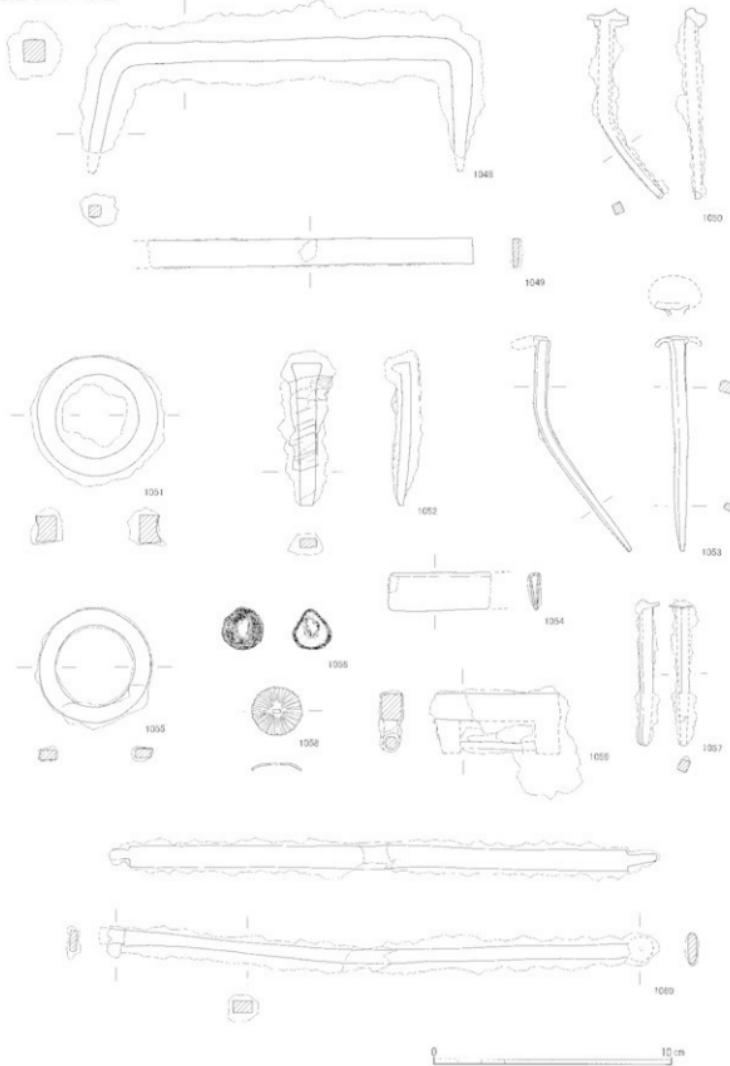
明化製」と記されている。981・982は見込みには蛇の目釉剥ぎが見られ、982は青磁染付である。987は墨弾きが施されており、元禄年間のものである。990は18世紀前葉から中葉のもの、992は18世紀後葉のもの、994は18世紀末から19世紀初頭のものである。995～998は肥前の磁器猪口である。995は描繪が施されており、17世紀末のものである。996は白磁である。999は肥前の磁器小杯で、1000は肥前の磁器紅皿で、海老が描かれている。1001・1002は肥前の磁器鉢で、1001は青磁染付が施されており、17世紀後葉のものである。1003は肥前の磁器灰吹で青磁染付が施されている。1005～1007は肥前の磁器仏飯器である。1008～1011は軒丸瓦である。

表土出土遺物 (1012～1044) 1012は土師器灯明皿である。1013は信楽の陶器急須蓋である。1014は肥前の陶器刷毛目椀である。1015・1016は瀬戸美濃の陶器鉢である。1017は瀬戸美濃の陶器描鉢で18世紀前葉のもので、1018は常滑の陶器壺である。1019・

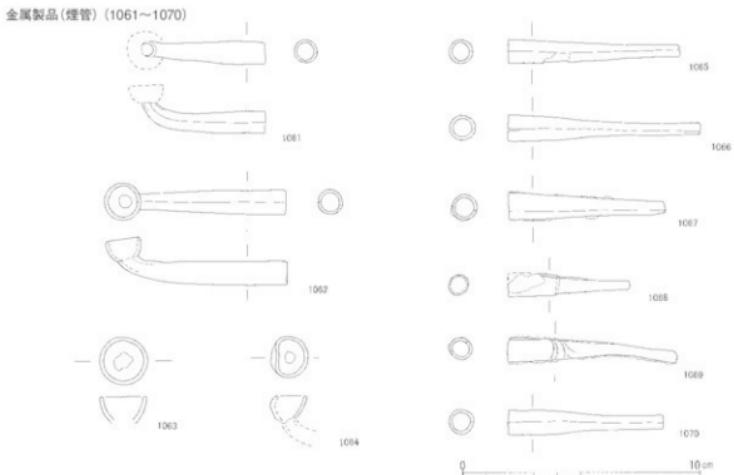


第41図 出土遺物実測図⑩ (1 : 4)

金属製品 (1048~1060)



第42図 出土遺物実測図③ (1 : 4)



第43図 出土遺物実測図㉙ (1 : 2)

1020は肥前の磁器掩盖で、1019は望料掩盖である。1021～1029は肥前の磁器碗である。1021は見込みに昆虫文が施されている。1022は広東碗で18世紀のものである。1023は19世紀中葉のものである。1030は瀬戸の端反椀である。1031～1034・1046は肥前の磁器皿である。1031・1046は蛇の目高台で18世紀末から19世紀初頭のもので、1032は見込みには蛇の目袖剥ぎが見られる。1034は蛇の目高台で1820年代のものである。1035は瀬戸の磁器皿で蛇の目高台部に墨書きがある。19世紀前葉のものである。1036は肥前の磁器猪口である。1037は瀬戸の磁器小杯である。1038は肥前の磁器香炉である。1039は磁器合子蓋で19世紀初頭のものである。1040は肥前の磁器小瓶である。1041～1043は軒丸瓦である。

範囲確認坑出土遺物 (1045～1046) 1045・1046は瀬戸の磁器である。1045は杯で、1046は皿で蛇の目高台である。

金属製品類

S D 2 出土遺物 (1048・1049) 1048は鍔である。1049は鉄製品で、細い板状を呈する。

S D 22 出土遺物 (1050) 1050は釘である。

S D 24 出土遺物 (1051～1054) 1051は輪状の鉄製品である。1052は釘であろうか。木質が付着している。1053は釘である。1054は鉄製品で板状を呈する。

S D 25 出土遺物 (1055) 1055は輪状の鉄製品である。

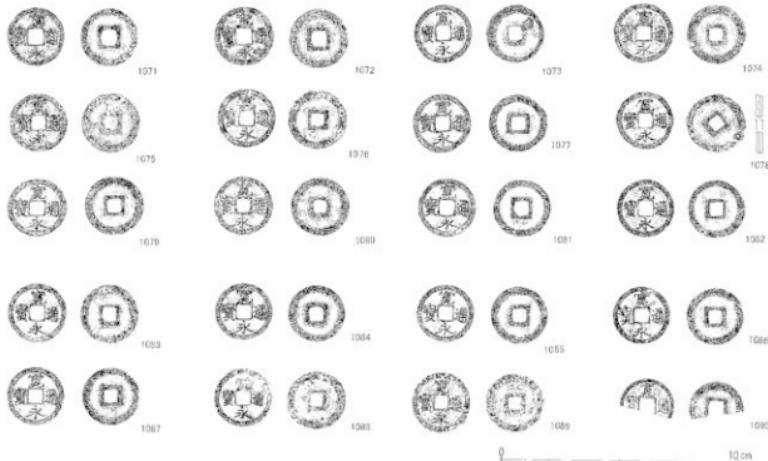
S K 20 出土遺物 (1056) 1056は雁首銭である。

Pit 出土遺物 (1057) 1057は釘である。

遺構外出土遺物 (1058～1060) 1058は金飾りである。1059は鏡前である。合田芳正氏の分類によるV群に相当し^③、16世紀のものと考えられる。

金属製品類(煙管) (1061～1070) 煙管は、すべて銅製で、雁首と吸口を羅字で繋ぐタイプのものである。1061～1064は雁首。古泉弘氏によるV段階に相当し^③、19世紀のものか。1065～1070は吸口。金属

金属製品(銭貨・古寛永) (1071~1090)



第44図 出土遺物実測図⑩ (1 : 2)

板を丸め成形している。

金属製品類(銅銭) (1071~1132) 1071~1090は古寛永である。1091から1093は新寛永の四文銭で、1091・1092は裏面が11波である。1094~1131は新寛永の1文銭で、1095・1096・1102・1103・1116は文銭である。1132は銅銭が15枚接着したもので、銭貨の種類は判別できない。

その他の石製品 (1133~1136) 1133は石臼の下臼で、8分画である。1134は基石で、1135は基石であろうか。1136は礎石で、扁平な円錐である。加工痕はみられないが、柱のアタリ痕が丸く残る。番付と考えられる「ろ六」の墨書きがある。

(谷口)

〔註〕

①東京大学埋蔵文化財調査室『東京大学構内遺跡調査研究年報1』(1996年)

②伊藤裕作『近世土師器の形態と変遷』『高河原遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター(2015年)

③江南町教育委員会『野原元境内遺跡 文殊寺と京焼き写し』(1990年)

④合田芳正『古代の鍵』(1998年)

⑤古泉弘『江戸の考古学』(1987年)

〔参考文献〕

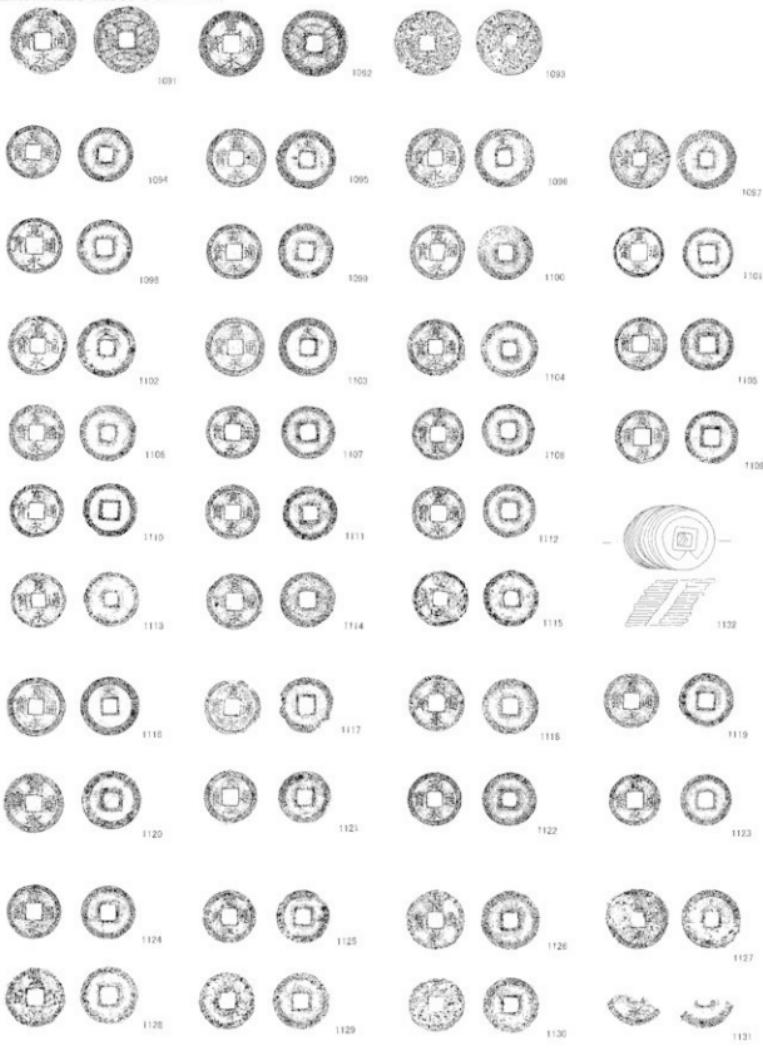
・小栗康寛『近世常滑窯の真燒窯類について』『第26回日本福祉大学知多半島総合研究歴史・民族部研究集会「近世常滑焼を考える」報告』(2013年)

・愛知県史編さん委員会『愛知県史 別編 中世・近世漸江系 宮代2』(2007年)

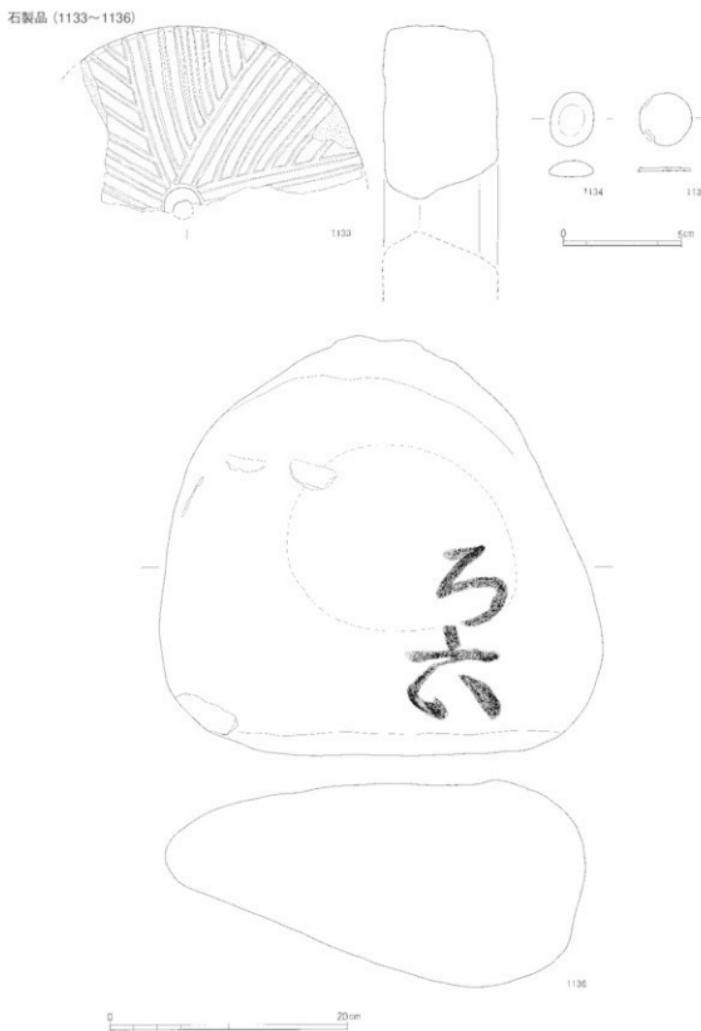
・愛知県史編さん委員会『愛知県史別編 中世・近世系宮代3』(2012年)

・大橋康二『年代別青磁猪口大辞典』(2009年)

金属製品(銭貨・新寛永)(1091~1131)



第45図 出土遺物実測図34 (1 : 2)



第46図 出土遺物実測図 (1 : 4) (1134・1135は1 : 2)

番号	実測番号	出土位置	遺傳	器種形態	三 寸 (cm)			測量往復の特徴	色 調	断 土	残存度	備 考
					120	100	その他の					
1	00001	C3 SK4	頸部 筒	内 輪	68	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	H1-12	黒目、朱付頭、17世紀末～ 18世紀初	
2	00002	C3 SK4	頸部 筒	内 輪	58	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	H1-12	黒目、18世紀前～中	
3	00003	C3 SK4	頸部 筒	内 輪	106	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、18世紀前～中	
4	00004	D4 SK5	頸部 筒	内 輪	68	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、Y字型	
5	00006	D4 SK5	頸部 筒	内 輪	218	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、Y字型	
6	00008	D4 SK5	頸部 筒	内 輪	100	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、Y字型	
7	00009	D4 SK5	頸部 筒	内 輪	736	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	118B-12	黒目、18世紀前	
8	00010	D4 SK5	頸部 筒	内 輪	30	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	116-12	黒目、18世紀前、17世紀末～ 18世紀初	
9	00014	D4 SK5	土瓶 筒	内 輪	5.8×2.1× 209g	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、Y字型	
10	00002	D4 SK5	石製品 筒	内 輪	27.2×7.7	内 輪	235kg	白地に黒 内 輪	黒	111-12	丸形容	
11	00004	C3 SK6	土瓶 筒	内 輪	80	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白、黒目、18世紀	
12	00002	C3 SK6	土瓶 筒	内 輪	100	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型、18世紀初	
13	17400	C3 SK6	土瓶 筒	内 輪	408	内 輪	20	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型	
14	00008	C3 SK6	土瓶 筒	内 輪	79	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、白色輪、18世紀	
15	00003	C3 SK6	土瓶 筒	内 輪	37	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	黒目、Y字型	
16	00007	C4 SK7	土瓶 筒	内 輪	138	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、18世紀前	
17	00004	C4 SK7	土瓶 筒	内 輪	108	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、18世紀前	
18	00005	C4 SK7	土瓶 筒	内 輪	32	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	成定房	白地に黒、18世紀前	
19	00006	C4 SK7	土瓶 筒	内 輪	21.2	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	田代A、外側斜面付	
20	00001	A2 SK8	土瓶 筒	内 輪	51	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型	
21	00002	A2 SK8	土瓶 筒	内 輪	15.6	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、17世紀後	
22	00003	B3 SK9	土瓶 筒	内 輪	108	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、17世紀末	
23	00010	B3 SK10	桃瓶	内 輪	16.6×14.5	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、18世紀前	
24	00008	B3 SK13	土瓶 筒	内 輪	12.6	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、17世紀末	
25	00003	B3 SK14	土瓶 筒	内 輪	78	内 輪	3.3	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚	
26	00010	B3 SK14	土瓶 筒	内 輪	100	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚	
27	00016	B3 SK14	土瓶 筒	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚	
28	02500	A2 SK16	土瓶 筒	内 輪	8.0	内 輪	21	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型	
29	00002	C3 SK17	土瓶 筒	内 輪	8.4	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型	
30	00001	C4 SK17	土瓶 筒	内 輪	10.0	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、Y字型	
31	00003	C4 SK18	土瓶 筒	内 輪	120	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
32	00006	C2 SK19	土瓶 筒	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
33	00004	C2 SK19	土瓶 筒	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
34	00005	C2 SK19	土瓶 筒	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
35	02500	C2 SK19	土瓶 筒	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
36	02502	C2 SK19	土瓶 筒	内 輪	47×13	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
37	00002	C2 SK20	土瓶 筒	内 輪	80	内 輪	1.0	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
38	00004	B3 SK20	桃瓶	内 輪	90	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
39	00005	C2 SK20	桃瓶	内 輪	90	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
40	00003	C2 SK20	桃瓶	内 輪	90	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
41	00002	C2 SK20	桃瓶	内 輪	16.3	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
42	00003	C2 SK20	桃瓶	内 輪	120	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
43	00004	C2 SK20	桃瓶	内 輪	16.0	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
44	02500	C2 SK20	桃瓶	内 輪	10.1	内 輪	2.8	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
45	00001	D2 SK20	桃瓶	内 輪	40	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
46	02504	C2 SK20	桃瓶	内 輪	9.5	内 輪	1.9	白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
47	00008	C2 SK20	桃瓶	内 輪	200	内 輪		白地に黒 内 輪	黒	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
C	02003	E2 SK21	陶器 筒	内 輪	9.2	内 輪	3.7	白地に黒 内 輪	カキメ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
48	00002	E2 SK21	陶器 筒	内 輪	100	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
49	00004	E2 SK22	陶器 筒	内 輪	10.1	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
50	00005	D3 SK47	土瓶 筒	内 輪	96	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
51	00006	D3 SK47	土瓶 筒	内 輪	92	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
52	00007	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	260	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
53	00105	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	36	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
54	00106	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	34	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
55	00107	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	80	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
56	00108	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	138	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	
57	00109	D3 SK48	土瓶 筒	内 輪	120	内 輪		白地に黒 内 輪	カキメ、スビオサツ カキメ、スビオサツ	111-12	白地に黒、豆足脚、18世紀前	

第1表 出土遺物観察表①

番号	実測番号	出土地點	遺物	器種形	品 質 (cm)			調査往來の特徴	色 調	断 土	再 度	備 考
					120	100	その他の					
38	03101	13	SK68	陶器 瓶	13.8			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	112/12	聖前、18世紀後
39	03008	13	SK68	陶器 瓶	11.8			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	112/12	聖前、有田窯、青磁葉付、 18世紀後
40	03009	13	SK68	陶器 瓶	11.2			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
42	16501	13	SK68	陶器 瓶					0304/	新		左第三
42	03108	13	SK68	土鍋	4.2/1.8*	1.4		140/g ユビオサニ、ナマ	浅黄緑D YR8/3	新	定期	
42	15002	13	SK68	陶器 瓶	18.8			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-1 直筒、施釉、R(0.3)Y-1	新	定期	
44	03030	14	SK68	土鍋	7.9			内 ヨコナギ、ユビオサニ 内 ヨコナギ、ユビオサニ 内 ヨコナギ、ユビオサニ	R(0.3)Y-1	やや新	112/12	新C
45	03034	14	SK68	陶器 瓶	10.5			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-1 直筒、R(0.3)Y-2	新	113/12	聖前、18世紀中～後
46	03109	14	SK68	陶器 瓶	8.0			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-1 直筒、R(0.3)Y-2	新	112/12	聖前、18世紀後
47	02001	14	SK68	小鉢	2.9			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	112/12	聖前、18世紀
48	16201	14	SK68	鉢瓦					0304/	新		右孔
49	03101	14	SK68	土鍋	6.0	1.2		内 ヨコナギ、ユビオサニ 内 ヨコナギ、ナマ	橙Y R6/6	新	3/12	新C
50	03002	14	SK68	土鍋	8.4	1.6		内 ヨコナギ、ナマ 内 ヨコナギ、ナマ	橙Y R6/6	新	3/12	新D
71	03004	14	SK68	土鍋	9.2	1.5		内 ヨコナギ、ナマ 内 ヨコナギ、ナマ	橙Y R6/6	新	3/12	新D 右明暗
72	03005	14	SK68	土鍋	10.0	2.0		内 ヨコナギ、ナマ、ユビオサニ 内 ヨコナギ、ナマ、ユビオサニ	橙Y R6/6	やや新	3/12	新D 石頭面
73	03001	14	SK68	土鍋	10.4	1.3		内 ヨコナギ、ナマ、ユビオサニ 内 ヨコナギ、ナマ、ユビオサニ	にA(0.3)Y R7/4	新	3/12	新D
74	03006	14	SK68	陶器 瓶	8.1	1.9		内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	右明暗
75	03030	14	SK68	陶器 瓶	12.4			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	113/12	聖前、18世紀後
76	03002	14	SK68	陶器 瓶	12.0			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
77	03020	14	SK68	陶器 瓶	4.7			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	聖前、日目筒、17世紀末
28	03205	14	SK68	陶器 瓶	5.5			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	聖前、18世紀後
79	03031	14	SK68	陶器 瓶	4.8			内 ヨコナギ	直筒、R(0.3)Y-1	新	113/12	聖前、18世紀後
80	03411	14	SK68	陶器 瓶	4.4			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	114/12	聖前、18世紀後
81	03202	14	SK68	陶器 瓶	4.7			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	聖前、18世紀後
82	03030	14	SK68	陶器 瓶	3.6			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	117/12	直筒、18世紀後
83	03105	14	SK68	陶器 瓶				内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、日目筒、17世紀末
84	03106	14	SK68	陶器 瓶	8.8			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
85	03112	14	SK68	陶器 瓶	8.6			内 施釉 内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
86	03506	14	SK68	陶器 瓶	16.0			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	113/12	直筒、18世紀後
87	03207	14	SK68	陶器 瓶	11.4			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	113/12	直筒、18世紀後
88	03201	14	SK68	陶器 瓶	4.7			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	112/12	直筒、18世紀後
89	03430	14	SK68	陶器 瓶	11.8			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
90	03109	14	SK68	陶器 瓶	6.2			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
91	03109	14	SK68	陶器 瓶				内 施釉 内 施釉、カキメ、ロクロナガ	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	新	112/12	直筒、18世紀後
92	03105	14	SK68	陶器 瓶	9.6			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	114/12	聖前、18世紀後
93	03204	14	SK68	陶器 瓶	10.0			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
94	03204	14	SK68	陶器 瓶	11.6			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
95	03206	14	SK68	陶器 瓶	4.6			内 施釉 内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
96	03208	14	SK68	陶器 瓶	4.0			内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
97	03204	14	SK68	陶器 瓶	8.1			内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
98	03203	14	SK68	陶器 瓶	8.2			内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
99	03002	14	SK68	陶器 瓶	6.4			内 施釉	白地に黒	新	113/12	聖前、18世紀後
100	03001	14	SK68	陶器 瓶	12.0			内 施釉	白地に黒	新	112/12	聖前18世紀中
101	12101	14	SK68	陶器 瓶	12.0			内 ヨコナガスヨロコナ 内 ヨコナガ	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	112/12	聖前、17世紀後
102	03003	14	SK68	土鍋	8.3	0.8		内 ヨコナガ 内 ヨコナガ	浅黄緑D YR8/4	やや新	定期	
103	03005	14	SK68	土鍋	8.5			内 ヨコナガ 内 ヨコナガ	にA(0.3)Y R9/2/4	やや新	112/12	新C
104	03008	14	SK68	土鍋	8.3	1.1		内 ヨコナガ 内 ヨコナガ、ユビオサニ	にA(0.3)Y R9/2/4	やや新	112/12	新D
105	03008	14	SK68	土鍋	8.6	1.3		内 ヨコナガ 内 ヨコナガ、ユビオサニ	0304/	やや新	112/12	新D
106	03001	14	SK68	土鍋	11.1			内 ヨコナガ	浅黄緑D YR8/4	やや新	111/12	新D 墓
107	03000	14	SK68	土鍋	8.3	0.8		内 ヨコナガ 内 ヨコナガ	浅黄緑D YR8/4	やや新	112/12	新C
108	03006	14	SK68	土鍋	2.7	1.1	4.2	内 ヨコナガ 内 ヨコナガ、糸留函	0304/	やや新	定期	
109	03204	14	SK68	陶器 瓶	11.5	4.8	4.0	内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	113/12	直筒、18世紀後
110	03001	14	SK68	陶器 瓶	9.0			内 施釉 内 ヨコナガ	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	113/12	直筒、糸留函、直筒、18世紀後
111	03002	14	SK68	陶器 瓶	9.2			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	113/12	直筒、18世紀後
112	03001	14	SK68	陶器 瓶				内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	113/12	直筒、18世紀後
113	03005	14	SK68	陶器 瓶	10.7			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	112/12	聖前、18世紀後
114	03006	14	SK68	陶器 瓶	9.7			内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	112/12	聖前、18世紀後
115	03002	14	SK68	陶器 瓶	10.5	3.9	9.2	内 施釉	直筒、R(0.3)Y-2 直筒、R(0.3)Y-1	やや新	1/12	聖前、18世紀後

第2表 出土遺物観察表②

番号	実測番号	樹木種	樹高	直径	寸法 (cm)			調査方法の特徴	色	輪郭	両側	備考	
					100	200	その他						
116	08030	スカツ	高砂	13.5				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀末～19世紀初	
117	07020	スカツ	高砂	22.8	20	76		外・輪縁	白地に黒	黒	3-32	肥前、18世紀末	
118	08040	スカツ	高砂	10.8				外・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀末	
119	07070	スカツ	高砂	36				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～中	
120	05100	スカツ	高砂	60				外・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半、92-14-18時	
121	08070	スカツ	高砂	73				外・輪縁	白地に朱	赤	111-32	肥前、18世紀後半	
122	08080	スカツ	高砂	23.5				内・輪縁	白地に藍	藍	111-32	肥前、18世紀後半	
123	08070	C2 SK58	高砂	96	17			内・ヨリナギ、ユビオサエ	浅黄褐色72-038-4	やや黒	111-32		
124	08010	スカツ	高砂	70				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～中	
125	07050	スカツ	高砂	84	20	40		内・輪縁	墨緑色73-032-2	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
126	08020	スカツ	高砂	96	19			外・輪縁	墨緑色73-032-2	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
127	08020	スカツ	高砂	10.0	20			内・輪縁	墨緑色73-032-2	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
128	05000	スカツ	高砂	30.0	20			内・輪縁	墨緑色73-032-2	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
129	08000	スカツ	高砂	58				内・ヨリナギ	浅黄褐色72-038-3	黒	112-32		
130	08000	スカツ	高砂	52.4				外・ヨリナギ	浅黄褐色72-038-3	黒	111-32	青色	
131	15040	スカツ	高砂	42.4	250	39.0		内・ヨリナギ、ユビオサエ、ヨリココナ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
132	13030	スカツ	高砂	44.5-53.1				外・ヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半	
133	08030	スカツ	人札	1.5				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、三条御系、18世紀後半～19世紀初	
134	08030	スカツ	高砂	9.2	25	5.0		内・輪縁	白地に朱	朱	112-32	肥前、18世紀	
135	08030	スカツ	高砂	5.2				内・輪縁	白地に朱	朱	112-32	肥前、18世紀	
136	05070	スカツ	高砂	12.4	2.4	8.4		内・輪縁	ロクロナギ	白地に黒	黒	112-32	肥前、肥后、日向門古庄、18世紀後半～19世紀初
137	05050	A3 SD4	土御門	18.4	15.7	16.0		内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	青色	
138	06020	A1 SD4	土御門	9.0	1.8			内・ヨリナギ、ユビオサエ、ヨリココナ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀	
139	06020	A1 SD4	土御門	9.0	1.8			外・ヨリナギ、ユビオサエ、ヨリココナ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀	
140	06020	A2 SD4	土御門	4.0				内・ヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀	
141	06020	A1 SD4	土御門	12.8				外・ヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀	
142	15010	A4 SD4	土御門	32.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
143	06020	スカツ	大内	12.4				内・ヨリナギ	白地に朱	朱	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
144	06020	A3 SD4	土御門	12.4	6.8	6.0		内・輪縁	白地に朱	朱	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
145	06020	A3 SD4	土御門	5.8	4.7	16		外・輪縁	ロヨリナギ、ユビオサエ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
146	06020	A3 SD4	土御門	10.0	5.3	4.0		外・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
147	06020	A4 SD4	土御門	10.2	5.6	4.2		内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
148	06020	A1 SD4	土御門	4.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
149	06020	A4 SD4	土御門	4.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
150	06020	C1 SD4	土御門	8.8	10			内・ヨリナギ、ユビオサエ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
151	06020	C1 SD4	土御門	9.2	13			内・ヨリナギ、ユビオサエ、ナダ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
152	06020	C1 SD4	土御門	10.4	21			外・輪縁	墨緑色73-032-2	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
153	06020	C1 SD4	土御門	6.8	43	3.0		内・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
154	06020	SD4	土御門	12.4				内・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
155	06020	SD4	土御門	12.4				外・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
156	06020	SD4	土御門	5.8				内・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
157	06020	C1 SD2	土御門	38.0				内・ヨリナギ、ユビオサエ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
158	06020	SD4	土御門	13.8				外・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
159	15010	C1 SD2	土御門	40.8				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
160	15020	C1 SD2	土御門	34.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
161	06020	SD2	土御門	10.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
162	06020	SD2	土御門	9.8				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
163	06020	SD2	土御門	10.0				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
164	06020	SD2	土御門	9.8				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
165	06020	SD2	土御門	9.8				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
166	06020	SD2	土御門	7.8	4.5	2.2		内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
167	06020	SD2	土御門	6.6				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
168	06020	SD2	土御門	4.4				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
169	06020	SD2	土御門	14.0				内・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
170	06020	SD2	土御門	14.0	35			内・輪縁	ロヨリナギ	淡黄褐色72-038-3	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初
171	06020	SD2	朝丸					内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
172	06020	C1 SD2	丸瓦					内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
173	06020	C1 SD2	丸瓦	30				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	
174	06020	C1 SD2	丸瓦	9.8				内・輪縁	白地に黒	黒	112-32	肥前、18世紀後半～19世紀初	

第3表 出土遺物觀察表③

番号	実測番号	出土位置	遺物	器種形	品目			調査注記の特徴	色調	断面	肉厚	備考	
					120	100	その他の						
175	06005	E3	S2022	陶器	陶器	15.3	28	66	内：施釉 外：施釉、ロクロケツリ、貼付ケツ	黒地・(G0123V8-2 黒)、(K0123V8-2 黒)、(K0123V4-3 黒)、(K0123V4-4 黒)	黒	0.5-1.2	瀬戸高麗、18世紀中～後
176	06001	E3	S2022	陶器	陶器	13.8			内：施釉 外：施釉、ロクロケツリ	黒地・(K0123V8-2 黒)、(K0123V8-2 黒)、(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	瀬戸高麗、灰釉、17世紀後～ 18世紀前
177	06004	E3	S2022	陶器	陶器	8.8			内：施釉 外：施釉	黒地・(K0123V8-2 黒)、(K0123V8-2 黒)	黒	0.2-1.2	肥前、17世紀末
178	06007	E3	S2022	陶器	陶器	9.0			内：施釉	白地に黒	黒	1.2-1.2	肥前、18世紀後
179	06006	E3	S2022	陶器	陶器	3.1			内：施釉	白地に黒	黒	0.3-1.2	肥前、18世紀後
180	06001	E3	S2022	陶器	陶器	4.6			内：施釉	白地に黒	黒	0.5-1.2	肥前、青磁象付、18世紀半～後
181	07101	E2	S2024	土器	土器	8.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-4 黒)、外：(K0123V8-4 黒)	やや黒	1.1-1.2	
182	02206	E2	S2024	土器	土器	9.2			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-4 黒)、外：(K0123V8-4 黒)	やや黒	1.1-1.2	
183	02205	E2	S2024	土器	土器	9.2	1.7		内：施釉 外：施釉	(K0123V8-6 黒)	やや黒	1.2-1.2	
184	02202	E2	S2024	土器	土器	9.5	1.7		内：施釉 外：施釉	(K0123V8-6 黒)	黒	1-2	不明黒
185	07105	E2	S2024	土器	土器				内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-3 黒)、外：(K0123V8-3 黒)	黒	1.1-1.2	
186	02204	E2	S2024	土器	土器				内：施釉 外：施釉	(K0123V8-6 黒)	やや黒	1.1-1.2	
187	02208	E2	S2024	土器	土器	9.9			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
188	02202	E2	S2024	土器	土器	8.6			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
189	02201	E2	S2024	土器	土器	13.5			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
190	02203	E2	S2024	土器	土器	8.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
191	02202	E2	S2024	土器	土器	8.4			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
192	06007	E2	S2024	土器	土器	12.2			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	吉田、平蔵、17世紀後～ 18世紀前
193	02204	E2	S2024	土器	土器	12.3			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1.1-1.2	吉田、平蔵、17世紀後～ 18世紀前
194	02206	E2	S2024	陶器	陶器	10.8	6.1	5.3	内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-4 黒)、外：(K0123V8-4 黒)	黒	0.5-1.2	瀬戸高麗、18世紀前
195	02205	E2	S2024	陶器	陶器	9.3	5.9	4.2	内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-1 黒)、外：(K0123V8-1 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、18世紀前
196	02201	E2	S2024	陶器	陶器	4.4			内：施釉 外：施釉、ロクロケツリ、貼付ケツ	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.2-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
197	02204	E2	S2024	陶器	陶器	1.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.8-1.2	瀬戸高麗、18世紀半～後
198	06005	E2	S2024	陶器	陶器	4.4			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.6-1.2	瀬戸高麗、17世紀半～後
199	02201	E2	S2024	陶器	陶器	10.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、18世紀
200	02202	E2	S2024	陶器	陶器	8.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、18世紀前
201	02203	E2	S2024	陶器	陶器	4.2			内：施釉 外：施釉、贴付高台	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.2-1.2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
202	02206	E2	S2024	陶器	陶器	4.3			内：施釉 外：施釉、ロクロナガ、贴付高台	内：(K0123V8-1 黒)、外：(K0123V8-1 黒)	黒	0.8-1.2	肥前、正規風、18世紀前
203	02201	E2	S2024	陶器	陶器	8.1			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-1 黒)、外：(K0123V8-1 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、沙利吉前
204	02207	E2	S2024	陶器	陶器	16.3			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V7-1 黒)、外：(K0123V7-1 黒)	黒	1-1.2	肥前、17世紀前
205	02209	E2	S2024	陶器	陶器				内：施釉 外：施釉	(K0123V7-2 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、崩落、17世紀後～ 18世紀前
206	02204	E2	S2024	陶器	陶器	6.4			内：施釉、ロクロケツリ、贴付高台、ロクロナガ	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.5-1.2	瀬戸高麗、崩落、17世紀後～ 18世紀前
207	02208	E2	S2024	陶器	陶器				内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-2	瀬戸高麗、崩落、18世紀前
208	02209	E2	S2024	陶器	陶器				内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-2	肥前、崩落、17世紀前
209	02206	E2	S2024	陶器	陶器	10.8			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	0.2-1.2	瀬戸高麗、崩落、18世紀前
210	02209	E2	S2024	陶器	陶器	9.2			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-2	肥前、17世紀末
211	02106	E2	S2024	陶器	陶器	12.0			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、17世紀後
212	02114	E2	S2024	陶器	陶器	10.0			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-2	肥前、正規風、17世紀後～ 18世紀前
213	02111	E2	S2024	陶器	陶器	9.1			内：施釉 外：施釉	白	黒	1-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
214	02002	E2	S2024	陶器	陶器	10.3			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
215	02110	E2	S2024	陶器	陶器	10.0			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
216	02108	E2	S2024	陶器	陶器	11.8			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
217	02106	E2	S2024	陶器	陶器	12.0			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、18世紀～中
218	02046	E2	S2024	陶器	陶器	9.0			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、18世紀後～18世紀前
219	02111	E2	S2024	陶器	陶器				内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	0.5-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
220	02113	E2	S2024	陶器	陶器	11.6			内：施釉 外：施釉	内：(K0123V8-2 黒)、外：(K0123V8-2 黒)	黒	1-1.2	肥前、小舟形、18世紀前
221	02108	E2	S2024	陶器	陶器	10.4			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、小舟形、18世紀前
222	02106	E2	S2024	陶器	陶器	4.0			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	0.5-1.2	肥前、小舟形、18世紀前
223	02002	E2	S2024	陶器	陶器	11.9			内：施釉 外：施釉	白	黒	1-1.2	肥前、18世紀半～中
224	02108	E2	S2024	陶器	陶器	2.6			内：施釉 外：施釉	白	黒	0.5-1.2	肥前、18世紀半～中
225	02007	E2	S2024	陶器	陶器	9.8			内：施釉 外：施釉	白	黒	1-1.2	肥前、18世紀半～中
226	02205	E2	S2024	陶器	陶器	7.3	4.0	26	内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	0-1.2	肥前、18世紀後～中
227	02103	E2	S2024	陶器	陶器	9.6			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、17世紀後～18世紀前
228	02132	E2	S2024	陶器	陶器	7.1			内：施釉 外：施釉	白地に黒	黒	1-1.2	肥前、コニック切削、 18世紀前～中

第4表 出土遺物観察表④

番号	実測番号	出土地	遺物	器種記号	計量(回)			測量往復の特徴	色調	断面	肉厚	備考	
					120	部高	その他の						
229	0310	E3	S2D1	彫印	小形	5.0		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.02-12	肥前、17世紀末～18世紀初	
230	0309	E3	S2D1	彫印	中形	10.0		内: 扇形 外: 扇形	白	黒	1.03-12	肥前、17世紀末～18世紀初	
231	0306	E2	S2D1	彫印	大形	6.4	36	32 内: 扇形 外: 扇形	真珠(?)	0306 黒、R10.0277.1	黒	4-12	肥前、18世紀
232	0304	E2	S2D1	彫印	中形	13.0		内: 扇形 外: 扇形、ロクロナデ	白	黒	1.01-12	肥前、17世紀末～18世紀初	
233	0307	E3	S2D1	彫印	中形	12.2		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.02-12	肥前、18世紀末～19世紀初	
234	0301	E2	S2D1	彫印	中形	18.0		内: 扇形 外: 扇形	白	黒	1.01-12	肥前、白磁、明治	
235	0312	E2	S2D1	彫印	中形	8.2		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	0.82-32	肥前、17世紀末～18世紀初	
236	0211	E3	S2D1	彫印	中形	5.6		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.03-12	肥前、空模様、日暮紀末～19世紀初	
237	0302	E2	S2D1	彫印	中形	36		内: 扇形 外: 扇形、側面西白	白地に黒	黒	7-12	肥前、コントラリーポジ、側面西白、18世紀末	
238	0304	E2	S2D5	彫印	中形	8.8		内: 扇形 外: 扇形	真珠(?)	0304 黒、R10.0275.3	黒	1.01-12	肥前、毛丸目、17世紀末
239	0304	C2	S2D3	彫印	中形	9.4	16	内: 扇形 外: 扇形	真珠(?)	0304 黒、R10.0275.3	やや黒	1.01-12	肥前
240	0307	E2	S2D3	彫印	中形	9.8		内: 扇形 外: 扇形	白	黒	1.01-12	肥前	
241	0304	E2	S2D3	彫印	中形	7.8		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.01-12	肥前	
242	0305	E2	S2D3	彫印	中形	8.9		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.01-12	肥前	
243	0302	E2	S2D3	彫印	中形	4.8		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	0.83-32	肥前	
244	0306	E2	S2D3	彫印	中形	6.4		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.04-32	肥前	
245	0302	E2	S2D3	彫印	中形	10.0		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	0.83-32	肥前	
246	0210	A2?	S2D2?	丸瓦		8.2	2.1 x 4.4	表面凸起	0210 黒、R10.0276.6	黒	小形		
247	0300	B2?	S2D30	土器		28.6		内: コヨナデ、テグ	0300 黒、R10.0275.8-2	やや黒	1.02-32	切妻入、外削り付唇	
248	0211	A2?	S2D29	土器		28.6		内: コヨナデ、テグ 外: 扇形	真珠(?)	0211 黒、R10.0275.8-2	黒	11.0-12	鶴戸美濃
249	0301	B2?	S2D30	土器		18.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0301 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-12	17世紀末
250	0202	A2?	S2D30	彫印	8.2	2.2	32 内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、ロクロナデ	0202 黒、R10.0275.8-2	黒	4-12	鶴戸美濃、18世紀	
251	0300	B2?	S2. 2. 3. 10	土器		13.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、テグ	0300 黒、R10.0275.8-2	黒	0.81-32	鶴戸美濃、18世紀
252	0210	A2?	S2D2?	土器		6.8	32.0	16.6 内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、テグ	0210 黒、R10.0275.8-2	黒	11.0-12	鶴戸美濃
253	0201	A2?	S2D20	土器		10.2		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0201 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	肥前、18世紀末～19世紀初
254	0208	C2?	S2D25	彫印	中形	20.6	5.2	内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0208 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	肥前、空模様、17世紀後
255	0204	D2?	S2D20	彫印	中形	12.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	肥前、青白地
256	0300	B2?	S2D20	彫印	中形	10.2	6.2	42 内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、ロクロナデ、輪付ナデ	0300 黒、R10.0275.8-2	やや黒	3-32	鶴戸美濃、17世紀後
257	0200	B2?	S2D20	彫印	中形	5.3		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0200 黒、R10.0275.8-2	黒	0.81-32	鶴戸美濃、17世紀後
258	0202	B2?	S2D20	彫印	中形	30.6		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、テグ	0202 黒、R10.0275.8-2	やや黒	1.02-32	肥前、17世紀
259	0201	B2?	S2D20	彫印	中形	26.4		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、テグ	0201 黒、R10.0275.8-2	やや黒	1.03-32	肥前、17世紀
260	0207	B2?	S2D20	彫印	中形	10.0		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.01-12	肥前、17世紀末～18世紀初	
261	0302	B2?	S2D20	彫印	中形	21.5	1.6	14.5g	内: 扇形 外: 扇形	0302 黒、R10.0275.8-2	黒		
262	0303	E2?	S2D20	彫印	中形	42.4		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0303 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	肥前、17世紀、206-上回一削削
263	0201	E2?	S2D20	彫印	中形	66.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、ビビンサル抜付ナデ	0201 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	肥前、17世紀
264	0200	E2?	S2D20	彫印	中形	56.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、ハケナレ	0200 黒、R10.0275.8-2	黒	1.01-32	肥前、17世紀
265	0201	E2?	S2D20	彫印	中形	34.9	17.6	内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、ビビンサル抜付ナデ	0201 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	肥前、17世紀
266	0204	E2?	S2D20	彫印	中形	15.6	1.7	内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.83-32	肥前、17世紀、202-上回一削削
267	0203	E2?	S2D20	彫印	中形	9.0		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	1.02-32	肥前、17世紀	
268	0205	E2?	S2D20	彫印	中形	15.8		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒、黄	黒	1.02-32	豊前、鶴花人、米丸、17世紀後	
269	0300	SE2?	S2D20	彫印	中形	36.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、カゼリ	0300 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	鶴戸美濃、17世紀後
270	0204	SE2?	S2D20	彫印	中形	12.0	3.6	17.6 内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、輪付ナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	鶴戸美濃、17世紀後
271	0204	SE2?	S2D20	彫印	中形	10.8		内: 扇形 外: 扇形	白	黒	1.02-32	肥前、白、17世紀後	
272	0200	C2?	S2D20	彫印	中形	13.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0200 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	鶴戸美濃、17世紀後
273	0204	E2?	S2D25	彫印	中形	30		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、側面西白、ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	肥前、17世紀末～18世紀初
274	0204	E2?	S2D25	彫印	中形	26.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	肥前、17世紀、17世紀後
275	0200	E2?	S2D25	彫印	中形	18.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0200 黒、R10.0275.8-2	黒	0.83-32	鶴戸美濃、笠置跡、17世紀後
276	0204	E2?	S2D25	彫印	中形	10.8		内: 扇形 外: 扇形	白	黒	1.02-32	肥前、白、17世紀後	
277	0207	E2?	S2D25	彫印	中形	13.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0207 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	鶴戸美濃、17世紀
278	0204	E2?	S2D25	彫印	中形	30		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、側面西白、ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	肥前、17世紀末～18世紀初
279	0204	E2?	S2D25	彫印	中形	26.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0204 黒、R10.0275.8-2	黒	0.82-32	肥前、17世紀、18世紀初
280	0207	E2?	S2D25	彫印	中形	8.7	3.8	38 内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ、カキメ	0207 黒、R10.0275.8-2	黒	0-32	鶴戸美濃
281	0206	J2?	S2D25	彫印	中形	43.6		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0206 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	笠置跡、18世紀
282	0201	J2?	S2D25	彫印	中形	16.0		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0201 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	笠置跡、18世紀
283	0201	J2?	S2D25	彫印	中形	44.8		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0201 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	笠置跡、18世紀
284	0202	J2?	S2D25	彫印	中形	22.6		内: 扇形 外: 扇形	ロクロナデ	0202 黒、R10.0275.8-2	黒	1.02-32	鶴戸美濃
285	0206	J2?	S2D25	彫印	中形	36		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	0.82-32	肥前、鶴戸美濃、17世紀、18世紀初	
286	0202	J2?	S2D25	彫印	中形	26.0		内: 扇形 外: 扇形	白地に黒	黒	0-35	肥前、鶴戸美濃、17世紀初	

第5表 出土遺物観察表(5)

第6表 出土遺物細察表⑥

第七表 出土遺物觀察表⑦

番号	実測番号	材木寸	種類	各部印形	寸法 (cm)		測定方法の特徴	色 調	駄目	再作成	備考	
					120E	84						
405	00800	H33	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前	
406	00800	H33	SK292	前脚	内・外輪	125	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前	
407	00800	H33	SK292	前脚	内・外輪	206	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前	
408	00800	H33	SK292	前脚	内・外輪	132	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前, 明治支那	
409	02010	H33	SK292	前脚	内・外輪	58	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前	
410	04010	H33	SK292	前脚	内・外輪	98	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前	
411	06010	H33	SK292	前脚	内・外輪	88	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前, 17世紀後	
412	08010	H33	SK292	杏包	内・外輪	110	内・外輪, ロクロナメ	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
413	08040	H33	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀末	
414	09010	H33	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
415	02100	H33	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前	
416	02200	G22	SK292	前脚	内・外輪	123	内・外輪, ロクロナメ	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
417	06000	H33	SK292	前脚	内・外輪	24	内・外輪	朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀中~後	
418	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	18	内・外輪	朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	6/32	肥前	
419	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	102	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀後	
420	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
421	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	45	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前, 1605~1645	
422	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	67	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀後~18世紀初	
423	06000	G22	SK292	前脚	内・外輪	84	内・外輪	ロクロナメ	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前
424	12204	G22	SK292	前脚	内・外輪	27.8	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前	
425	17700	G22	SK292	前脚	内・外輪	26.7	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前	
426	16000	G22	SK292	丸足	内・外輪	26.8×137	内・外輪, ナメ, 銀線	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
427	16000	G22	SK292	丸足	内・外輪	26.2×123	内・外輪, ナメ, 銀線	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
428	17000	G22	SK292	丸足	内・外輪	30.3×16.6	内・外輪, ナメ, 銀線	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
429	16500	G22	SK292	丸足	内・外輪	22.0×13.4	内・外輪, ナメ, 銀線	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
430	16000	G22	SK292	丸足	内・外輪	26.4×133	内・外輪, ナメ, 銀線	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前	
431	04010	G22	SK292	脚部	内・外輪	10.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
432	05010	G22	SK292	脚部	内・外輪	10.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後~18世紀初	
433	07010	H33	SK292	脚部	内・外輪	13.6	内・外輪	白地に藍	前	後4/32	肥前, 17世紀後, 天正後化粧	
434	04010	G22	SK292	脚部	内・外輪	10.2	内・外輪, ロクロナメ, ユリオサス, ナメ, ナリナメ, ナシ, ナヒ	朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 内側剥離付	
435	05010	G22	SK292	脚部	内・外輪	12.2	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
436	04010	G22	SK292	小箱	内・外輪	8.7	内・外輪	白	前	113/12	肥前, 白箱, 17世紀末~18世紀初	
437	06010	F32	SK292	脚部	内・外輪	10.6	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
438	05010	F32	SK292	脚部	内・外輪	10.6	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀後	
439	05010	F32	SK292	脚部	内・外輪	8.4	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
440	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	11.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	5/32	肥前, 猫耳目, 17世紀末	
441	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	9.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 猫耳目, 17世紀末	
442	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	42	内・外輪, 刻印背面	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	萩原芳	萩原芳, 刻印背面, 17世紀後	
443	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	32.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	萩原芳	萩原芳, 17世紀後	
444	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	10.8	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
445	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	6.6	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
446	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	5.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	5/32	肥前, 17世紀後, 銀線系, 18世紀初	
447	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	3.8	内・外輪	白地に藍	前	萩原芳	萩原芳, 17世紀後	
448	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	8.4	内・外輪, 工具ナメ	白地に藍(17世紀後)	やや青	113/12	日目	
449	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	3.8	内・外輪, ロクロナメ	白地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	5/32	肥前, 17世紀後	
450	04010	F32	SK292	脚部	内・外輪	10.8	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
451	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	6.6	内・外輪	白地に藍	前	5/32	肥前, 白箱, 17世紀末	
452	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	8.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 白箱, 17世紀末	
453	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	9.2	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	5/32	肥前, 白箱, 17世紀末	
454	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	1.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
455	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	1.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
456	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	1.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
457	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	1.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
458	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	1.0	内・外輪	墨地(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
459	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	26.0	内・外輪	墨地, 朱(17世紀後)藍, 銀線(1607年)	前	113/12	肥前, 17世紀後	
460	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	3.2	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀後	
461	04010	F32	SK292	小箱	内・外輪	3.2	内・外輪	白地に藍	前	113/12	肥前, 17世紀後~18世紀初	

第8表 出土遺物觀察表⑧

第9表 出土遺物細察表⑨

品名	実物番号	寸法	重量	各種印形	底面寸法 (cm)			測定方法の特徴	色	駆動	両作序	考
					12時	直角	その他					
320	0506	23.5	SCK308	前部 後部	9.8			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地に「くわんわん」を織り、 前部・後部
321	0505	23.5	SCK308	前部 後部	39			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地に「くわんわん」を織り、 前部・後部
322	0509	23.5	SCK308	前部 後部	28			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地に「くわんわん」を織り、 前部・後部
323	0504	23.5	SCK308	前部 後部	28			内・輪幅 外・輪幅	白	前	131-32	黒地に「くわんわん」を織り、 前部・後部
324	0510	23.5	SCK308	前部	25.2	30		内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ、スリガオサ、チヂミ、ハラカタリ	にあら切替B/E4	やや青	131-32	青地
325	0509	23.5	SCK308	前部 後部	26.0			内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
326	0507	23.5	SCK308	前部 後部	22.0			内・輪幅	黒地に「KUROKAWA」 横・縦	前	131-32	黒地に「KUROKAWA」 前部・後部
327	0502	23.5	SCK308	前部 後部	12.5	37	4.8	内・輪幅 外・輪幅	白地に「KUROKAWA」 横・縦	前	131-32	黒地に「KUROKAWA」 前部・後部
328	0508	23.5	SCK308	前部	15.6			内・輪幅	黒地に「KUROKAWA」 横・縦	前	131-32	黒地に「KUROKAWA」 前部
329	0501	23.5	SCK308	前部 後部	11.7	20	7.4	内・輪幅 外・輪幅	白地に「KUROKAWA」 横・縦	前	131-32	黒地に「KUROKAWA」 前部・後部
330	0511	23.5	SCK308	前部 後部	8.2	12		内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ、スリガオサ	黒地に「Y」1	前	6/32	青地
331	0506	23.5	SCK308	前部 後部	7.9	1.5		内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ、スリガオサ	にあら切替S/E4	やや青	7/32	青地
332	0509	23.5	SCK308	前部 後部	8.8	1.6		内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
334	0508	23.5	SCK308	前部 後部	9.0	1.8		内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4726	やや青	131-32	黒地
335	0510	23.5	SCK308	前部 後部	9.6	1.9		内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ	地D4727	やや青	131-32	黒地
336	0503	23.5	SCK308	前部 後部	10.3	1.3		内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ、チヂミ	地D4728	やや青	131-32	黒地
337	0508	23.5	SCK308	前部 後部	22.0			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4729	やや青	131-32	中央・熱帯
338	0510	H3.3	SCK308	前部 後部	12.4	4.4	49	内・輪幅 外・輪幅	地D4729B/E	前	131-32	黒地、白地、扇形、斜線「木」字
339	0503	G2.2	SCK308	前部 後部	10			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4730	前	底定位	黒地、扇形
340	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	6.7	3.6	3.3	内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4731	前	131-32	黒地
341	0507	G2.2	SCK308	前部 後部	6.3	4.0	3.2	内・輪幅 外・輪幅	地D4731	前	131-32	黒地
342	0502	G2.2	SCK308	前部 後部	10.9	1.9	7.2	内・輪幅 外・輪幅	地D4732	前	131-32	黒地、扇形
343	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	11.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4733	前	131-32	黒地
344	0515	G2.2	SCK308	前部 後部	10.4			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地
345	0512	G2.2	SCK308	前部 後部	8.8			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地
346	0513	G2.2	SCK308	前部 後部	10.1			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地
347	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	4.0			内・輪幅 外・輪幅	白地に藍	前	131-32	黒地
348	0511	G2.2	SCK308	前部 後部	10.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4734	前	131-32	黒地、扇形
349	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	2.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4734	前	131-32	黒地
350	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	7.0			内・輪幅 外・輪幅	白	前	131-32	黒地
351	0514	G2.2	SCK308	前部 後部	12.6	3.1	4.6	内・輪幅 外・輪幅	地D4735	前	131-32	黒地、白地の刷毛地、11世紀後
352	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	16.0			内・輪幅 外・輪幅	地D4736	前	131-32	黒地、扇形
353	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	12.4			内・輪幅 外・輪幅	地D4737	前	131-32	黒地、扇形
354	0508	G2.2	SCK308	前部 後部	11.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4738	前	9/32	黒地、扇形
355	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0	3.5	4.0	内・輪幅 外・輪幅	地D4738	前	131-32	黒地、扇形
356	0508	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0	3.5	4.0	内・輪幅 外・輪幅	地D4738	前	131-32	黒地、扇形
357	0502	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0	3.5	4.0	内・輪幅 外・輪幅	地D4738	前	131-32	黒地、扇形
358	0512	G2.2	SCK308	前部 後部	9.2	5.3	3.9	内・輪幅 外・輪幅	地D4738	前	6/32	黒地、扇形、12世紀後
359	0502	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0			内・輪幅 外・輪幅	地D4739	前	131-32	黒地
360	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	26.2			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4740	前	131-32	黒地
361	0508	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0	3.5	4.0	内・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ 外・ヨコナミ、チヂミ、チヂミテキ	地D4740	前	131-32	黒地
362	0512	G2.2	SCK308	前部 後部	9.2			内・輪幅 外・輪幅	地D4741	前	131-32	黒地
363	0510	G2.2	SCK308	前部 後部	9.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4742	前	131-32	黒地
364	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	9.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4743	前	131-32	黒地
365	0502	G2.2	SCK308	前部 後部	9.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4744	前	131-32	黒地
366	0504	F3.2	SCK308	前部 後部	9.2			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
367	0504	F3.2	SCK308	前部 後部	10			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
368	0507	F3.2	SCK308	前部 後部	25.4			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
369	0508	G2.2	SCK308	前部 後部	2.8	1.2		内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
370	0506	G2.2	SCK308	前部 後部	8.0	1.6		内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4745	前	131-32	黒地
371	0507	G2.2	SCK308	前部 後部	10.0	2.0		内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4746	前	131-32	黒地
372	0510	G2.2	SCK308	前部 後部	27.2			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	にあら切替S/E4	前	131-32	黒地
373	0504	G2.2	SCK308	前部 後部	4.1			内・輪幅 外・輪幅	地D4747	前	131-32	黒地
374	0510	G2.2	SCK308	前部 後部	7.6			内・輪幅 外・輪幅	地D4748	前	131-32	黒地、墨書き、12世紀前
375	0515	G2.2	SCK308	前部 後部	11.4			内・輪幅 外・輪幅	地D4749	前	131-32	黒地、墨書き
376	0508	G2.2	SCK308	前部 後部	11.0			内・ヨコナミ 外・ヨコナミ	地D4750	前	131-32	黒地
377	0502	G2.2	SCK308	前部 後部	12.5	10.9	9.6	内・輪幅 外・輪幅	地D4750	前	6/32	黒地、墨書き

第10表 出土遺物觀察表¹⁰

第11表 出土遺物觀察表⑪

番号	実測番号	出土地點	遺物	器種記載	正 面 (cm)			調査往來の特徴	色 調	胎土	残存度	備考		
					12時	1時	その他の							
624	08004	13	Pv12	陶器		8.8	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R1-12	黒面			
625	08002	G3	Pv12	陶器		13.8	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面、17世紀後			
626	08002	C22	Pv12	土器部	8.0		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
627	08004	H2	Pv12	土器部	9.8		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
628	08011	C22	Pv12	土器部	10.7		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
629	08004	F32	Pv12	土器部	10.2	1.4	内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
630	08011	J32	Pv14	土器部	10.0	2.0	内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
641	08007	H2	Pv12	土器部	10.0		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
642	08007	K42	Pv12	土器部	10.6		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
643	08004	B22	Pv12	土器部	10.6		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
644	08006	B22	Pv12	土器部	10.6		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
645	08005	D32	Pv12	土器部	10.6		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
646	08009	C22	Pv12	土器部	14.0	2.1	内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
647	08008	H2	Pv14	土器部	12.6		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
648	08008	F32	Pv12	山形部	14.0		内 外 内 外 内 外	内 外 内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外 内 外	黒	R2-12	黒面		
649	08011	G22	Pv12	陶器部	9.0	6.3	5.2	内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.2 内(G22)Y3.2	黒	S-12	黒面、直筒風か。17世紀後 付近見聞	
650	08008	E22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	黒面、筋毛口輪。		
651	08011	F22	Pv17	陶器部	9.2		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	黒面、筋毛口輪		
652	08002	J42	Pv12	陶器部	9.2		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
653	08002	F22	Pv12	陶器部	12.3		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
654	08002	B22	Pv12	陶器部	8.8		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
655	08006	K42	Pv11	瓦片・火鉢	10.6		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
656	08005	J42	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
657	08001	E22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
658	08009	G22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
659	08009	C22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
660	08001	C22	Pv12	陶器部	9.2		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
661	08007	B22	Pv11	陶器部	9.2		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
662	08002	E22	Pv12	陶器部	9.3		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
663	08014	J42	Pv12	陶器部	8.4		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
664	08012	J32	Pv12	陶器部	8.3	5.4	37	内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒	
665	08007	C22	Pv11	陶器部	12.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
666	08011	C22	Pv12	陶器部	10.4		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
667	08006	C22	Pv12	陶器部	11.6	5.6	6.6	内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	S-12	黒面	
668	08001	J42	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
669	08002	J42	Pv12	陶器部	11.6		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
670	08008	C22	Pv12	陶器部	12.0	2.5	5.8	内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒	
671	08008	C22	Pv16	陶器部	11.2	32.5	6.0	内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	S-12	直筒	
672	08002	E22	Pv12	陶器部	8.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
673	08001	G22	Pv12	陶器部	11.6		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
674	08001	H2	Pv11	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
675	08002	E22	Pv12	陶器部	11.6		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
676	08001	H2	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
677	14704	F32	Pv11	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
678	14801	D32	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
679	14801	E22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
680	14801	CW2	Pv11	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
681	14802	G22	Pv12	陶器部	10.0		内 外 内 外	内 外 内 外	直筒。内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
682	08007	A22	Pv12	陶器部	12.4		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
683	08010	E22	Pv12	陶器部	12.0		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
684	08001	D2	Pv12	陶器部	12.2		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
685	08008	E22	Pv12	陶器部	12.2		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
686	08008	E22	Pv12	陶器部	12.2		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
687	08006	D2	Pv12	陶器部	12.6		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
688	08006	E22	Pv12	陶器部	12.6		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
689	08006	E22	Pv12	陶器部	12.6		内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	R1-12	直筒		
690	08012	J32	Pv12	土器部	4.9×1.2	30.0	g	内 外 内 外	内 外 内 外	内(G22)Y3.1 内(G22)Y3.1	黒	定否		
691	08001	F22	Pv12	陶器部	8.4	3.8	4.3	内 外 内 外	内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外	黒	11-12	黒面	
692	08012	G22	Pv12	陶器部	8.4		2.9	内 外 内 外	内 外 内 外	白地に黒 内 外 内 外	黒	11-12	黒面	

第12表 出土遺物観察表②

番号	実測番号	出土地	遺構	器種記載	品 質 (%)			調査往來の特徴	色 調	胎土	残存度	備考	
					120	留出	その他の						
601	0850	E2.2	Pv12	陶器 陶	80.0			内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/2-12	黒前	
603	0870	E2.2	Pv13	陶器 陶			36	内 陶器 陶	白地に黒	黒	E1-12	黒前	
604	0870	E2.2	Pv14	陶器 陶			35	内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/2-12	黒前	
605	0890	E2.2	Pv15	陶器 陶			64	内 陶器 陶	高さ: 90.0(10.0H: 5) 幅: 80.0(30.0W: 5)	黒	0/3-12	黒前、蛇の目軸渋が、背面斜行	
606	0900	E2.2	Pv16	陶器 陶	9.8	2.6	26	内 陶器 陶	白地に黒、朱	黒	1/2-12	黒前、蛇の目軸渋が、色斑	
607	0950	J2.2	Pv17	陶器 陶			40	内 陶器 陶	白	黒	0/4-12	黒前、色斑渋、17世紀末	
608	0950	J2.2	Pv18	陶器 陶			42	内 陶器 陶	ロクロケズリ	白	0/3-12	黒前、蛇の目軸渋が、色斑	
609	0950	J2.2	Pv19	陶器 陶			40	内 陶器 陶	白地に黒	黒	0/4-12	黒前	
700	1150	K2.2	混合層	陶器 陶	10.8	3.7	48	内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/2-12	黒前、1600年代	
701	0940	C2.2	Pv24	陶器 陶	14.0			内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/2-12	黒前	
702	0940	C2.2	Pv25	陶器 陶	11.0			内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/1-12	黒前	
703	0950	D2.2	Pv26	陶器 陶	11.6	3.3	40	内 陶器 陶	ロクロナダ ロクロナダ、側面凸台	白地に黒	黒	2/12	黒前、蛇の目軸渋が
704	0950	D2.2	Pv27	陶器 陶	10.9	2.6	66	内 陶器 陶	白地に黒	黒	1/4-12	黒前	
705	0950	D2.2	Pv28	陶器 陶			6.0	内 陶器 陶	白地に黒	黒	0/3-12	黒前	
706	0950	F2.2	Pv29	陶器 陶	10.7			内 陶器 陶	白	黒	1/1-12	黒前、白斑	
707	0950	H2.2	Pv30	陶器 陶	4.3			内 陶器 陶	白	黒	1/2-12	黒前	
708	0950	H2.2	Pv31	陶器 陶			3.8	内 陶器 陶	高さ: 白 幅: 80.0(30.0W: 5)	黒	0/4-12	黒前	
709	0950	J2.2	Pv32	陶器 陶			2.6	内 陶器 陶	ロクロナダ	白	0/3-12	薄び、白斑	
710	0900	G2.2(G2.2/Pv2)	陶器 陶	3.1	1.4	1.4	内 陶器 陶	ロクロナダ	白	黒	不定	ミクニア。18世紀末	
711	1320	H2	混合層	土器類	8.0	1.1		内 陶器 陶	ロクロナダ ロクロナダ、ナダ ロクロナダ、ナダ	側面凸台	黒	6-12	不明
712	1320	H2	混合層	土器類	8.8	1.2		内 陶器 陶	ロクロナダ ロクロナダ、ナダ ロクロナダ	白地に黒、スリガサ ロクロナダ、ナダ、スリガサ	黒	1/4-12	不明
713	1200	E1	混合層	陶器 陶	12.6	5.0	50	内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 5) 幅: 80.0(30.0W: 5)	黒	2/12	黒前、涼風
714	1200	E1	混合層	陶器 陶	10.0			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 90.0(24.0H: 5) 幅: 80.0(30.0W: 5)	黒	1/2-12	黒前、頭目口銘
715	1350	F2	混合層	陶器 陶	11.6			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 2) 幅: 80.0(30.0W: 2)	黒	1/3-12	不明
716	1300	C1	混合層	陶器 陶			36	内 陶器 陶	側面凸台	黒	不定	吉良家	
717	1220	J2	混合層 半瓦瓦	陶器 陶	8.8			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 2) 幅: 80.0(30.0W: 2)	黒	1/3-12	高さ差
718	1200	B2	混合層	陶器 陶	4.0			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 2) 幅: 80.0(30.0W: 2)	黒	0/2-12	高さ差
719	1200	R2	混合層	陶器 陶	4.8			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 2) 幅: 80.0(30.0W: 2)	黒	0/2-12	高さ差
720	1200	E2	混合層	陶器 陶	8.2	3.25	40	内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 2) 幅: 80.0(30.0W: 2)	黒	5-12	黒前、頭目口銘、18世紀初
721	1220	E2	混合層	陶器 陶				内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 3) 幅: 80.0(30.0W: 3)	黒	1/1-12	黒前、18世紀初
722	1200	C2	混合層	陶器 陶	12.0			内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 3) 幅: 80.0(30.0W: 3)	黒	1/3-12	黒前
723	1200	C3	混合層	陶器 陶	12.0	3.2	56	内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 3) 幅: 80.0(30.0W: 3)	黒	2/12	黒前、高さ差
724	1300	C3	混合層	陶器 陶	2.2	1.8		内 陶器 陶	ロクロナダ	高さ: 80.0(23.0H: 3) 幅: 80.0(30.0W: 3)	黒	11/12	伊勢、正徳風、鑿文「□」, 吉良家
725	1200	E3	混合層	陶器 陶	9.6			内 陶器 陶	白地に黒	白	1/4-12	黒前、正徳風	
726	1200	F3	混合層	陶器 陶	9.8	2.95	57	内 陶器 陶	白地に黒	白	1/1-12	黒前	
727	1300	G4	混合層	陶器 陶			4.2	内 陶器 陶	白地に黒	白	0/5-12	黒前、細口文	
728	1200	E3	混合層	陶器 陶			3.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	1/1-12	黒前、吉良家	
729	1300	K2	混合層	陶器 陶	6.0	4.5	2.8	内 陶器 陶	白地に黒	白	3/12	黒前、吉良家	
730	1150	C1	混合層	陶器 陶	10.4	6.0	5.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	1/6-12	黒前	
731	1300	I3	混合層	陶器 陶	8.4			内 陶器 陶	白地に黒	白	1/4-12	黒前、吉良家	
732	1200	M2	混合層	陶器 陶	7.3	4.8	2.5	内 陶器 陶	白地に黒	白	2/12	黒前、17世紀4/4	
733	1300	H2	混合層	陶器 陶	8.0	5.6	1.0	内 陶器 陶	白地に黒	白	3/12	黒前	
734	1140	C1	混合層	陶器 陶				内 陶器 陶	白地に黒	白	1/12	黒前、17世紀中	
735	1212	E2	混合層	陶器 陶	9.6			内 陶器 陶	白地に黒	白	1/3-12	黒前	
736	1200	C1	混合層	陶器 陶			4.0	内 陶器 陶	白地に黒	白	1/1-12	黒前、吉良家	
737	1200	H2	混合層	陶器 陶			3.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	0/3-12	黒前	
738	1200	L2	混合層	陶器 陶	9.2			内 陶器 陶	白地に黒	白	1/2-12	黒前	
739	1200	F2	混合層	陶器 陶	9.7	2.3	5.8	内 陶器 陶	白地に黒	白	1/12	黒前、17世紀中	
740	1200	E3	混合層	陶器 陶			6.0	内 陶器 陶	白地に黒	白	0/3-12	黒前	
741	1200	E3	混合層	陶器 陶			11.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	0/1-12	黒前	
742	1300	J1	混合層 頭頂付1	陶器 陶			3.6	内 陶器 陶	ロクロナダ	白地に黒	0/6-12	黒前、吉良家	
743	1300	E1	混合層	陶器 陶	8.8			内 陶器 陶	白地に黒	白	1/2-12	黒前、18世紀末~19世紀初	
744	1200	E1	混合層	陶器 陶	5.6	4.6	3.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	5-12	黒前	
745	1300	C3	混合層	陶器 陶	6.0	5.1	4.0	内 陶器 陶	白地に黒	白	5-12	黒前	
746	1300	E2	混合層	陶器 陶	5.8	4.3	3.6	内 陶器 陶	白地に黒	白	5-12	黒前	
747	1400	A1	混合層	陶器 陶	4.7	3.5	1.5	内 陶器 陶	ハケヌ	白	6-12	黒前	
748	1100	C1	混合層	陶器 陶	3.8			内 陶器 陶	ロクロナダ	白地に黒	1/2-12	黒前、19世紀初	
749	1200	E2	混合層	陶器 陶			13.2	内 陶器 陶	ロクロナダ ロクロナダ	高さ: 100.0(10.0H: 3) 幅: 10.0(3.0W: 3)	黒	1/3-12	黒前

第13表 出土遺物観察表⑬

番号	実測番号	出土位置	遺構	基盤形状	基盤			調査注記の特徴	色 調	断面	残存度	備考	
					12cm	断面	その他の						
750	13070	82	住吉塙	階段				内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	赤地：白地23YR3/3 黒地：45-46黄褐色10YR3/3	黒	R2/32	鹿戸南遺	
751	13073	85	住吉塙	階段			94	内：糊地 外：ロココゾ、リコロナゾ、糊地白地	赤地：白地23YR3/2 黒地：45-46黄褐色10YR3/2	黒	R2/32	鹿戸南遺	
752	13082	81	住吉塙	平瓦					白地23YR3/2	黒			
753	13094	80	住吉塙	板瓦瓦					白地23YR3/2	黒		左春三巴	
754	14001	81	土	板瓦瓦					白地23YR3/2	黒		左春三巴	
755	13001	85	住吉塙	階段	43.4			内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、糊地白地、糊地	赤地：白地23YR3/3 黒地：45-46黄褐色10YR3/3	黒	やや黒	115/32	BD
756	13200	132	住吉塙	土塁部	7.6	3.4		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	白地23YR3/4	やや黒	113/32	黒C 壁成不良	
757	13004	132	住吉塙	土塁部	8.8	2.1		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	白地23YR3/4 にあわせ跡23YR7/4	やや黒	113/32	壁D	
758	13006	133	住吉塙	土塁部	8.2	9.2		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	白地23YR3/4 にあわせ跡23YR8/4	黒	113/32	BD	
759	14100	92	住吉塙	土塁部	9.2	1.5		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	C-A-45-46黄褐色10YR3/4	黒	7/32	BD	
760	11101	23	住吉塙	土塁部	9.2	1.4		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	にあわせ跡23YR7/4	黒	112/32	BD	
761	13032	102	住吉塙	土塁部	9.6	1.6		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	白地23YR3/6	黒	111P定期		
762	14001	102	住吉塙	土塁部	9.8	1.6		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	にあわせ跡23YR7/4	黒	4/32	BD	
763	13076	22	住吉塙	土塁部	10.0	1.5		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	白地23YR3/4	やや黒	113/32	BD	
764	13001	23	住吉塙	土塁部	10.0	1.2		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	にあわせ跡23YR8/4	やや黒	114/32	BD 左雨漏	
765	13026	23	住吉塙	土塁部	10.0	1.2		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	白地23YR3/4	やや黒	114/32	BD	
766	13003	93	住吉塙	土塁部	11.3	1.6		内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	白地23YR3/4 にあわせ跡23YR8/4	やや黒	6/32	見込みにつまみ有	
767	12500	A43	住吉塙	砂防壁	35.2			内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	にあわせ跡23YR7/4	黒	112/32		
768	11001	A42	住吉塙	砂防壁	36.0			内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス	にあわせ跡23YR8/4	やや黒	111/32		
769	12204	F42	住吉塙	砂防壁	31.9			内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	にあわせ跡23YR7/3	白地	112/32	内外脚踏行者	
770	12000	A43	住吉塙	砂防壁	32			内：糊地 外：ロココゾ、スピギササス、チヂ	白地23YR7/3	黒	113/32		
771	13002	K42	住吉塙	土壁	45×18.8 1.7		373.5 g	チヂ、スピギササス	白地23YR3/6	やや黒	完形		
772	12003	D2	住吉塙	階段	9.2	2.8	3.8	内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 内：糊地 外：糊地	黒	111P定期		
773	13006	C22	住吉塙	山頂部	14.7			内：糊地 外：糊地	白地23YR3/6	やや黒	112/32		
774	14100	G47	住吉塙	階段	10.3	0.7	37	内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/7	黒	1/32	肥前、頭日目脚、1680年代	
775	13006	G12	住吉塙	階段	1.8			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/7	やや黒	108/32	肥前、頭日目脚	
776	10005	E22	住吉塙	階段	10.8			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/5 にあわせ跡23YR8/2	黒	112/32	肥前、頭日目脚	
777	13004	J42	住吉塙	階段	9.8	3.2	3.5	内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/4 にあわせ跡23YR8/1	黒	5/32	肥前、頭日目脚	
778	10000	D42	住吉塙	階段	10.0			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/3 にあわせ跡23YR8/3	黒	111/32	肥前、頭日目脚	
779	10570	E22	住吉塙	階段	8.6			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/4 にあわせ跡23YR8/2	黒	112/32	肥前、頭日目脚	
780	13008	E22	住吉塙	階段	8.3	6.1	37	内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/5 にあわせ跡23YR8/1	黒	5/32	肥前、頭日目脚、16世纪前	
781	10003	E22	住吉塙	階段	9.0	4.5	4.4	内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/3 にあわせ跡23YR8/3	黒	3/32	肥前、頭日目脚	
782	10009	E3 E4	住吉塙	階段	8.4			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/2 にあわせ跡23YR8/2	黒	112/32	肥前、頭日目脚、16世纪前	
783	10798	E22	住吉塙	階段	8.0			内：糊地 外：糊地	赤地：白地23YR3/6 黒地：45-46黄褐色10YR3/2 にあわせ跡23YR8/2	黒	112/32	肥前、頭日目脚	
784	09001	C22	住吉塙	階段	10.3			内：糊地 外：糊地	赤地23YR3/2	やや黒	111/32	肥前、空腹風	
785	11004	E22	住吉塙	階段	12.3			内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	111/32	肥前、空腹風	
786	12005	J42	住吉塙	階段	12.0	3.5	4.3	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	2/32	肥前、空腹風、18世紀風	
787	12200	H22	住吉塙	階段	12.6	4.5	4.2	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	3/32	肥前、空腹風、18世紀風	
788	10020	D42	住吉塙	階段	12.2	4.3	4.2	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	6/32	肥前、空腹風	
789	10002	E22	住吉塙	階段	4.7			内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ/白ナゾ	黒	108/32	肥前、空腹風、MIO「清水」	
790	10017	H22	住吉塙	階段	5.3			内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ/白ナゾ	黒	6/32	肥前、空腹風、別所「木子屋」	
791	12208	H22	住吉塙	階段	5.0			内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	106/32	肥前、空腹風、別所	
792	10004	E22	住吉塙	階段	11.2			内：糊地 外：糊地	45-46黄褐色10YR3/2	黒	113/32	肥前、空腹風	
793	11041	K42	住吉塙	階段	11.2	5.3	4.4	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	3/32	鹿戸南遺、17世纪前	
794	11045	K42	住吉塙	階段	11.0	6.3	4.4	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	5/32	鹿戸南遺、17世纪前	
795	12000	K42	住吉塙	階段	10.0			内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	112/32	鹿戸南遺	
796	09006	C22	住吉塙	階段	10.8	4.8	4.4	内：糊地 外：糊地	ロコロナゾ	黒	2/32	鹿戸南遺	
797	13004	F42	住吉塙	階段	9.6	5.3	4.7	内：糊地 外：糊地	カキメ	やや黒	1/32	鹿戸南遺	
798	10008	E22	住吉塙	階段	9.7			内：糊地 外：糊地	カキメ	やや黒	113/32	鹿戸南遺	
799	10002	E22	住吉塙	階段	9.7			内：糊地 外：糊地	カキメ	やや黒	113/32	鹿戸南遺	
800	13002	F22	住吉塙	階段	9.0	6.4	4.4	内：糊地 外：糊地	カキメ	黒	7/32	鹿戸南遺	
801	13006	H22	住吉塙	階段	9.0	5.1	4.0	内：糊地 外：糊地	カキメ	黒	111P定期	鹿戸南遺、18世纪中~後	
802	10007	E22	住吉塙	階段	9.0	6.0	3.8	内：糊地 外：糊地	カキメ	やや黒	2/32	鹿戸南遺	

第14表 出土遺物観察表⑭

番号	実測番号	出土位置	遺傳	器種記載	品 質 (cm)			調査注文の特徴	色 調	胎土	保存度	備考
					120	100	その他の					
803	10006	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.2	5.1	39	内 施錆 内 施錆、カキメ	赤地 施錆	土	7/12	出土未調
804	11101	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.0			内 施錆 内 施錆、カキメ	赤地 施錆	土	1/12-32	出土未調
805	10001	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	10.0			内 施錆 内 施錆	赤地 施錆	土	1/12-32	出土未調
806	10003	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.3	6.5	48	内 施錆 内 施錆	赤地 施錆	土	1/12-32	出土未調
807	11006	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.7			内 施錆 内 施錆	赤地 施錆	土	5/12	出土未調
808	12207	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	7.0	5.4	30	内 施錆 内 施錆	白地 施錆	土	1/12-32	出土未調
809	14011	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	11.4	6.1	6.0	内 施錆 内 施錆	赤地 施錆	土	1/12	出土未調、太白手、18世紀末
810	14009	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	10.0			内 施錆 内 施錆	赤地 施錆	土	1/12	出土未調、台形のA 内 施錆
811	10006	G2.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.9	5.9	42	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	8/12	出土未調、御茶碗
812	10007	G2.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.9	5.8	4.6	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	7/12	出土未調、御茶碗
813	10005	G2.2	出土層	陶器 施錆系陶	11.6			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、御茶碗
814	10002	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.0			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
815	11108	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	11.8			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
816	10004	H2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.4			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
817	12008	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	2.6			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
818	12500	F2.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.0			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
819	11204	G3.2	出土層	陶器 施錆系陶	2.5	5.9	39	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	6/12	昭和、18世紀末～19世紀初
820	10012	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	13.4	4.5	4.8	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	4/12	肥前、17世紀後
821	12200	F2.2	出土層	陶器 施錆系陶	3.3			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	8/12-32	肥前、近江風か
822	10007	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	10.1			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
823	00004	C2.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.6	5.0	3.9	内 施錆 内 施錆	白地 内 施錆	土	6/12	出土未調
824	10102	G3.2	出土層	陶器 施錆系陶	4.4			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
825	11200	G3.2	出土層	陶器 施錆系陶	3.8			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
826	00004	C2.2	出土層	陶器 施錆系陶	4.5			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
827	12004	B4.2	出土層	陶器 施錆系陶	5.2			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
828	10005	D2.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.6			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	2/12	出土未調
829	10003	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	10.8			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
830	12104	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.0	5.0	34	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、18世紀末～19世紀初
831	12201	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.0			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、19世紀
832	12004	H3.2	出土層	陶器 施錆系陶	9.2	5.2	31	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、19世紀初
833	12002	F3.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.9	2.7	2.3	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、17世紀中～後
834	10004	D3.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.1	2.6	2.3	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	10/12-32	出土未調、17世紀後
835	12000	B2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.8	3.3	8.2	内 施錆 内 施錆	赤地 點付マド	土	1/12-32	肥前、17世紀
836	10001	A2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.4	2.7	4.8	内 施錆 内 施錆	ロクロナダ、ロクロケイズリ	土	7/12	出土未調、17世紀
837	10001	D3.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.6	2.8	2.0	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調、18世紀初
838	10004	D2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.6	3.2	7.8	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	4/12	出土未調
839	11002	J4.2	出土層	陶器 施錆系陶	3.2	2.6	2.2	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	14/12-32	出土未調、17世紀後
840	10002	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	13.2	2.5	6.8	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	4/12	出土未調、埋甕、17世紀後
841	12001	E3.2	出土層	陶器 施錆系陶	7.3			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	10/12-32	出土未調、17世紀後
842	10003	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.2			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	出土未調
843	12001	H2.2	出土層	陶器 施錆系陶	6.8	2.3	3.0	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	6/12	出土未調、太白手
844	11208	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.9	3.4	4.8	内 施錆 内 施錆	ロクロナダ、圓筒凸台	土	7/12	肥前、18世紀
845	11202	G2.2 14	出土層	陶器 施錆系陶	5.6			内 施錆 内 施錆	ロクロケイズリ。ロクロナダ	土	8/6-32	肥前、18世紀
846	11008	A2.2	出土層	陶器 施錆系陶	13.2	2.5	6.8	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	4/12	出土未調、埋甕、18世紀初
847	10010	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	16.6	3.6	34.5	内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロケイズリ	土	1/12-32	肥前
848	12004	C3	出土層	陶器 施錆系陶	39.0			内 ロクロナダ 内 ロクロナダ	赤地 ロクロナダ	土	1/12-32	肥前
849	12003	A2.2	出土層	陶器 施錆系陶	4.7			内 施錆 内 施錆	赤地 施錆、削出凸台、ロクロナダ	土	8/6-32	肥前、近畿風、剥口(木口)
850	12007	K2.2	出土層	陶器 施錆系陶	4.6			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロナダ、削出凸台	土	10/12-32	肥前、近畿風
851	13009	H2.2	出土層	陶器 施錆系陶	3.0			内 施錆 内 施錆	赤地 ロクロナダ	土	13/12-32	肥前
852	13001	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	40.8			内 ロクロナダ 内 ロクロナダ	赤地 ロクロナダ	土	1/12-32	肥前、17世紀
853	00074	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	20.0			内 ニヨモスナナ 内 ニヨモスナナ	赤地 ニヨモスナナ	土	4/12-32	肥前
854	12008	J4.2	出土層	陶器 施錆系陶	21.0			内 施錆 内 施錆	赤地 黒刷毛	土	1/12-32	肥前
855	12006	J2.2	出土層	陶器 施錆系陶	30.0			内 施錆 内 施錆	赤地 黒刷毛	土	8/6-32	肥前
856	10730	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	8.0			内 ロクロナダ 内 ロクロナダ	赤地 ロクロナダ	土	4/12-32	肥前
857	12012	H2.2	出土層	陶器 施錆系陶	12.8			内 施錆 内 施錆	赤地 黒刷毛	土	1/12-32	肥前
858	13002	E2.2	出土層	陶器 施錆系陶	13.0			内 ロクロナダ 内 ロクロナダ	赤地 ロクロナダ	土	8/6-32	肥前

第15表 出土遺物観察表⑯

番号	実測番号	出土地点	遺物	器種記号	品目			測量注目特徴	色調	断面	残存度	備考	
					120	100	その他の						
860	1206	10.2	陶器	陶器		54		内:ロクロナメ 外:施釉、ロクロナメ	赤土	断2/12	3		
861	11902	E3.2	陶器	陶器		26		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半-19世紀初頭	縫合部施釉、足外、 口部及底-18世紀初頭	
862	11406	E3.2	陶器	陶器		64		内:施釉、ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半-19世紀初頭	縫合部、内側-18世紀後半	
863	12030	H1.2	陶器	陶器	4.2	5.9	60	内:施釉、施色 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半		
864	11796	G2.2	陶器	陶器	9.4	3.2		内:施釉、施色 外:施釉	赤土	断2/12	17世紀末-18世紀前半		
865	13007	E3.2	陶器	陶器	12.0			内:施釉、ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
866	11102	E3.2	陶器	陶器	11.8			内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
867	10004	E2.2	陶器	陶器	11.6			内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
868	09065	C2.2	陶器	陶器	10.8	6.1		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半		
869	10007	G4.2	陶器	陶器		65		内:ロクロナメ 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
870	12104	F2.2	陶器	陶器		29		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
870	13005	G3.2	陶器	陶器	9.2	5.2		内:施釉、ロクロナメ 外:施釉、ロクロナメ、ナメ、施付ナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
871	12500	A2.2	陶器	陶器	9.6	5.4		内:ロクロナメ 外:施釉、ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
872	13211	J4.2	陶器	陶器				内:ロクロナメ 外:施釉、施色、ビニキナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
873	11101	K3.2	陶器	陶器	12.6	2.4		内:ロクロナメ 外:施釉、ロクロナメ、ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
874	10004	D2.2	陶器	陶器				内:ミネラルナメ、ナメ 外:施釉、ナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
875	12508	A2.2	陶器	陶器		47		内:施釉 外:施釉、白	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
876	13001	F2.2	陶器	陶器	26.4			内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
877	13005	G2.2	陶器	陶器		22.6		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
878	12103	F2.2	陶器	陶器	17.1	9.2	92	内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
879	10104	C2.2	陶器	陶器	26.1	12.0	15.8	内:施釉 外:ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
880	10014	D2.2	陶器	陶器		8.0		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
881	09007	C2.2	陶器	陶器	13.6	8.0	7.2	内:施釉 外:施釉、セズミ丸ナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
882	10001	D2.2	陶器	陶器		12.7		内:ロクロナメ	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
883	11001	E3.2	陶器	陶器		26.0		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
884	13001	J4.2	陶器	陶器		26.0		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
885	14001	E3.2	陶器	陶器		26.0		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
886	13002	D2.2	陶器	陶器		36.2		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
887	14002	B2.2	陶器	陶器		34.1		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
888	13001	D2.2	陶器	陶器		14.4		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
889	15101	B2.2	陶器	陶器		10.6		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
890	15102	B2.2	陶器	陶器		14.2		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
891	15002	C2.2	陶器	陶器		11.6		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
892	13002	E2.2	陶器	陶器		13.6		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
893	13002	H1.2	陶器	陶器		15.2		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
894	15002	D2.2	陶器	陶器		15.2		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
895	15002	F2.2	陶器	陶器		12.8		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
896	12004	Z2.2	陶器	陶器		16.0		内:施釉 外:施釉	赤土	断2/12	18世紀後半	縫合部	
897	13003	J4.2	陶器	陶器		10.0	2.9	4.0	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	
898	11006	G2.2	陶器	陶器		4.7		内:施釉 外:ロクロナメ	白	断2/12	相模伊豆里	内:施釉、ロクロナメ	
899	11002	陶	陶	陶器		4.1		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	白地に施釉	
900	12007	E2.2	陶器	陶器		4.1		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、1600年代	
901	12006	F2.2	陶器	陶器		4.5		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、1600-1680年代	
902	11001	H2.2	陶器	陶器		4.5		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、一二次成層	
903	10008	D2.2	陶器	陶器		4.2	1.7	4.8	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前
904	10008	D2.2	陶器	陶器		4.2		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、一次焼成、17世紀後半	
905	10005	E2.2	陶器	陶器		4.3		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、一次焼成	
906	10007	E2.2	陶器	陶器		9.0		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前、薄手	
907	11001	E2.2	陶器	陶器		10.0		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
908	11001	E2.2	陶器	陶器		9.6	3.6	5.8	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前
909	10509	E2.2	陶器	陶器		10.0		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
910	11007	A2.2	陶器	陶器		3.8		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
911	13111	M2.2	陶器	陶器		10.0		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
912	11004	J2.2	陶器	陶器		10.0	5.6	2.0	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前
913	10006	E2.2	陶器	陶器		9.4		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
914	09001	C2.2	陶器	陶器		10.0	3.7	3.9	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前
915	09006	C2.2	陶器	陶器		10.2		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
916	10004	E2.2	陶器	陶器		10.8		内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前	
917	10001	E2.2	陶器	陶器		10.1	5.4	3.6	内:施釉 外:施釉	白	断2/12	肥前	肥前

第16表 出土遺物観察表⑯

第17表 出土遺物觀察表⑯

番号	実物番号	材木寸法	表面	着色	各部寸法	部品名	調査方法の特徴		色 調	駄目	再作成	備考
							12時	過度	その他			
308	12202	G23	盆鉢	絞印	124	25	76	内・輪縁	白地に藍	黒	3/12	駄前
309	13001	G23	盆鉢	絞印	80	60	外・輪縁	白地に藍	黒	駄2/12	駄前	
306	10504	E23	盆鉢	絞印	38	—	—	内・輪縁	タツリ	黒	10/32	駄前
301	10630	E23	盆鉢	絞印	44	—	—	内・輪縁	ロコロナド	白	駄5/32	駄前, 母の日駄前花
302	10002	E23	盆鉢	絞印	44	—	—	内・輪縁, ロコロナド	素地, 磁土(30-1) 鉢, オリーブ(0.5G)7/1	黒	駄6/32	駄前, 母の日駄前花, 有輪鉢
303	10802	E23	盆鉢	絞印	80	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12002	E23	盆鉢	絞印	123	24	79	内・輪縁	白地に藍	黒	11/32	駄前
303	12002	E23	盆鉢	絞印	72	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	10704	E23	盆鉢	絞印	84	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	09503	B23	盆鉢	絞印	180	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	11/32	駄前, 駄前花, 実充率高
308	10802	E23	盆鉢	絞印	136	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12006	H13	盆鉢	絞印	140	28	88	内・輪縁	白地に藍	黒	2/32	駄前
300	12202	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	駄4/32	駄前, 18世紀前~中
301	09001	C23	盆鉢	絞印	124	26	74	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	2次地底面
302	12004	F23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前, 18世紀後
303	13001	H43	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12001	H13	盆鉢	絞印	143	12	93	内・輪縁	白地に藍	黒	2/32	駄前, 18世紀後~19世紀初
305	12002	H23	盆鉢	絞印	72	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	11/32	駄前, 駄前花, 1-7世紀末
306	12504	H23	盆鉢	絞印	72	—	—	内・輪縁	白	黒	11/32	駄前, 白地
307	10004	D23	盆鉢	絞印	66	—	—	内・輪縁	白	黒	10/32	駄前
308	11009	H13	盆鉢	絞印	50	10	33	内・輪縁	白	黒	5/32	駄前
309	13214	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白	黒	駄前	駄前
310	12003	H23	盆鉢	絞印	44	20	14	内・輪縁	白地に木	黒	6/32	駄前, 桜花
300	10003	C33	盆鉢	絞印	238	50	88	内・輪縁	素地, 磁土(30-1) 鉢, 磁土(30-2) 鉢, 磁土(30-3) 鉢	黒	2/32	駄前, 駄前花付, 17世紀後
302	12007	F23	盆鉢	絞印	96	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	10018	E23	盆鉢	絞印	54	—	—	内・輪縁	素地, 白, ロコロナド	黒	10/32	駄前, 駄前花付
304	10011	E23	盆鉢	絞印	44	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前, ちり丸子
305	10009	E23	盆鉢	絞印	33	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	7/32	駄前
306	10013	E23	盆鉢	絞印	40	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	5/32	駄前, 駄前花
307	11001	D23	盆鉢	絞印	41	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	6/32	駄前
308	12006	E23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12002	E23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	10002	D23	盆鉢	絞印	40	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	5/32	駄前
301	12004	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12007	F23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12008	H13	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12009	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12001	H13	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12002	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12003	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12004	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12005	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12006	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12007	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12008	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12009	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12010	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12011	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12012	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12013	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12014	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12015	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12016	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12017	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12018	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12019	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12020	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12021	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12022	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12023	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12024	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12025	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12026	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12027	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12028	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12029	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12030	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12031	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12032	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12033	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12034	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12035	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12036	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12037	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12038	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12039	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12040	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12041	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12042	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12043	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12044	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12045	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12046	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12047	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12048	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12049	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12050	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12051	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12052	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12053	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12054	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
309	12055	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
310	12056	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
301	12057	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
302	12058	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
303	12059	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
304	12060	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
305	12061	H23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
306	12062	G23	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
307	12063	G1	盆鉢	絞印	—	—	—	内・輪縁	白地に藍	黒	10/32	駄前
308	12064	G1	盆鉢	絞印	92	47	38	内・輪縁	白地に藍	黒	11/32	駄前
309	12065	R4	盆鉢	絞印	136	37	82	内・輪縁	白地に藍	白	6/32	駄前
310	12066	R4	盆鉢	絞印	132	48	36	内・輪縁	白地に藍	白	6/32	駄前
301	12067	R4	盆鉢	絞印	80	45	32	内・輪縁	白地に藍	白	1/32	駄前
302	12068	R4	盆鉢	絞印	80	45	32	内・輪縁	白地に藍	白	1/32	駄前
303	12069	R4	盆鉢	絞印	94	47	36	内・輪縁	白地に藍	白	1/32	駄前
304	12070	G1	盆鉢	絞印	72	33	24	内・輪縁				

第18表 出土遺物觀察表¹⁸

第19表 出土遺物觀察表¹⁹

第20表 出土遺物觀察表²⁰

V 結 語

今回の調査は、近世街道沿いの地域を発掘調査することのできる貴重な機会であり、参宮客相手の生業で繁栄した地域の歴史について、少しでも往時をうかがえるような遺構や遺物を見ることができた。

今回調査を行った市場庄遺跡がある六軒町は、松坂城の開城に伴い、城下町の商工業の発展を目指して、伊勢街道のルートが内陸寄りに変更されたことをきっかけに繁栄することとなった。もちろん、それ以前からも道は通じていたと考えられるが、街道沿いに本格的に茶屋や商店、旅籠などが建てられるようになったと考えられるのは、六軒町に街道が通って以降である。それゆえ、調査前から想定されたのは、調査で発見・出土するものの大半は近世、それも江戸時代の中期から後期に由来するということである。

伊勢街道が通るルートは、縄文時代の海岸線の変化に伴って形成された砂堆上にある。そのため、今回の調査区のある場所は、現在の地形図でも周囲の土地より1~2m高くなっている。しかし、それでも三渡川沿いの土地ゆえ、洪水発生時には氾濫した河川水が押し流してきた土砂が大量に堆積するのは砂堆上もそれ以外もあまり変わらない。調査区の掘削を開始して以後悩まされたのは、土層のベースは河川の氾濫に由来する粗砂層であり、遺構検出して掘削を開始すると、遺構の肩からすぐ土が崩れ出し、遺構の形状を保持するのに苦労する状況が続いた。

調査区に広がる焼土層は、火災発生によるものと考えられ、当時の人々の生活面を示すものであろう。土層断面から確認できただけでも3層あり、そのうち下から2層を調査した。下層確認のため掘り下げると海拔0.7mあたりで湧水した。しかし2面調査により、短い期間に河川の氾濫による堆積から生活面の上昇があったことがわかった。出土遺物の傾向から判断すると、1面目は18世紀中葉から後葉にかけて、2面目は17世紀後葉から18世紀前葉にかけての生活面であると考えられる。

江戸時代において、時期を特定する一つの手がか

りと考えられるのは、民家における瓦の使用時期である。8代将軍徳川吉宗の治世において、町人の使用する建物に対する瓦の使用がようやく認められるようになったが、この市場庄遺跡でも、2面目は一部で瓦が出土したものの全体的には少なく、1面目では瓦の出土がそれに比べて増加している。このこととも、それぞれの生活面における時期の違いを反映していると考えられる。

それでは、遺構と遺物について、調査成果をまとめてみたい。

1 遺構について

調査前には、街道沿いの調査区でもあり、当時をしのぶような建物跡の検出を期待していたが、柱穴らしき小穴は多く出土したもの、建物跡として認められるものは1組（S B317）しかなかった。

しかし、参宮客相手に茶屋や旅籠などを営んでいた際に用いられたと考えられる埋甕が1面目で6基、2面目で5基が確認できたした他、埋設された形態を残さないが、甕片が出土する遺構も1面目で5基2面目で5基ある。伊勢街道から東へ10mほど離れた位置から見つかっており、S B317や小穴が多く検出できた位置から考えると、建物の裏手に設けられていたと考えられる。埋甕の用途としては、手洗いや水などの液体を溜めておくものであったと考えられる。

S K240 今回の調査においてよく出土したものの一つに、アカガイの貝殻がある。見つかったものを合計して重さを量ると、約145kgを超え、大型の貝殻でいえば約1600~1700個分に相当する。アカガイの貝殻がまとめて遺棄された遺構がS K240をはじめいくつか検出された。これほど大量な貝殻が遺棄されるということは、調査区の位置から考えれば當時ここにあった茶屋か旅籠で客に供されたものではないかと考えられる。あるいは獲ってきたアカガイを加工し、消費地へ運んだのかも知れない。アカガイの棲息地は内海の中でも河口付近の砂地ではなく、

やや沖に向かった泥地のあたりにあるという。沖に出了船が潮の満ちる頃合いを見計らって、三渡橋のもとまで運んできたのではないかと考えられる。これだけ多量の貝殻がまとまって出土するということは、市場庄遺跡の前の街道を通る参宮客の多さを示している。

S D24 また、建物の周囲にあった溝や、仕切りの跡と考えられる遺構もいくつか見つかっている。S D24は、街道と直交する東西方に石列が並んでいたが、建物や敷地の境目を示していると考えられる。

S D2 南北方向に延びる S D2は、街道沿いに建物との間に位置しているため、道路側講という明確な様相は確認できないが、道路に伴う遺構と考えられる。

片付け土坑 調査面を決定する手がかりとして、火事跡の焼土層を基準にしたが、火事で焼けたものを遺棄したものと考えられる遺構も、検出した遺構のなかで特徴的なものとして挙げられる。市場庄遺跡のある六軒町をはじめ、この周辺の地域は年間を通して風が強いのが特徴であり、火災の発生が多かつたと考えられる。S K282やS K308、S K311は火事で焼けた物をまとめて遺棄した土坑と考えられる。

(鶴田)

2 出土遺物について

出土遺物からみた調査区 遺跡から出土した陶磁器は17世紀後葉から18世紀後葉にかけてのものが中心であり、19世紀のものは比較的少ない。しかし近現代の陶磁器も出土しており、調査区における生活は現代まで継続しているものと考えられる。

2面目の遺構から出土した遺物は、17世紀後葉から18世紀前半のものが中心であり、17世紀前葉及び中葉のものも若干数みられる。磁器はすべて肥前のものである。

1面目では18世紀中葉から後葉にかけてのものが中心である。瀬戸の陶器で肥前磁器を模倣したもの(太白手)が数点みられ、1面目遺構面の上に堆積した包含層からは瀬戸の磁器が若干数出土している。瀬戸の磁器生産磁器は19世紀に入ってからと考えると、1面目遺構面の時期については、時代が降つても18世紀内でおさまると考えられる。

また、参宮街道として賑わったであろうことを示す特徴的な遺物として雁首鏡があるが、陶磁器においても町家ではあまりみられないものも出土している。

陶器について 陶器は、生産地に近い瀬戸美濃のものが多いため、碗・皿のセットものや、大皿は肥前のものが多くみられる。甕では、常滑の焼き締めの弱いものなど、地元で消費するようなものが多くみられる。京・信楽系のものが少ないが、信楽が盛んになるのは、18世紀後半からであるためであろうか。

セットもの 陶磁器のセットものや大皿等宴會に使われるものがみられる。これは武家地などでは具備しなければならないものであるが、町屋の生活では必要とされないものである。参宮者が行きかう旅籠を中心とした街道筋の、客をもてなしていたという特徴を示すものであろう。

景徳鎮 景徳鎮の皿が5点みられる。いずれも明末、17世紀前半のもので、いわゆる肥前磁器の流通が盛んになる前のものである。長崎を経由し大阪や江戸へ運ばれることが多いわけであるが、ここ市場庄においても出土したということは、この地の流通がいかに盛んであったかということを表すと同時に、客をもてなすという特徴を示すものであろう。

土師器 土師器は大部分が近世の南伊勢系である。培塿では、少量だが中北勢系のものも見られる。

寛永通寶 今回の調査区から銭貨は、実測不可のものも含めると98点出土した。また銭貨の種類は読み取れるものは全て「寛永通寶」である。遺構から出土したものは多くなく、調査地全面の至る所からまとまった様子はなくみつかった。埋銭の様相はみられない。このことは、寛永通寶の鋳造年代である寛永13年(1636年)から広く流通した幕末まで、調査地において街道における人の往来や商売が盛んであったことを裏付けるものと考えられる。

焼土層出土遺物 2面目上面の焼土層(2面目包含層)から出土した火を受けた陶磁器は17世紀末から18世紀前葉のものが中心である。S K282をはじめ2面目遺構面の時期とも合致しており、したがって、18世紀前葉に調査区全面に及ぶ火災があったと考えられる。

(谷口)

写

真

図

版

写真図版 1



調査区全貌

調査区北部 1 面目全貌（北東から）



調査区北部 2 面目全貌（北東から）